

ひとり暮らし 編

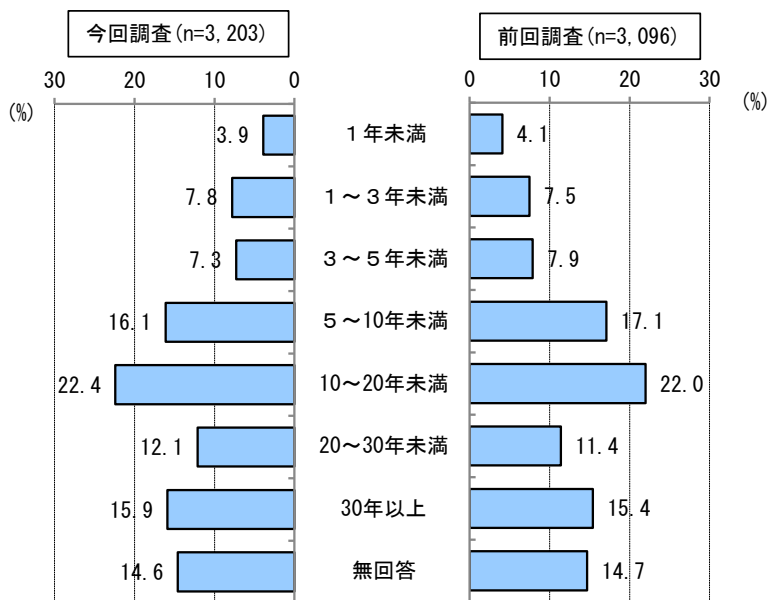
3 ひとり暮らし調査結果

(1) ひとり暮らし調査

問1 ひとりで暮らしている期間

ひとりで住まいの期間はおよそ何年間ですか。(〇はひとつ)

【図1 ひとりで暮らしている期間（経年比較）】



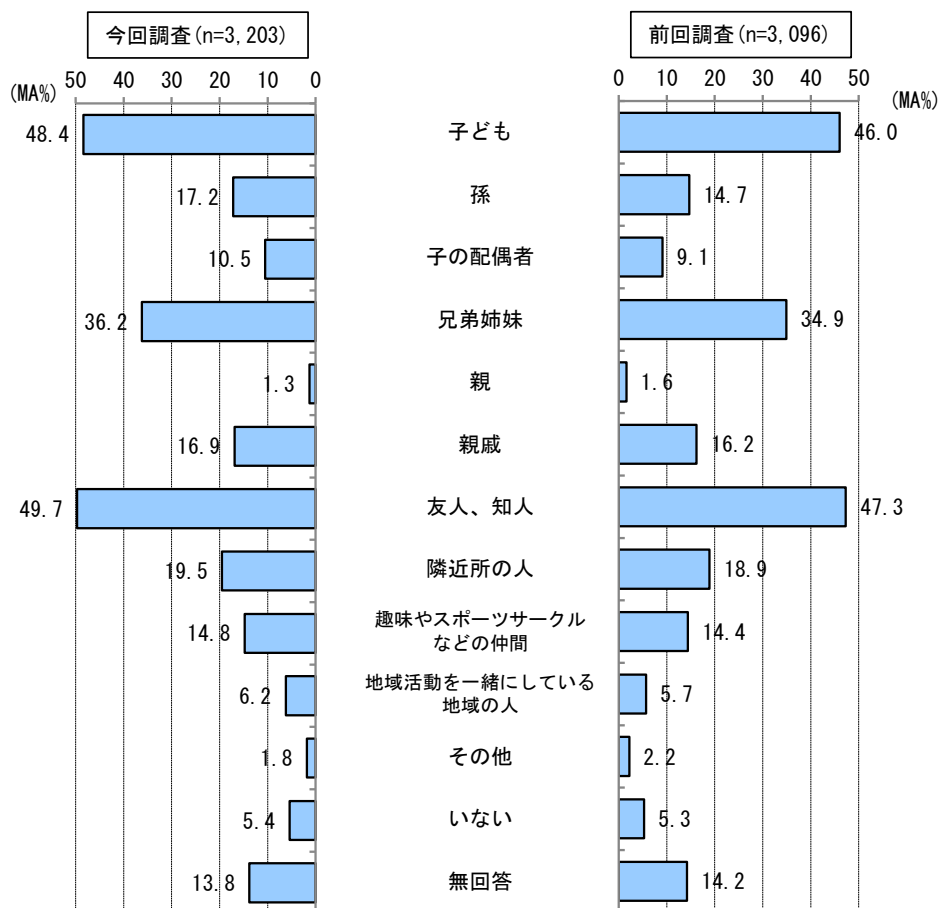
世帯状況で「ひとり暮らし」と回答した人に、ひとりで暮らしている期間をたずねると、「10～20年未満」が22.4%で最も多く、次いで「5～10年未満」が16.1%、「30年以上」が15.9%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図1)

問2 連絡や行き来する相手

あなたは、日頃、電話などを含め連絡を取り合ったり、行き来したりする方はいらっしゃいますか。(〇はいくつでも)

【図2 連絡や行き来する相手（経年比較）】



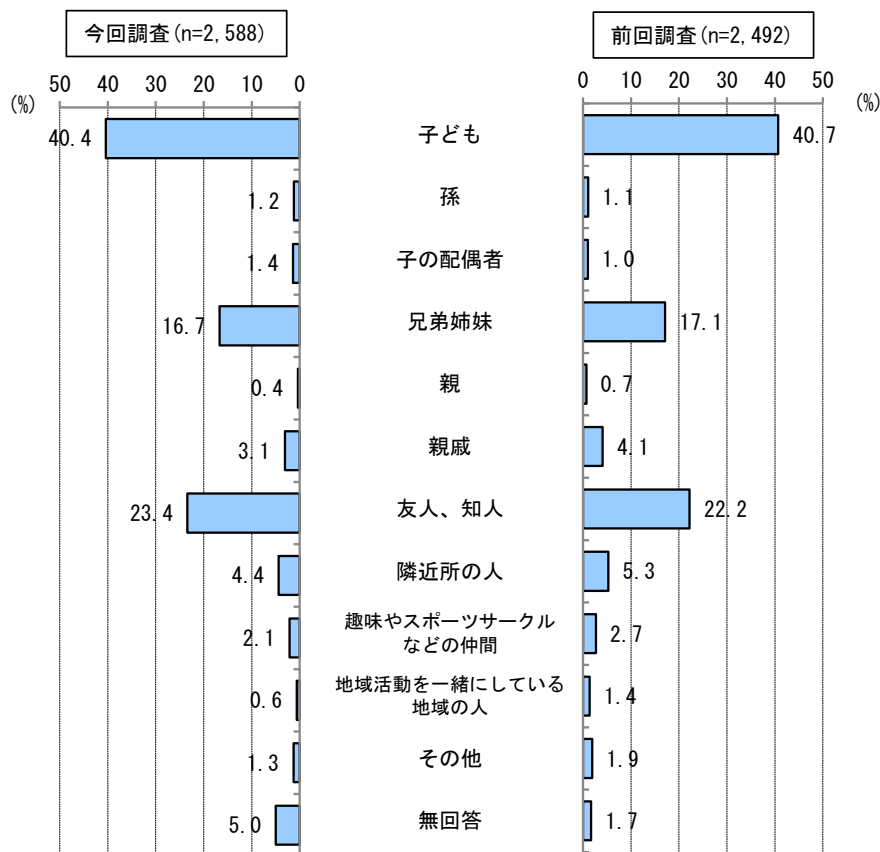
連絡を取り合ったり、行き来したりする相手については、「友人、知人」が49.7%で最も多く、次いで「子ども」が48.4%、「兄弟姉妹」が36.2%となっている。一方「いない」は5.4%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図2)

付問2 一番親しくしている相手

問2で○をつけた方のうち、あなたが、もっともよく行き来したり、一番親しくされている方はどなたですか。番号を1つだけお書きください。

【付図2 一番親しくしている相手（経年比較）】



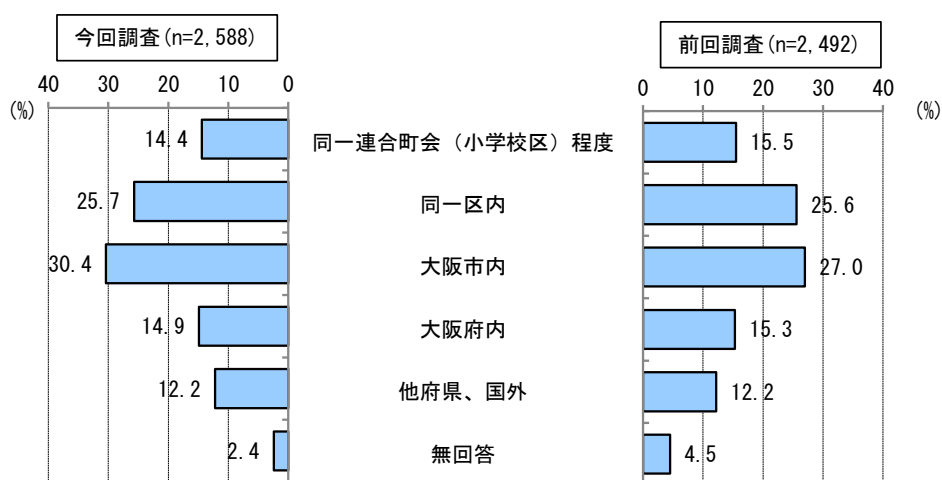
連絡や行き来をする相手のうち、一番親しくしている相手については、「子ども」が40.4%で最も多く、次いで「友人、知人」が23.4%、「兄弟姉妹」が16.7%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(付図2)

問3 もっとも親しい相手の居住地

もっともよく行き来したり、親しくしている方の家はどこにありますか。(〇はひとつ)

【図3 もっとも親しい相手の居住地（経年比較）】



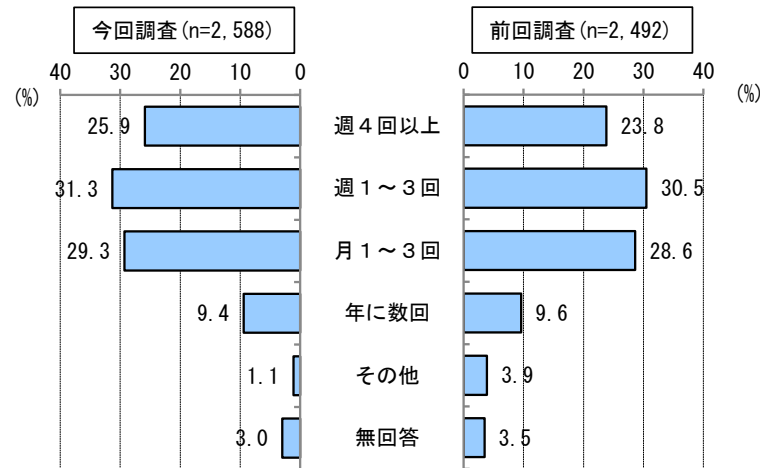
もっとも親しい相手の居住地については、「大阪市内」が30.4%で最も多く、次いで「同一区内」が25.7%、「大阪府内」が14.9%となっている。

前回調査と比較すると、「大阪市内」の割合が3.4ポイント高くなっている。(図3)

問4 もっとも親しい相手と連絡や行き来する頻度

もっともよく行き来したり、親しくしている方とはどのくらいの頻度で連絡したり行き来したりしていますか。(〇はひとつ)

【図4 もっとも親しい相手と連絡や行き来する頻度（経年比較）】

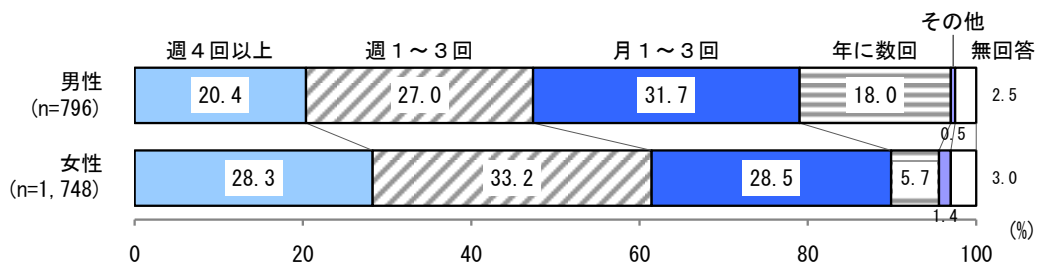


もっとも親しい相手と連絡や行き来する頻度については、「週1～3回」が31.3%で最も多く、次いで「月1～3回」が29.3%、「週4回以上」が25.9%となっている。

前回調査と比較すると、傾向は変わらないが、「週4回以上」の割合は2.1ポイント高くなっている。(図4)

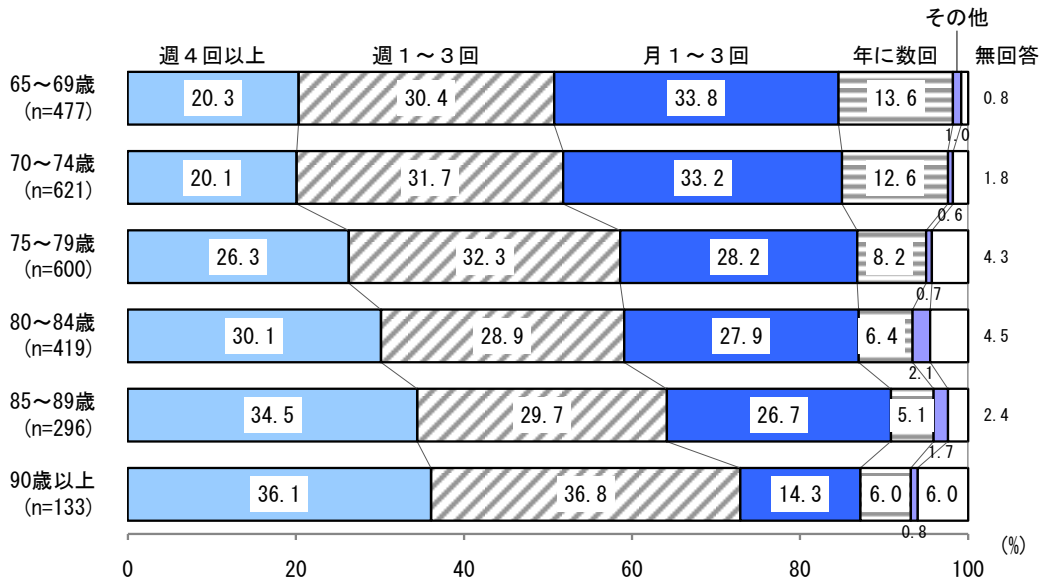
性別でみると、男性よりも女性のほうが人との行き来の頻度が多い。また、「年に数回」との回答は、男性のほうが割合が高い。(図4-a)

【図4-a もっとも親しい相手と連絡や行き来する頻度（性別）】



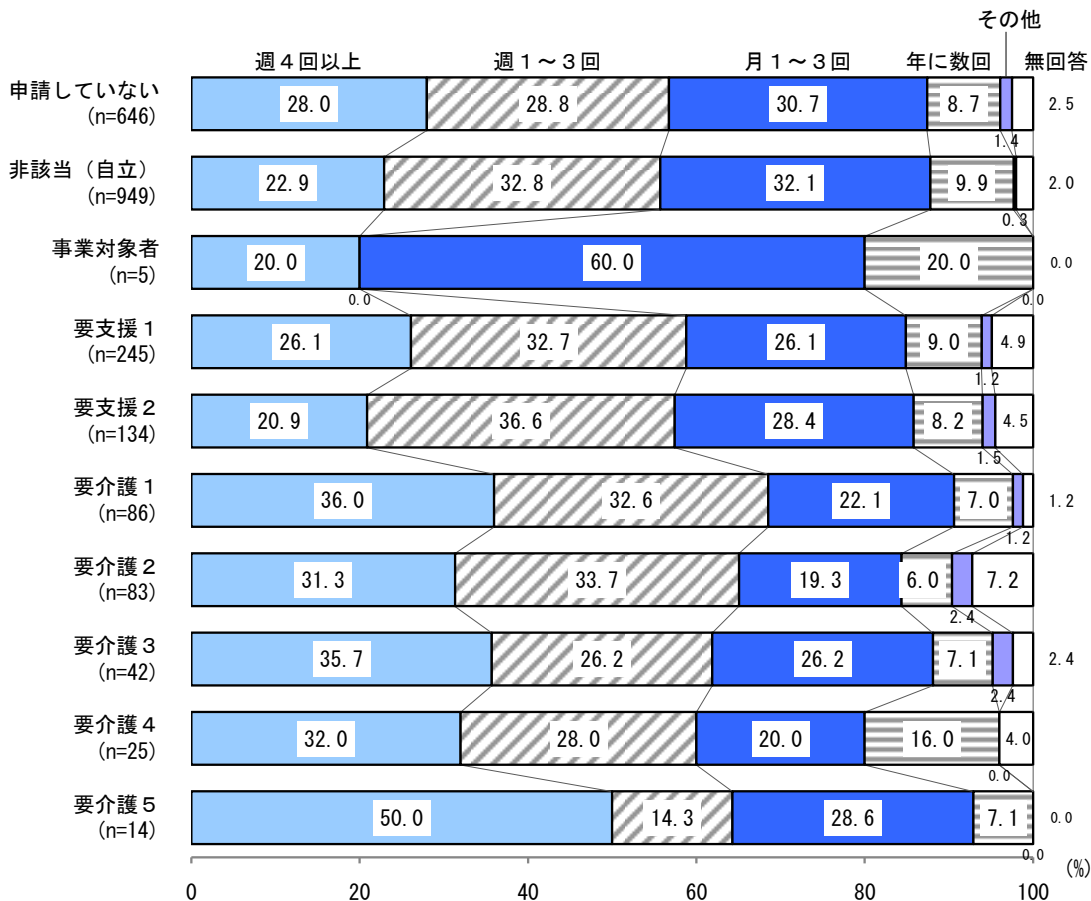
年齢別でみると、週1回以上行き来がある人は高齢になるほど高い割合となっている。(図4-b)

【図4-b もっとも親しい相手と連絡や行き来する頻度 (年齢別)】



介護度別でみると、週1回以上行き来がある人は要介護1 (68.6%) で最も割合が高くなっている。(図4-c)

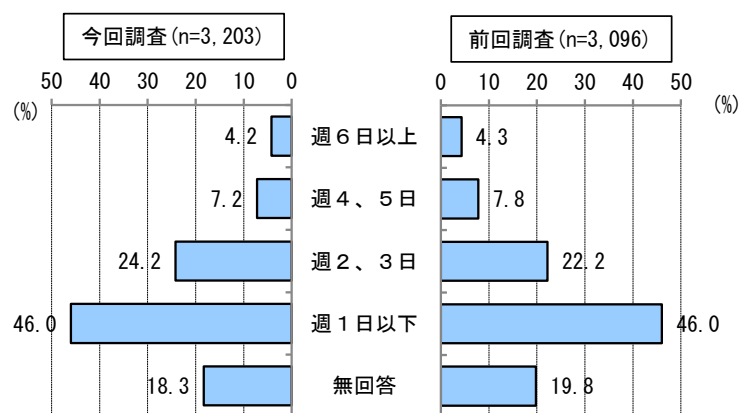
【図4-c もっとも親しい相手と連絡や行き来する頻度 (年齢別)】



問5 誰とも話をしない日の頻度

あなたが、1週間のうち、誰とも話をしない日は何日くらいですか。(〇はひとつ)

【図5 誰とも話をしない日の頻度（経年比較）】

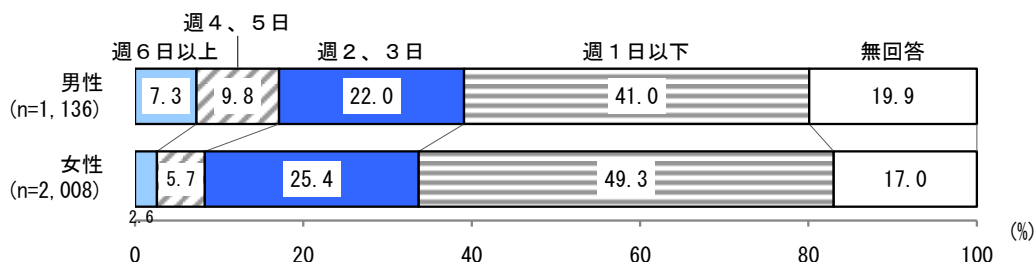


誰とも話をしない日の頻度については、「週1日以下」が46.0%で最も多く、「週2、3日」が24.2%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図5)

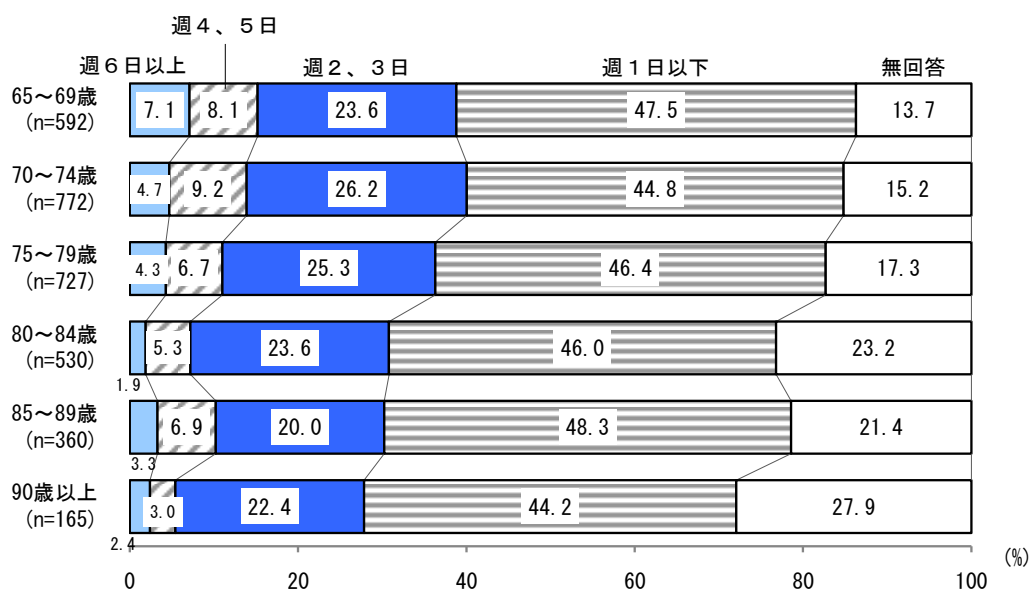
性別でみると、「週6日以上」は、女性より男性のほうが割合が高い。(図5-a)

【図5-a 誰とも話をしない日の頻度（性別）】



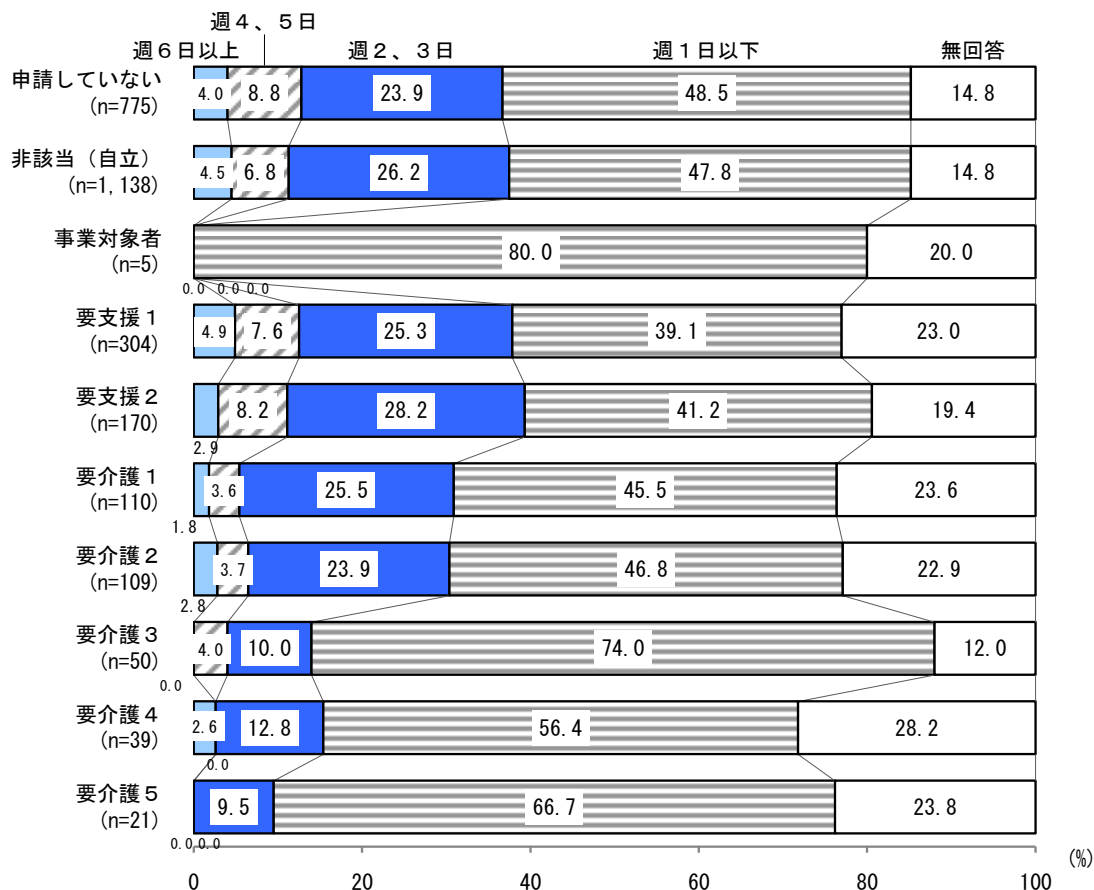
年齢別でみると、「週6日以上」は、65～69歳（7.1%）が最も高く、次いで70～74歳（4.7%）となっている。（図5-b）

【図5-b 誰とも話をしない日の頻度（年齢別）】



介護度別でみると、「週6日以上」は、要支援1（4.9%）で最も高くなっている。（図5-c）

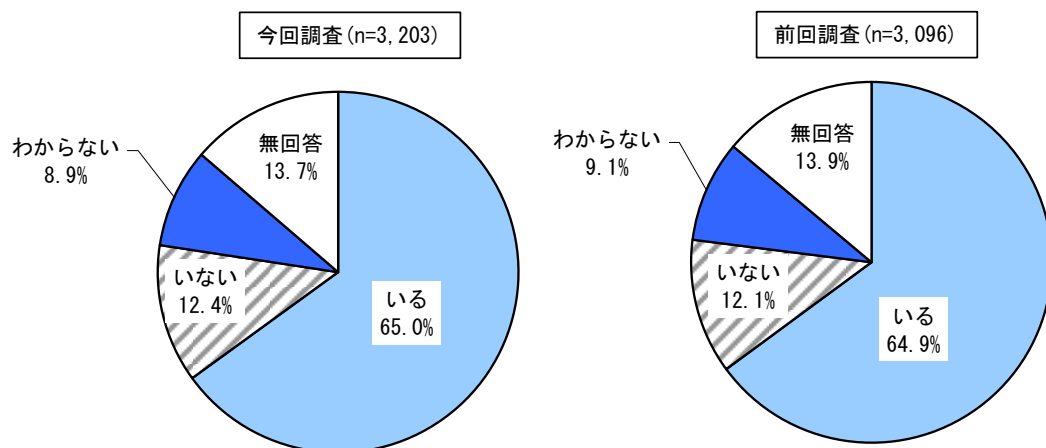
【図5-c 誰とも話をしない日の頻度（介護度別）】



問6 急なけがや病気などの時にすぐに来てくれる人の有無

あなたが、急なけがや病気などの時にすぐに来てくれる人はいますか。(○はひとつ)

【図6 急なけがや病気などの時にすぐに来てくれる人の有無 (経年比較)】



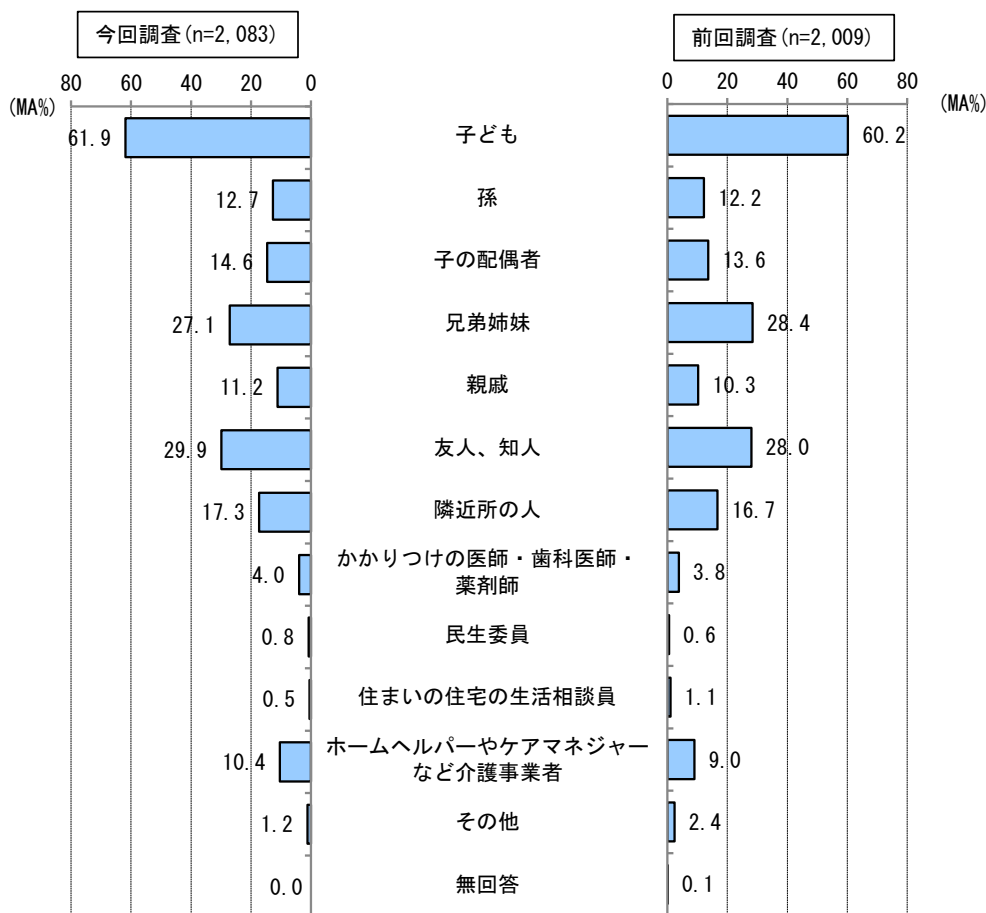
急なけがや病気などの時にすぐに来てくれる人がいるかについては、「いる」が65.0%、「いない」が12.4%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図6)

問6-1 すぐに来てくれる相手

【問6で「1 いる」と回答された方におうかがいします。
その方は誰ですか。(〇はいくつでも)

【図6-1 すぐに来てくれる相手（経年比較）】



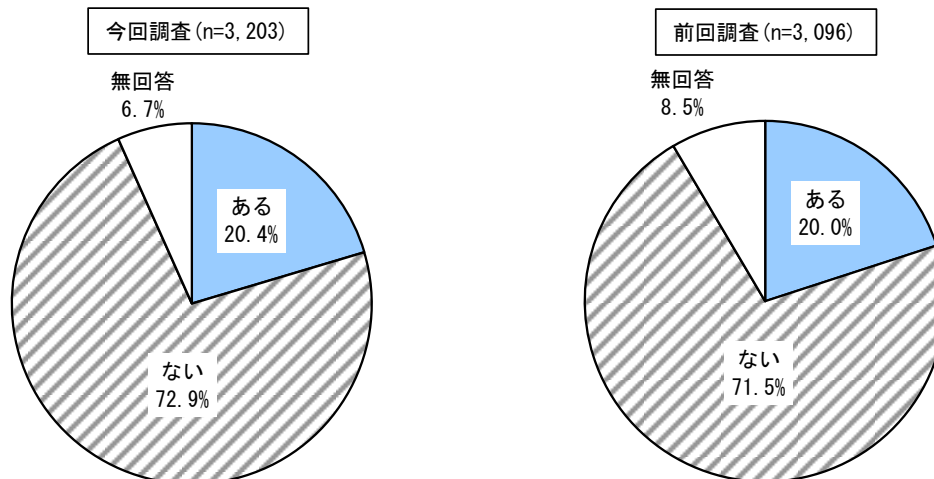
急なけがや病気などの時にすぐに来てくれる人がいると回答した人に、その相手をたずねると、「子ども」が61.9%で最も多く、次いで「友人・知人」が29.9%、「兄弟姉妹」が27.1%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図6-1)

問7 身体的介護や生活介護が必要な状態になった経験

この一年間にけがや病気などで3日以上、身体的介護や生活介護が必要な状態になったことがありますか。(〇はひとつ)

【図7 身体的介護や生活介護が必要な状態になった経験（経年比較）】



身体的介護や生活介護が必要な状態になったことがあるかについては、「ある」が20.4%、「ない」が72.9%となっている。

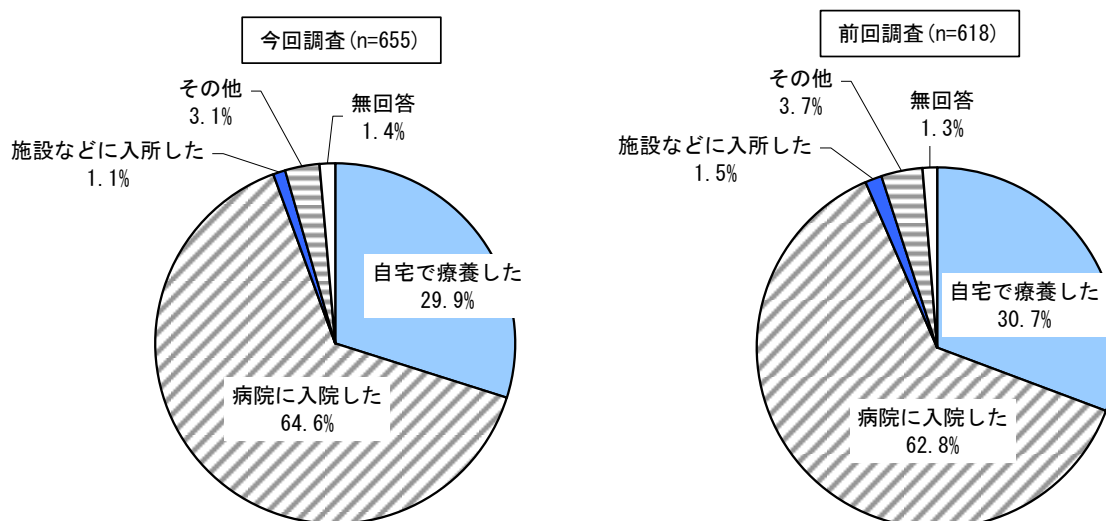
前回調査と比較すると、「ない」の割合が1.4ポイント高くなっている。(図7)

問7-1 身体的介護や生活介護が必要になった時の療養先

【問7で「1 ある」と回答された方におうかがいします。】

その時、どこで(どのように)療養されましたか。(介護保険制度によるサービスを受けた場合を除く)複数回療養された場合は、最も長い期間療養されたときのことについて、お答えください。(〇はひとつ)

【図7-1 身体的介護や生活介護が必要になった時の療養先】



身体的介護や生活介護が必要な状態になったことがあると回答した人に、その時の療養先をたずねると、「病院に入院した」が64.6%で最も多く、次いで「自宅で療養した」が29.9%となっている。

前回調査と比較すると、「病院に入院した」の割合が1.8ポイント高くなっている。(図7-1)

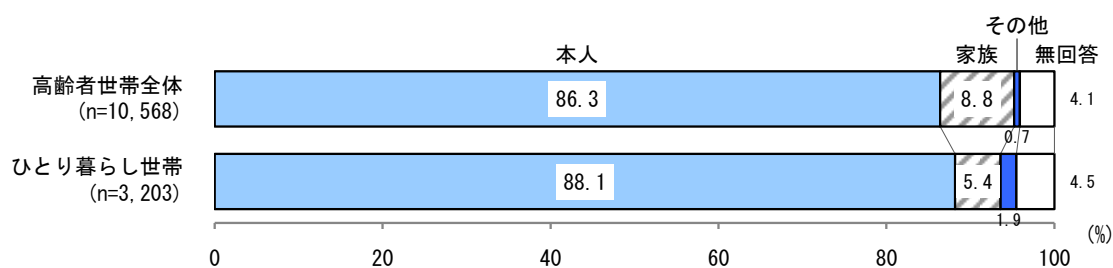
本人調査における

「ひとり暮らし世帯」回答結果

(2) 本人調査における「ひとり暮らし世帯」回答結果（世帯比較）

問1 記入者

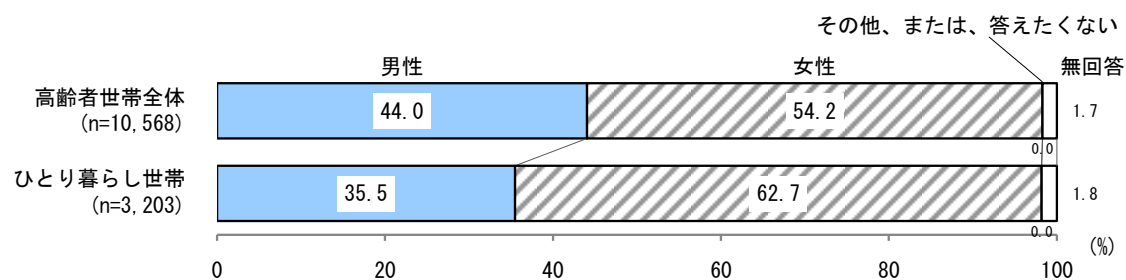
【図1 記入者（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[記入者]については、「本人」が88.1%を占めており、高齢者世帯全体より1.8ポイント高い割合になっている。(図1)

問2 (1) 本人の性別

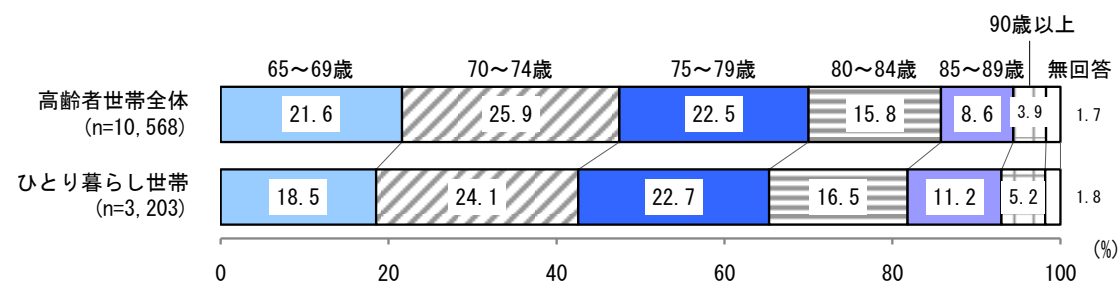
【図2(1) 本人の性別（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[本人の性別]については、「男性」が35.5%、「女性」が62.7%となっており、高齢者世帯全体より「女性」の回答割合が8.5ポイント高くなっている。(図2(1))

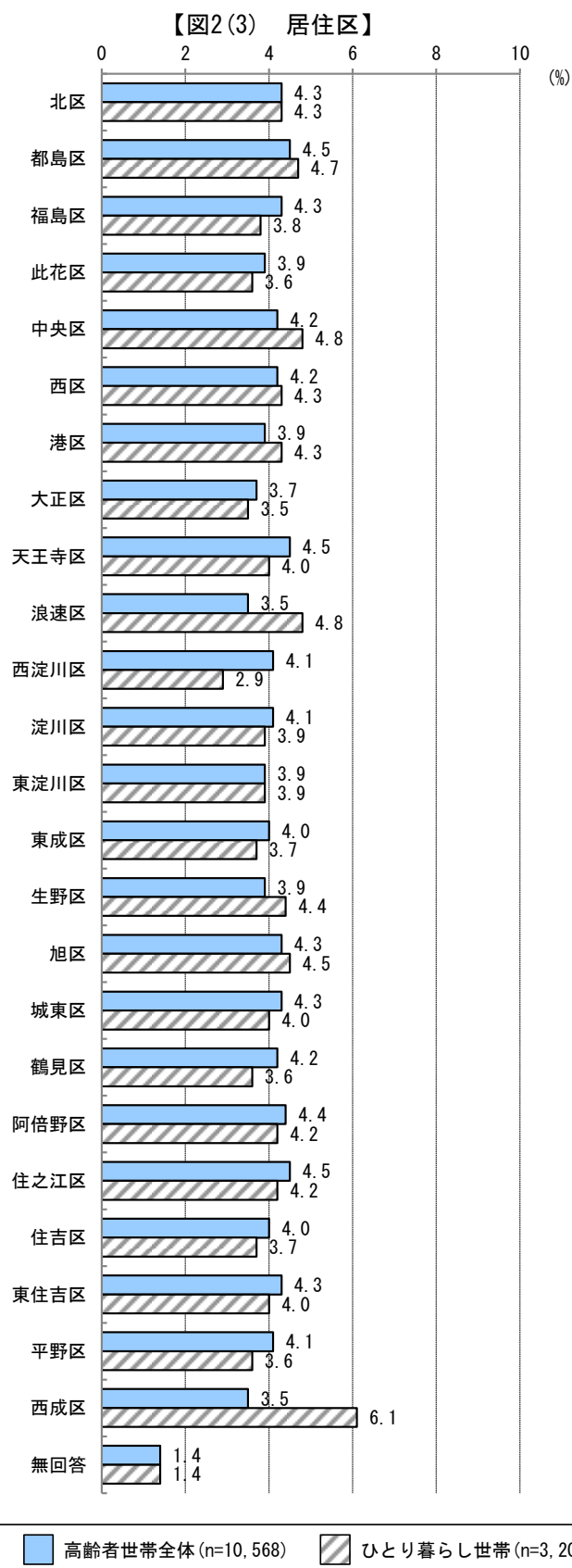
問2 (2) 本人の年齢

【図2(2) 本人の年齢（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[本人の年齢]については、前期高齢者(65~74歳)が42.6%、後期高齢者(75歳以上)が55.6%となっている。高齢者世帯全体と比べると、前期高齢者の回答割合が4.9ポイント低く、後期高齢者の回答割合が4.8ポイント高くなっている。(図2(2))

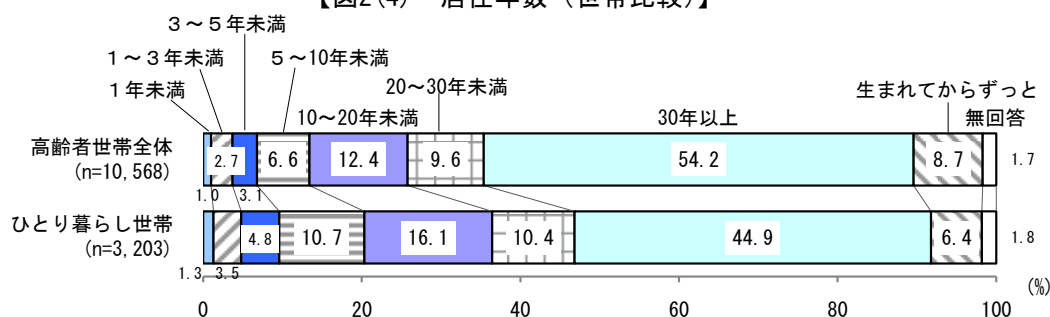
問2(3) 居住区



ひとり暮らし世帯の回答者の[居住区]については、「西成区」が6.1%で最も多く、次いで「中央区」と「浪速区」がともに4.8%となっており、高齢者世帯全体と比べて回答割合が高くなっている。(図2(3))

問2 (4) 居住年数

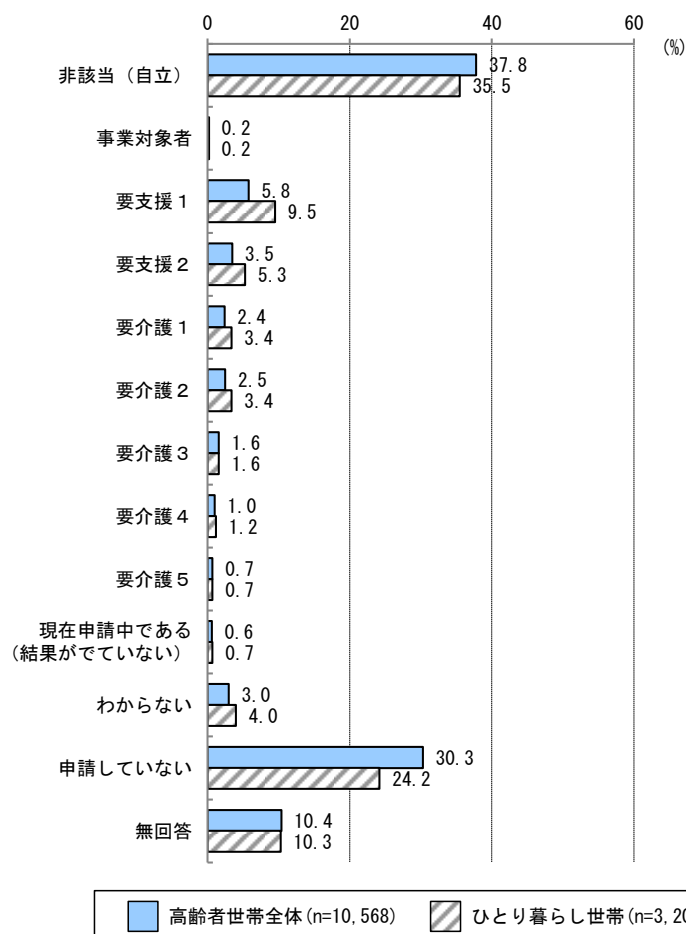
【図2(4) 居住年数 (世帯比較)】



ひとり暮らし世帯の回答者の[居住年数]については、「30年以上」が44.9%で最も多く、次いで「10～20年未満」が16.1%となっている。また、30年未満の回答割合は高齢者世帯全体より高くなっている。(図2(4))

問4 要介護・要支援認定状況

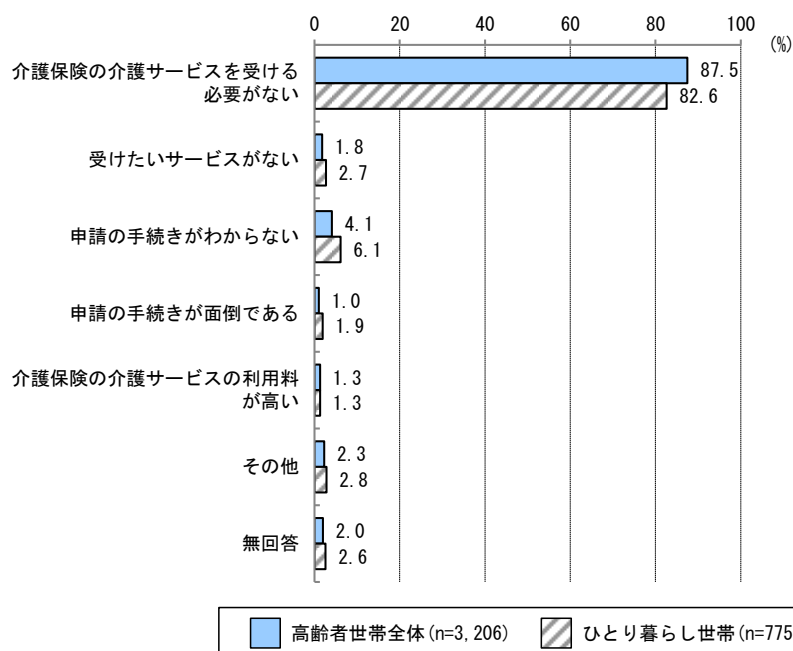
【図4 要介護・要支援認定状況 (世帯比較)】



ひとり暮らし世帯の回答者の[要介護・要支援認定状況]については、「非該当 (自立)」が35.5%で最も多く、次いで「申請していない」が24.2%となっている。高齢者世帯全体と同様の傾向であるが、「要支援1」から「要介護5」までは、高齢者世帯全体と同率または、ひとり暮らし世帯の回答割合のほうがやや高くなっている。(図4)

問 4-1 介護保険の認定申請をしていない理由

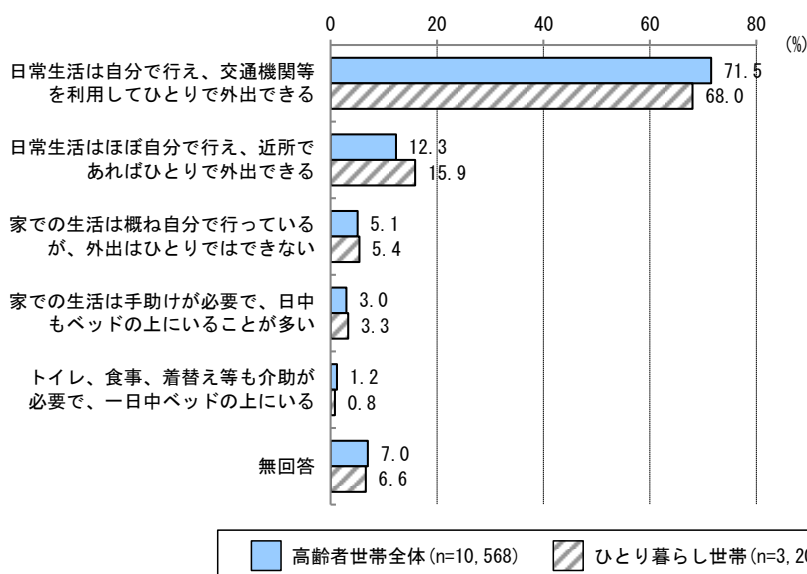
【図4-1 介護保険の認定申請をしていない理由（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[介護保険の認定申請をしていない理由]については、「介護保険の介護サービスを受ける必要がない」が82.6%で最も多く、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。(図4-1)

問 5 日常生活の状況

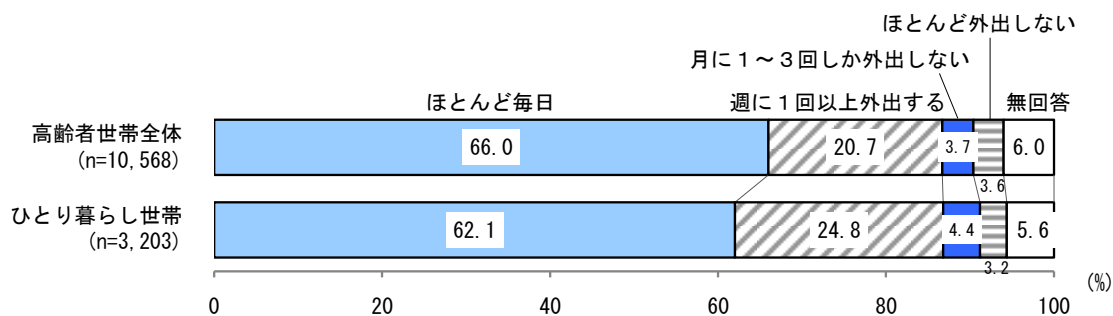
【図5 日常生活の状況（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[日常生活の状況]については、「日常生活は自分で行え、交通機関等を利用してひとりで外出できる」が68.0%で最も多く、高齢者世帯全体と同様の傾向にあるが、「日常生活はほぼ自分で行え、近所であればひとりで外出できる」は15.9%で、高齢者世帯全体より3.6ポイント高い割合になっている。(図5)

問6 外出の頻度

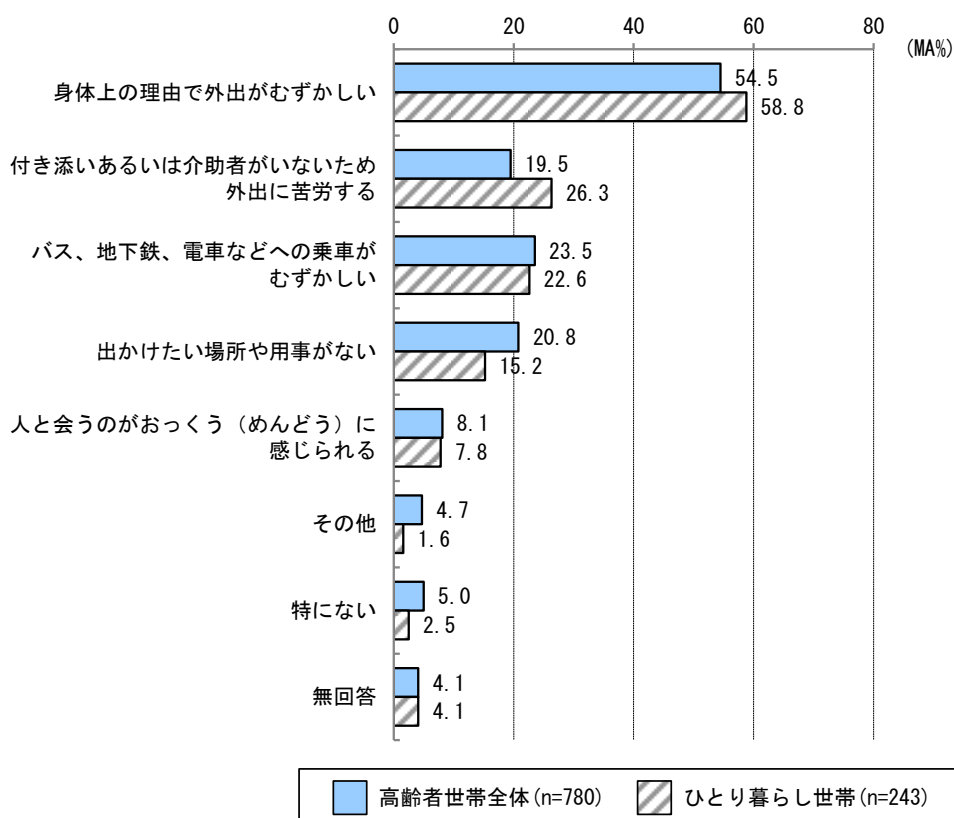
【図6 外出の頻度（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[外出の頻度]については、「ほとんど毎日」が62.1%で最も多いが、高齢者世帯全体より4.1ポイント低い割合になっている。しかし、週に1回以上外出している回答割合は86.9%で、高齢者世帯全体とほぼ同率となっている。(図6)

問6-1 外出しない理由

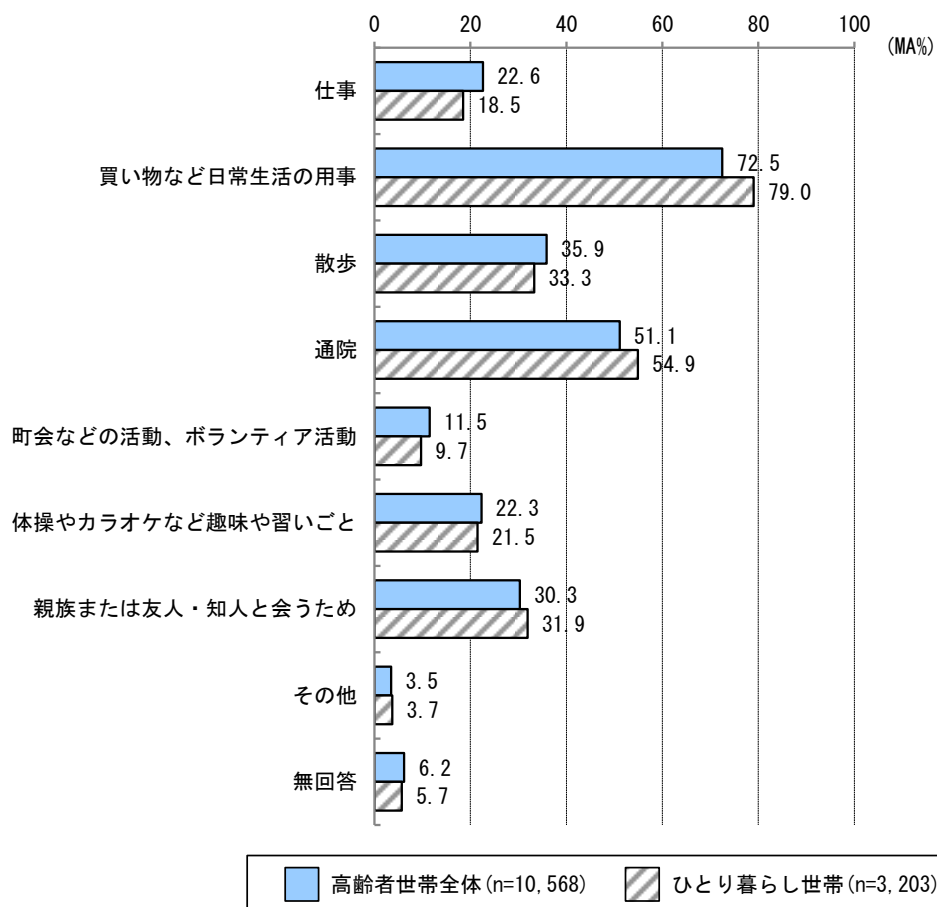
【図6-1 外出しない理由（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[外出しない理由]については、「身体上の理由で外出がむずかしい」が58.8%で最も多く、高齢者世帯全体より4.3ポイント高い割合になっている。これに次いで、「付き添いあるいは介護者がいないため外出に苦勞する」が26.3%で、高齢者世帯全体より6.8ポイント高い割合になっている。(図6-1)

問7 外出の目的

【図7 外出の目的（世帯比較）】

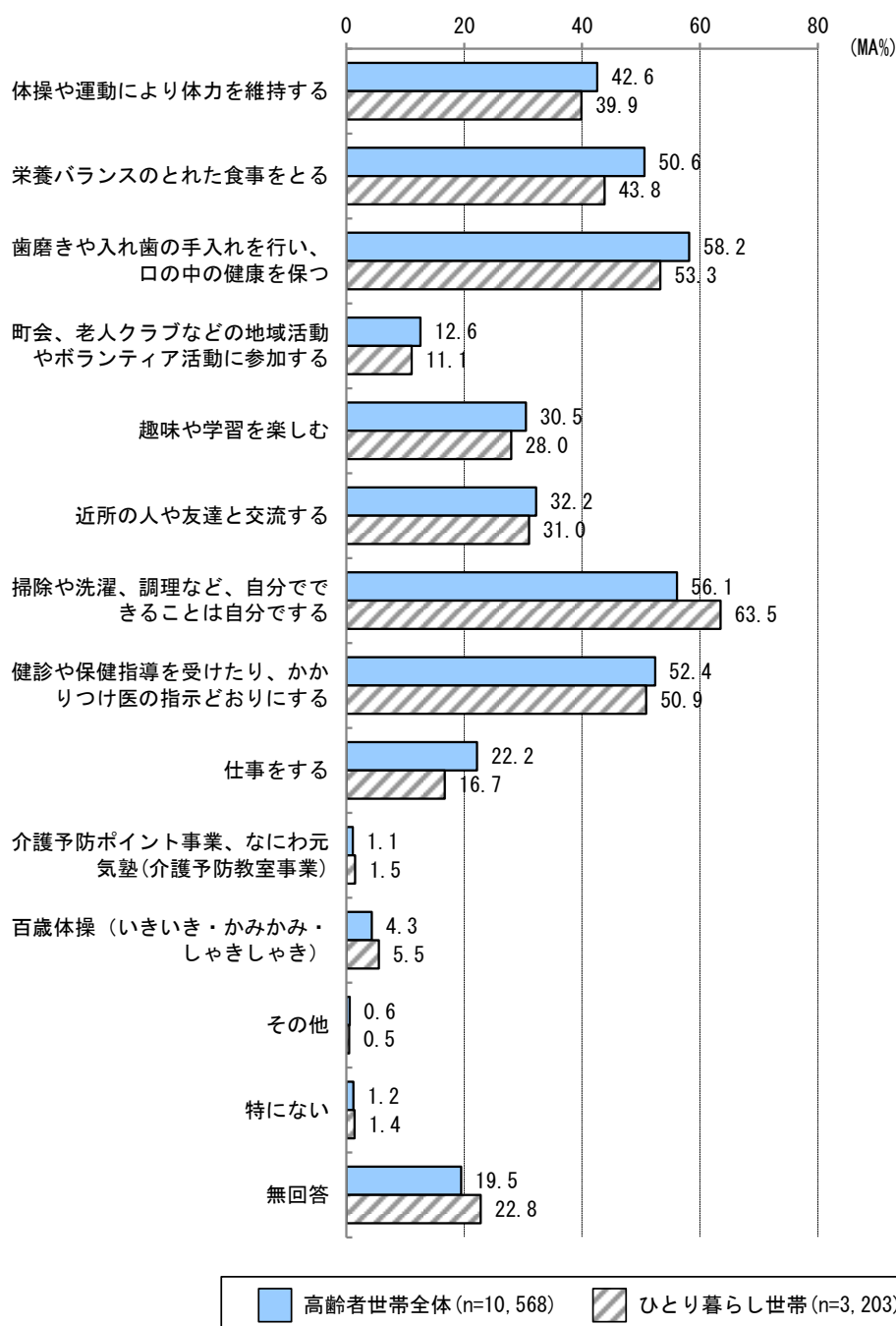


ひとり暮らし世帯の回答者の[外出の目的]については、「買い物など日常生活の用事」が79.0%で最も多く、高齢者世帯全体より6.5ポイント高い割合になっている。(図7)

問8 介護予防のための取組み

①介護予防のために取り組んでいること

【図8① 介護予防のために取り組んでいること（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[介護予防のために取り組んでいること]については、「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」が63.5%で最も多く、高齢者世帯全体より7.4ポイント高い割合になっている。また、「介護予防ポイント事業、なにわ元気塾（介護予防教室事業）」と「百歳体操（いきいき・かみかみ・しゃきしゃき）」の回答割合は高齢者世帯全体よりやや高いが、それら以外の項目では高齢者世帯全体のほうが高くなっている。
(図8①)

②介護予防のために取り組んでみたいこと

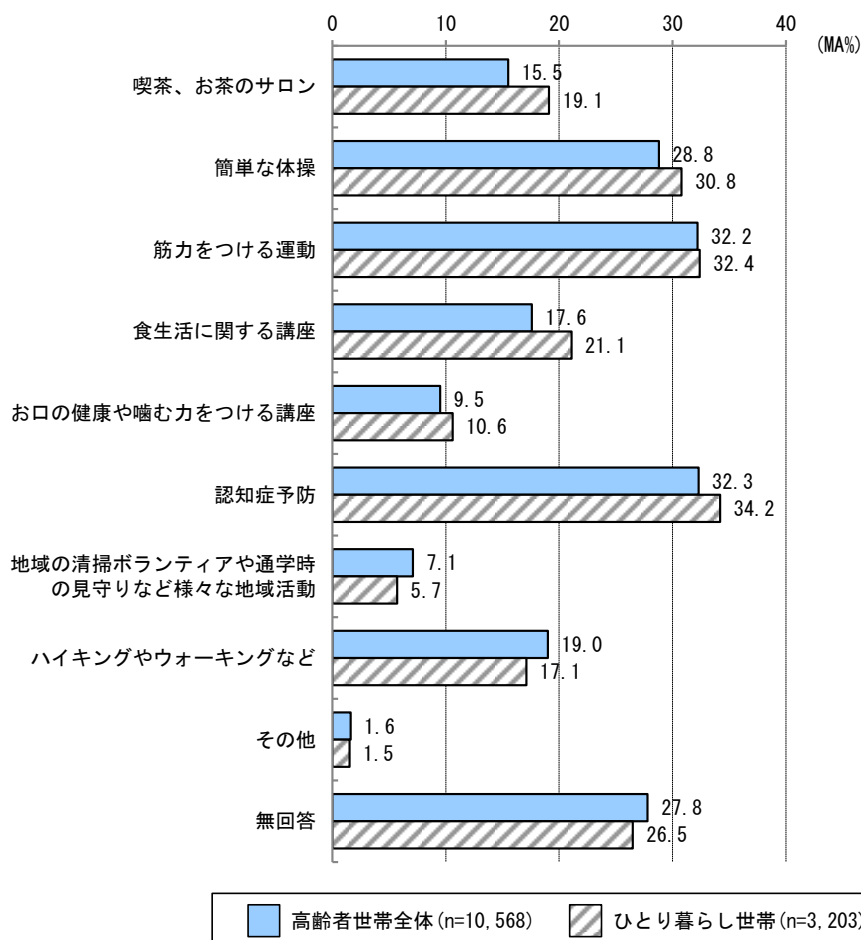
【図8② 介護予防のために取り組んでみたいこと（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[介護予防のために取り組んでみたいこと]については、「体操や運動により体力を維持する」が13.6%で最も多く、他の項目も高齢者世帯全体と概ね同様の傾向となっているが、「栄養バランスのとれた食事をとる」は高齢者世帯全体より2.9ポイント高い割合になっている。(図8②)

問9 参加してみたい介護予防事業

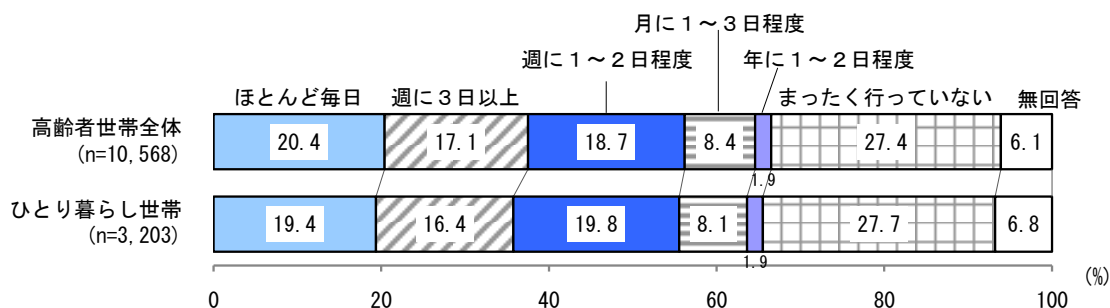
【図9 参加してみたい介護予防事業（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[参加してみたい介護予防事業]については、「認知症予防」が34.2%で最も多く、高齢者世帯全体よりやや高い割合になっている。また、「喫茶、お茶のサロン」と「食生活に関する講座」の回答割合は、高齢者世帯全体より3ポイント以上高くなっている。(図9)

問10 運動やスポーツの頻度

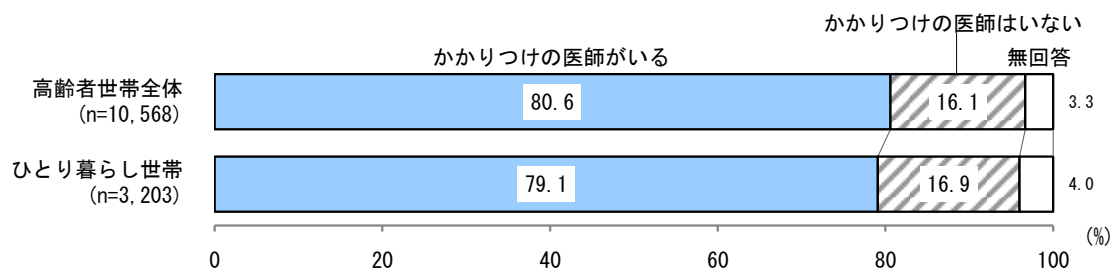
【図10 運動やスポーツの頻度（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[運動やスポーツの頻度]については、「まったく行っていない」が27.7%で最も多く、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。(図10)

問11 かかりつけの医師の有無

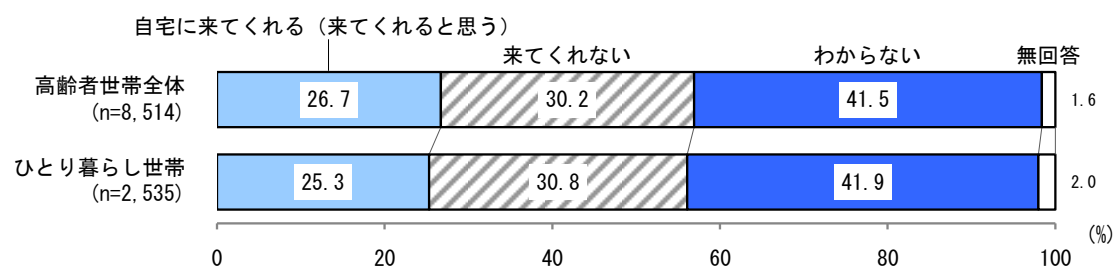
【図11 かかりつけの医師の有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[かかりつけの医師の有無]については、「かかりつけの医師がいる」が79.1%を占めているが、高齢者世帯全体より1.5ポイント低い割合になっている。(図11)

問11-1 かかりつけの医師の訪問診療の有無

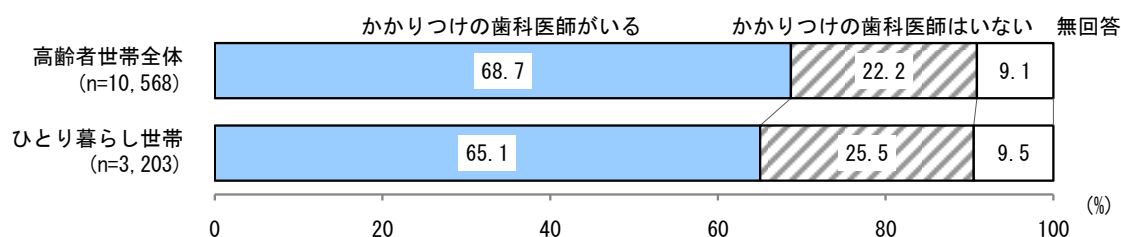
【図11-1 かかりつけの医師の訪問診療の有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[かかりつけの医師の訪問診療の有無]については、「わからない」が41.9%で最も多く、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。(図11-1)

問12 かかりつけの歯科医師の有無

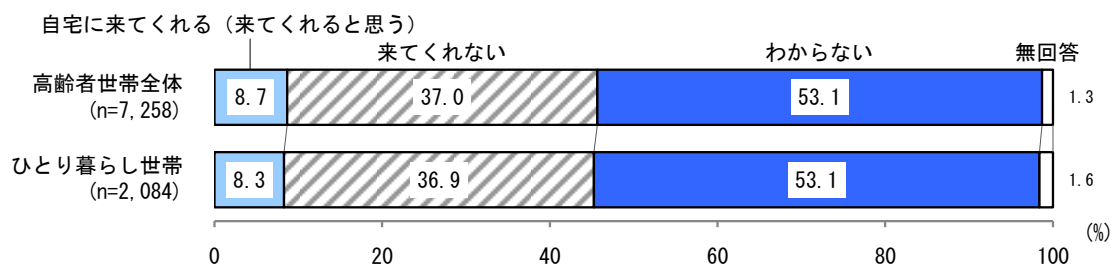
【図12 かかりつけの歯科医師の有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[かかりつけの歯科医師の有無]については、「かかりつけの歯科医師がいる」が65.1%を占めているが、高齢者世帯全体より3.6ポイント低い割合になっている。(図12)

問12-1 かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無

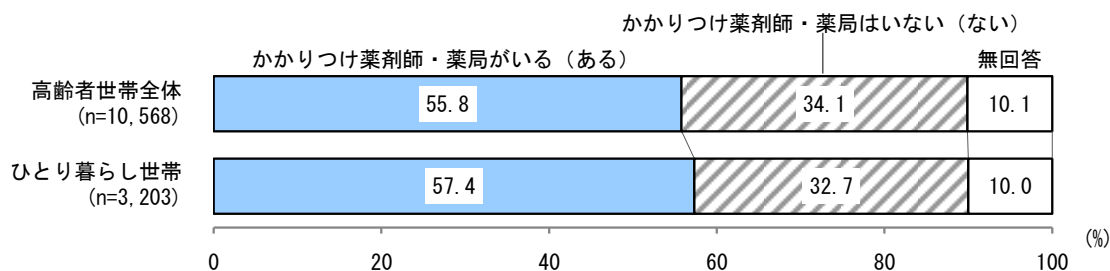
【図12-1 かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無]については、「わからない」が53.1%で最も多く、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。(図12-1)

問13 かかりつけ薬剤師・薬局の有無

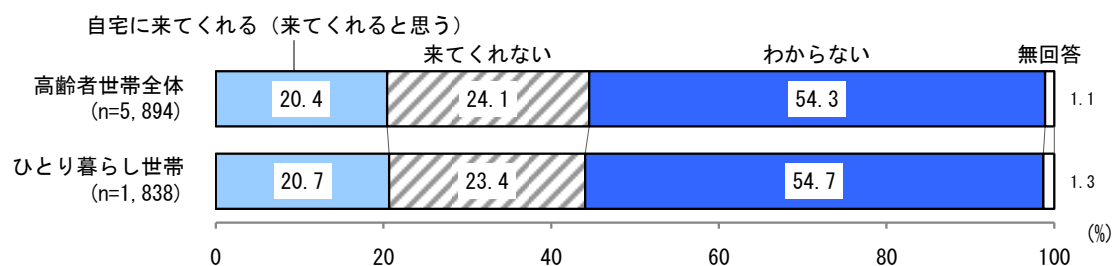
【図13 かかりつけ薬剤師・薬局の有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[かかりつけ薬剤師・薬局の有無]については、「かかりつけ薬剤師がいる (ある)」が57.4%を占めており、高齢者世帯全体より1.6ポイント高い割合になっている。(図13)

問13-1 かかりつけ薬剤師・薬局の在宅訪問の有無

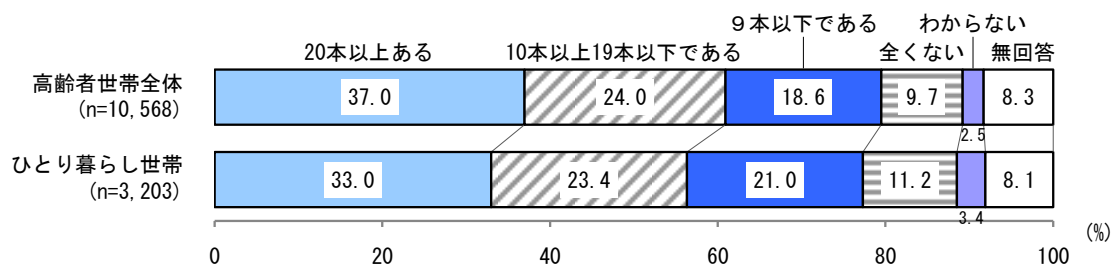
【図13-1 かかりつけ薬剤師・薬局の在宅訪問の有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[かかりつけ薬剤師・薬局の在宅訪問の有無]については、「わからない」が54.7%で最も多く、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。(図13-1)

問14 歯の本数

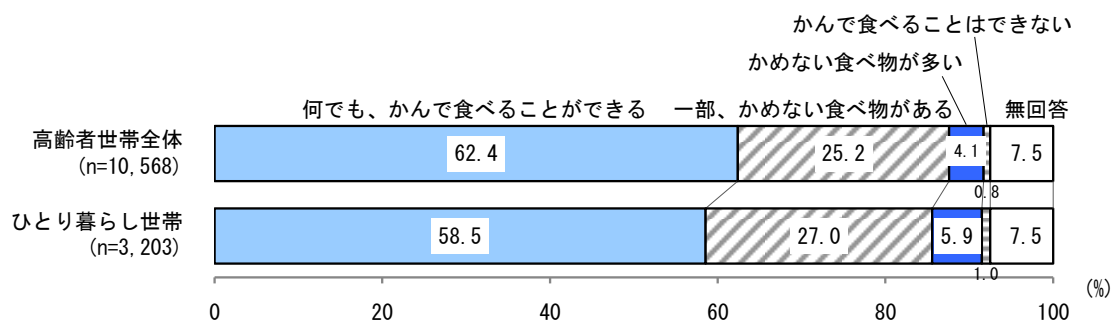
【図14 歯の本数（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[歯の本数]については、「20本以上ある」が33.0%で最も多いが、高齢者世帯全体より4.0ポイント低い割合になっている。なお、20本未満の回答割合は55.6%を占めており、高齢者世帯全体より3.3ポイント高い割合になっている。（図14）

問15 かねで食べることの可否

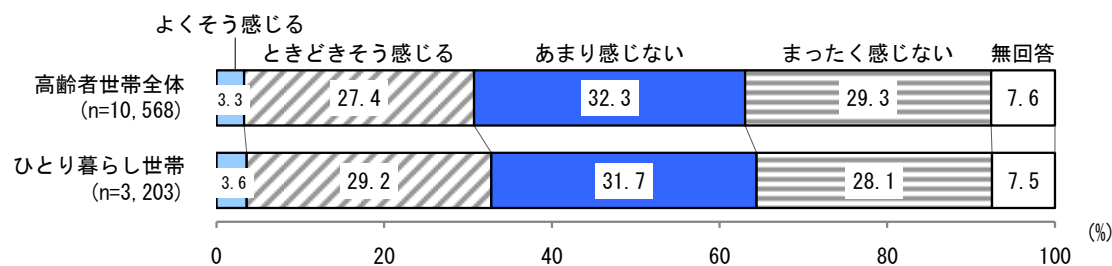
【図15 かねで食べることの可否（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[かねで食べることの可否]については、「何でも、かねで食べることができる」が58.5%を占めているが、高齢者世帯全体より3.9ポイント低い割合となっている。（図15）

問16 飲み込みにくいと感じるものの有無

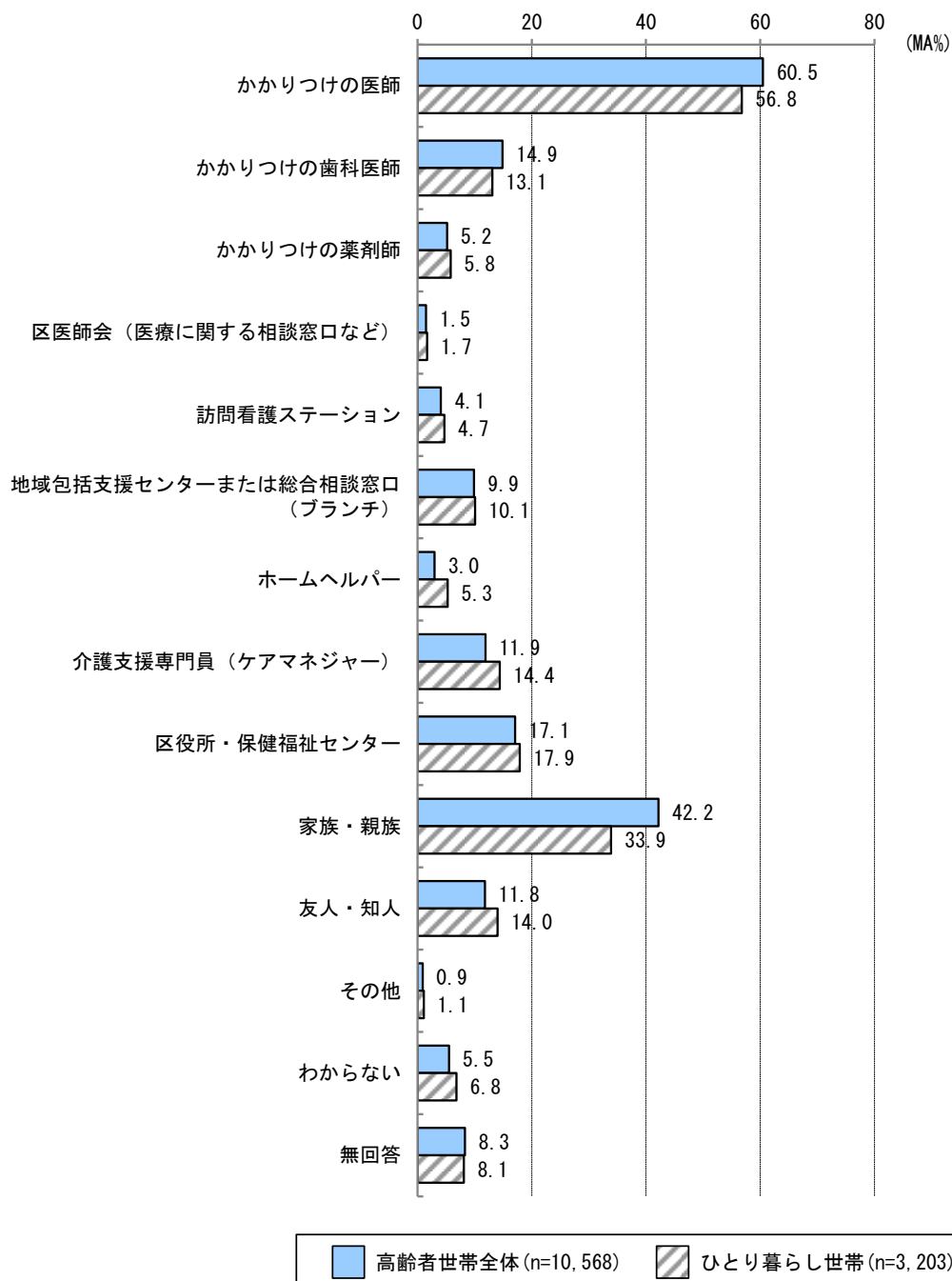
【図16 飲み込みにくいと感じるものの有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[飲み込みにくいと感じるものの有無]については、「あまり感じない」が31.7%で最も多く、次いで「ときどきそう感じる」が29.2%となっている。なお、「よくそう感じる」「ときどきそう感じる」の回答割合は、高齢者世帯全体より高くなっている。（図16）

問17 医療の相談先

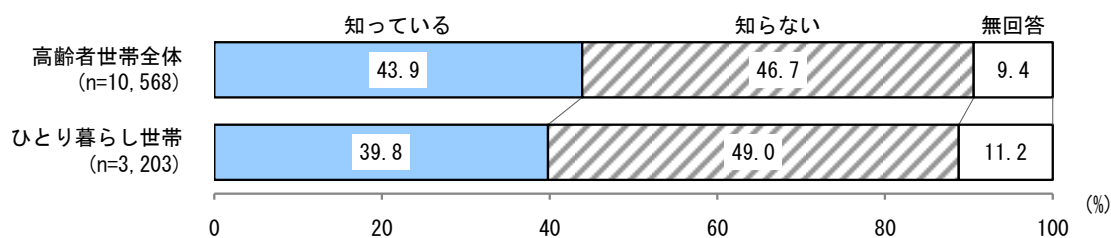
【図17 医療の相談先（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[医療の相談先]については、「かかりつけの医師」が56.8%で最も多く、次いで「家族・親族」が33.9%となっているが、どちらも高齢者世帯全体より低い割合になっている。また、「かかりつけの薬剤師」「区医師会（医療に関する相談窓口など）」「訪問看護ステーション」「地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）」「ホームヘルパー」「介護支援専門員（ケアマネジャー）」「区役所・保健福祉センター」「友人・知人」の回答割合は、高齢者世帯全体より高くなっている。（図17）

問18 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度

【図18 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度（世帯比較）】

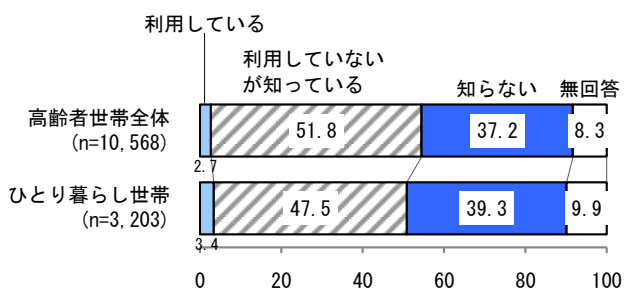


ひとり暮らし世帯の回答者の[希望すれば在宅医療を受けられることの認知度]については、「知っている」が39.8%を占めており、高齢者世帯全体より4.1ポイント低い割合になっている。(図18)

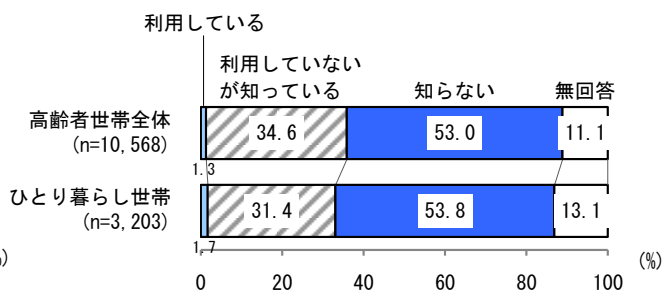
問19 在宅医療の利用状況

【図19 在宅医療の利用状況（世帯比較）】

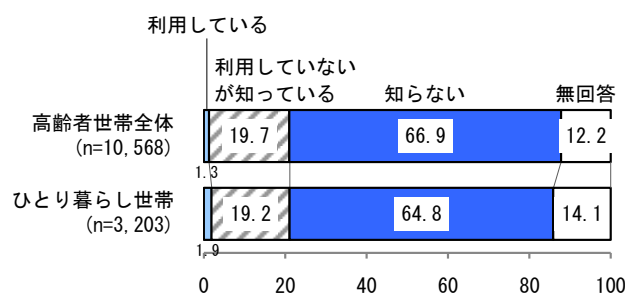
(1) 医師による訪問診療



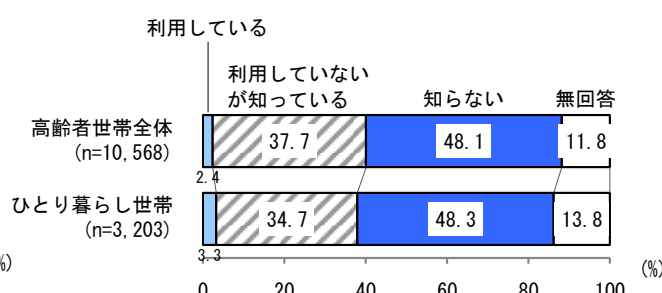
(2) 歯科医師による訪問歯科診療



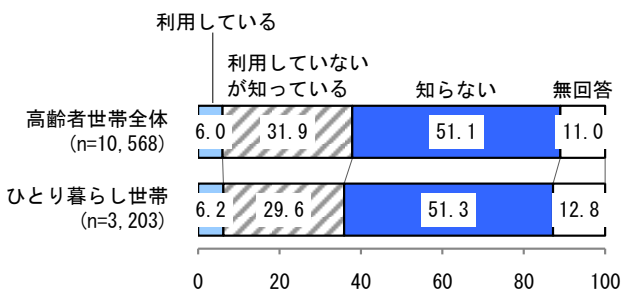
(3) 薬剤師による訪問薬剤管理指導



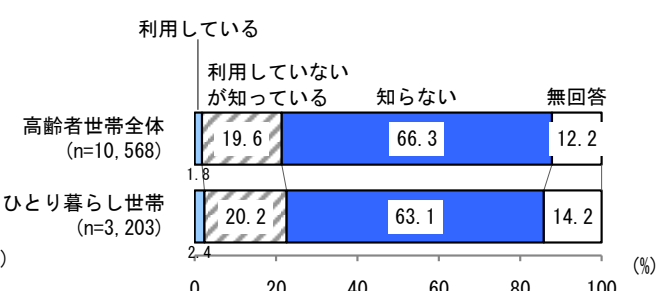
(4) 看護師などによる訪問看護



(5) 緊急時に対応してくれる医師または医療機関



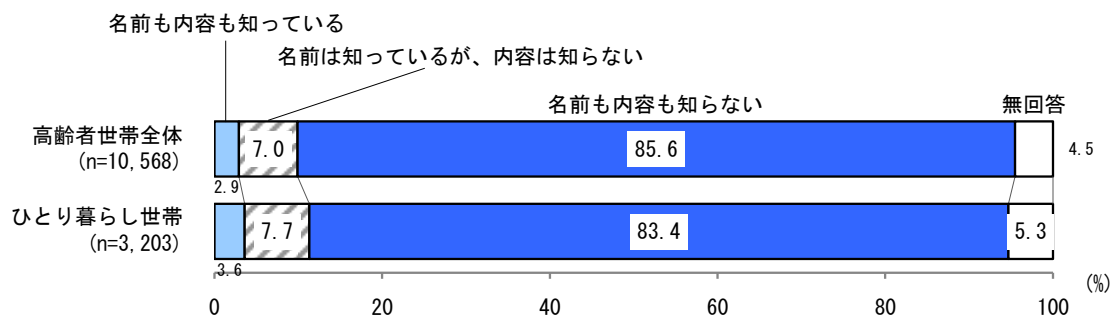
(6) 緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護



ひとり暮らし世帯の回答者の[在宅医療の利用状況]について、「利用している」の回答割合は、いずれの項目も高齢者世帯全体より高くなっている。(図19)

問20 人生会議（ACP）の認知度

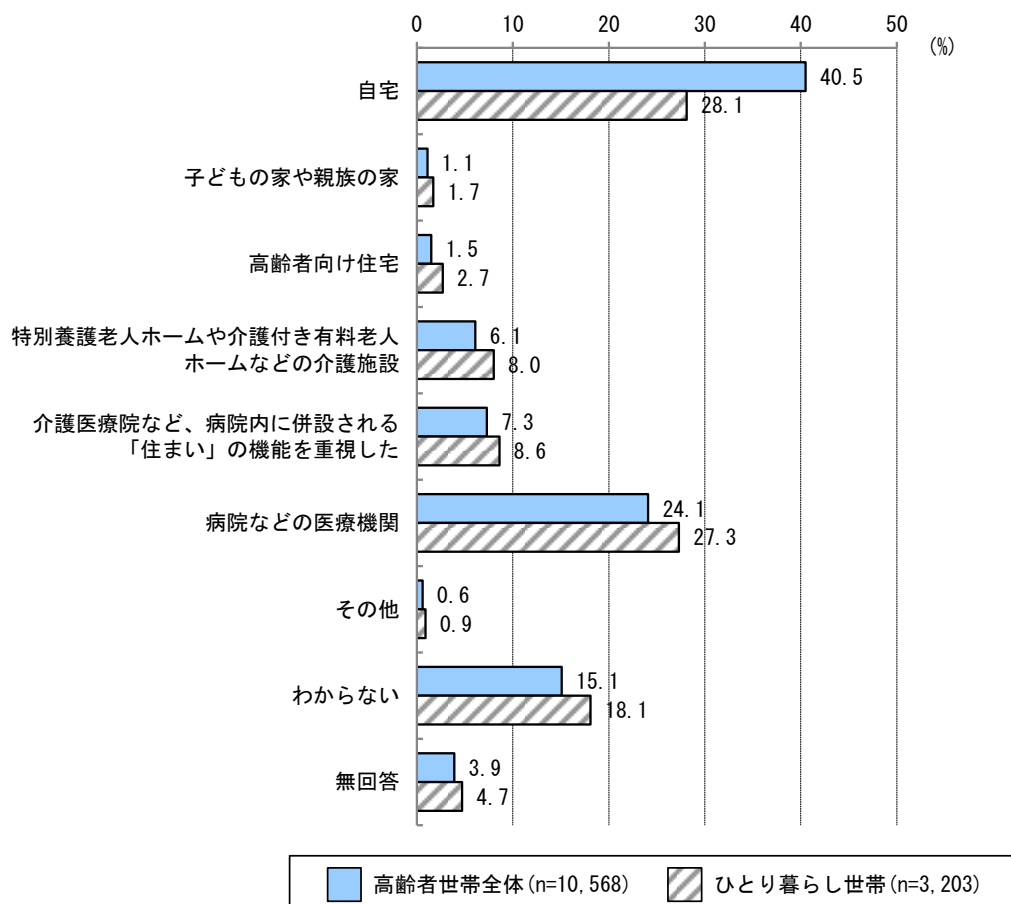
【図20 人生会議（ACP）の認知度（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[人生会議(ACP)の認知度]については、「名前も内容も知っている」が3.6%、「名前は知っているが、内容は知らない」が7.7%で、高齢者世帯全体より高い割合になっている。(図20)

問21 人生の最終段階に過ごしたい場所

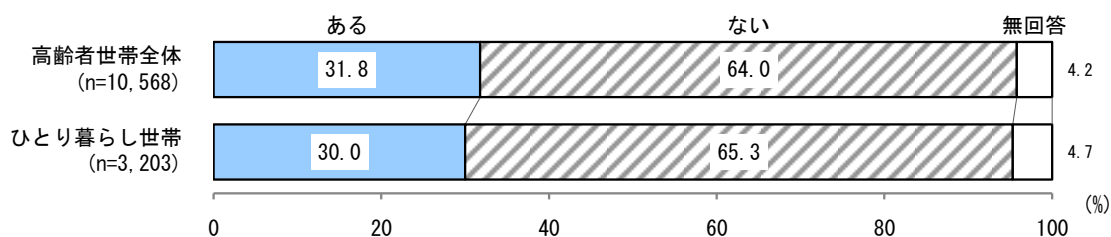
【図21 人生の最終段階に過ごしたい場所（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[人生の最終段階に過ごしたい場所]については、「自宅」が28.1%で最も多いが、高齢者世帯全体より12.4ポイント低い割合になっている。これに次いで、「病院などの医療機関」が27.3%で、高齢者世帯全体より3.2ポイント高い割合になっている。なお、自宅以外の場所では、ひとり暮らし世帯のほうが高い割合になっている。(図21)

問22 人生の最終段階についての話し合いの有無

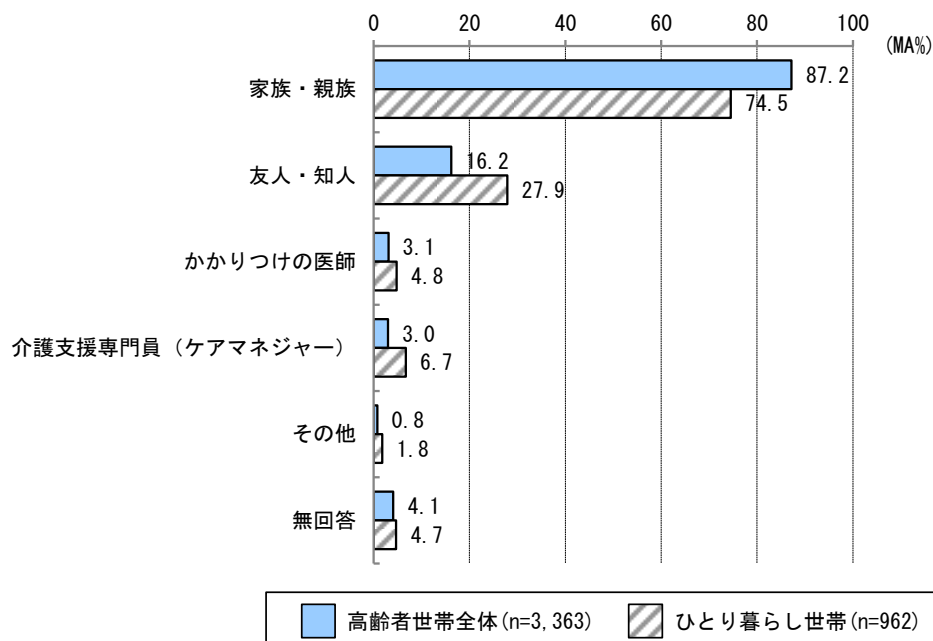
【図22 人生の最終段階についての話し合いの有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[人生の最終段階についての話し合いの有無]については、「ある」が30.0%となっており、高齢者世帯全体より1.8ポイント低い割合になっている。(図22)

問22-1 人生の最終段階について話し合った相手

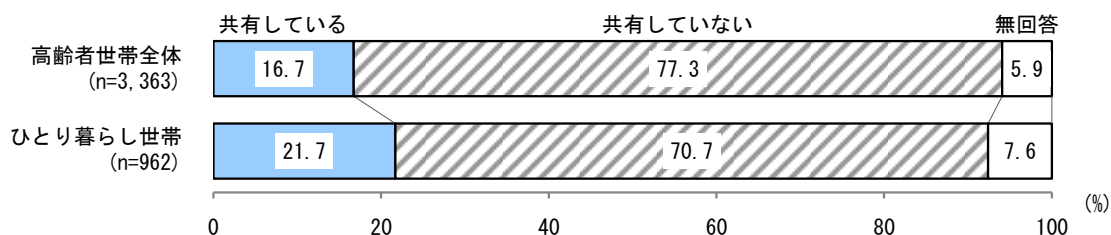
【図22-1 人生の最終段階について話し合った相手（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[人生の最終段階について話し合った相手]については、「家族・親族」が74.5%で最も多いが、高齢者世帯全体より12.7ポイント低い割合になっている。これに次いで、「友人・知人」が27.9%で、高齢者世帯全体より11.7ポイント高い割合になっている。なお、家族・親族以外の相手では、ひとり暮らし世帯のほうが高い割合になっている。(図22-1)

問22-2 話し合いで決めた内容の共有有無

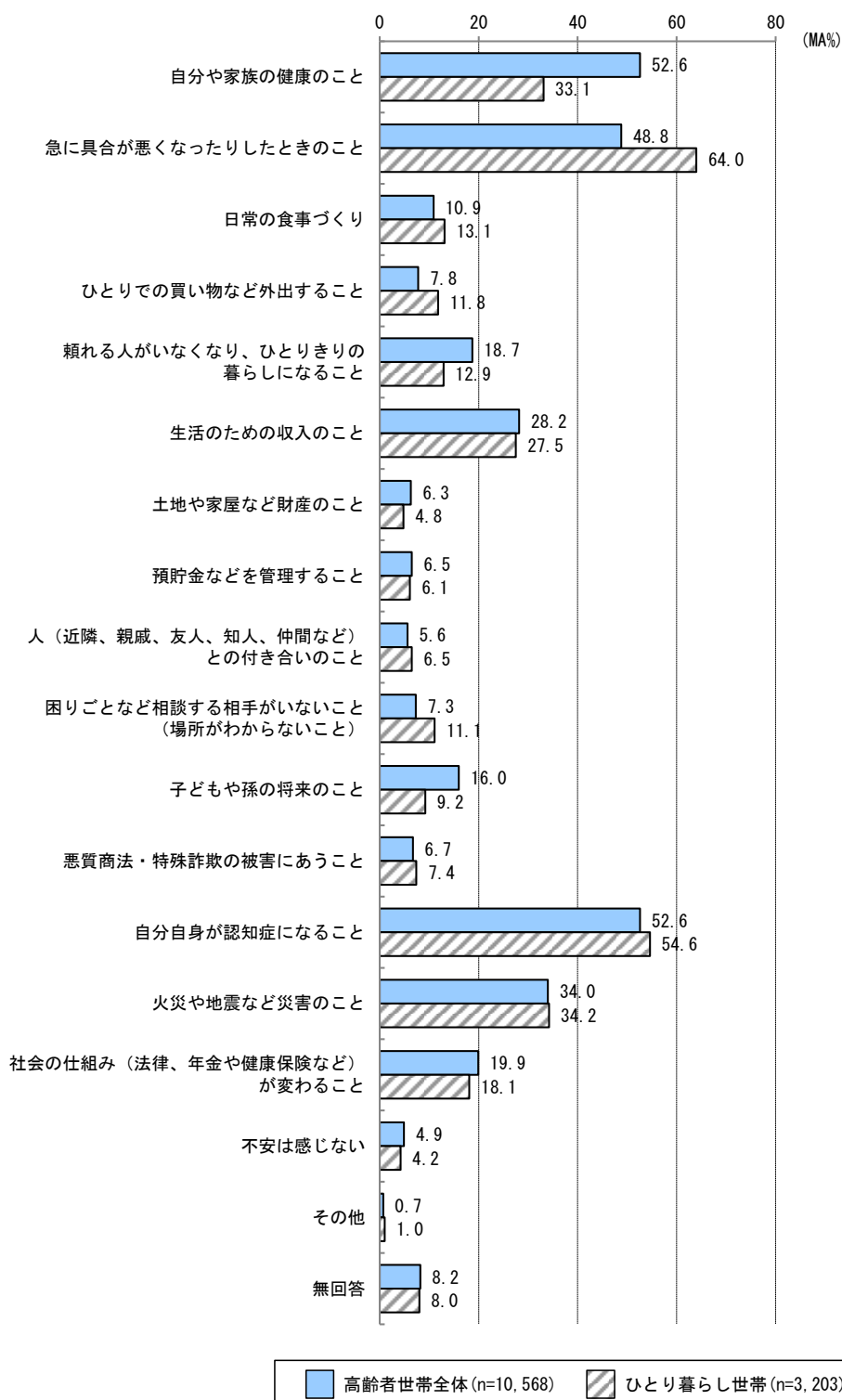
【図22-2 話し合いで決めた内容の共有有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[話し合いで決めた内容の共有有無]については、「共有している」が21.7%となっており、高齢者世帯全体より5.0ポイント高い割合になっている。(図22-2)

問23 日常生活への不安

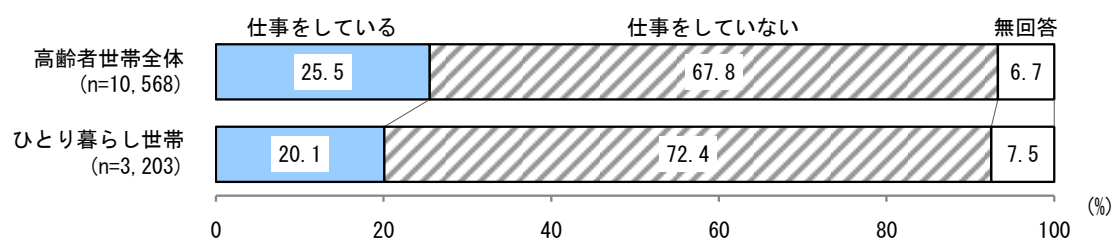
【図23 日常生活への不安（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[日常生活への不安]については、「急に具合が悪くなったりしたときのこと」が64.0%で最も多く、高齢者世帯全体より15.2ポイント高い割合になっている。また、「自分や家族の健康のこと」の回答割合は33.1%で、高齢者世帯全体より19.5ポイント低く、「頼れる人がいなくなり、ひとりきりの暮らしになること」「子どもや孫の将来のこと」の回答割合も高齢者世帯全体より低くなっている。(図23)

問24 就労の状況

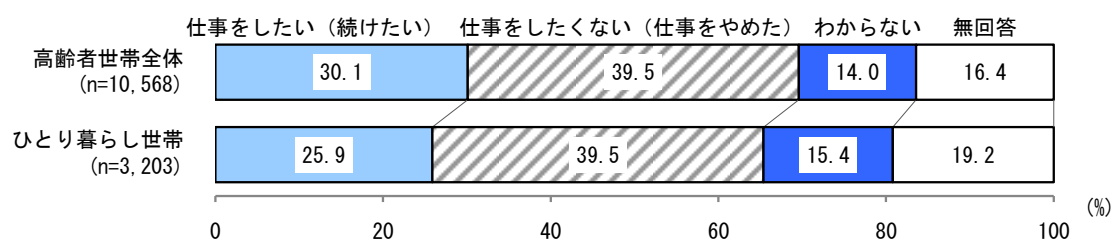
【図24 就労の状況（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[就労の状況]については、「仕事をしている」が20.1%となっており、高齢者世帯全体より5.4ポイント低い割合になっている。(図24)

問25 就労の意向

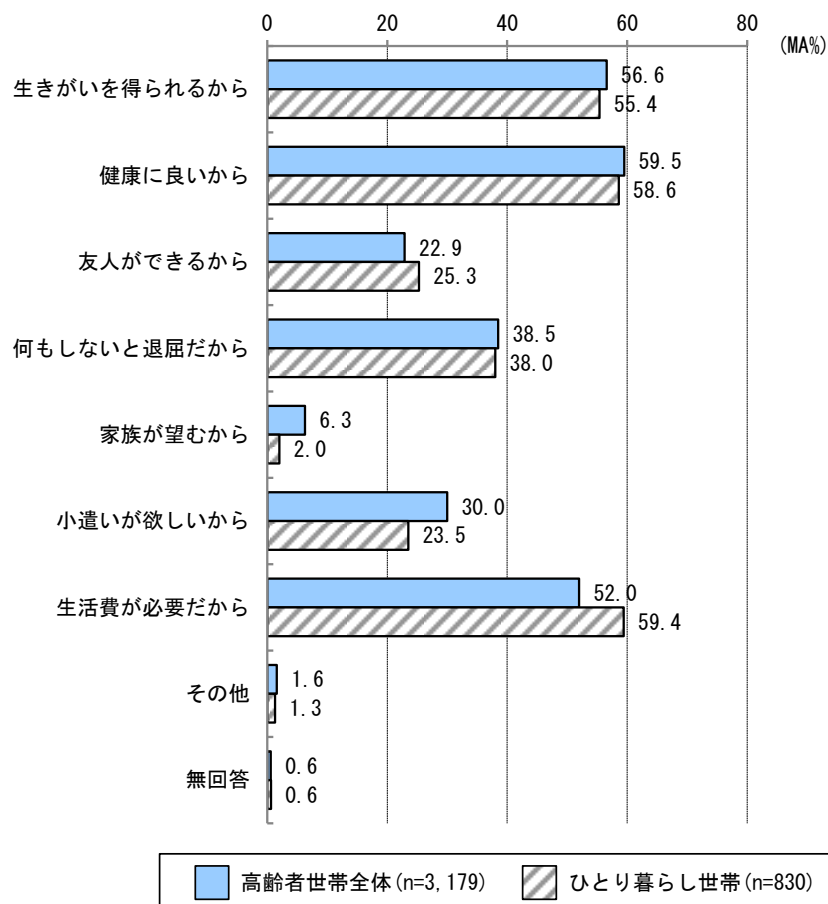
【図25 就労の意向（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[就労の意向]については、「仕事をしたくない(仕事をやめた)」が39.5%で最も多く、高齢者世帯全体と同率となっている。一方、「仕事をしたい(続けたい)」は25.9%で、高齢者世帯全体より4.2ポイント低い割合になっている。(図25)

問25-1 就労の意向がある理由

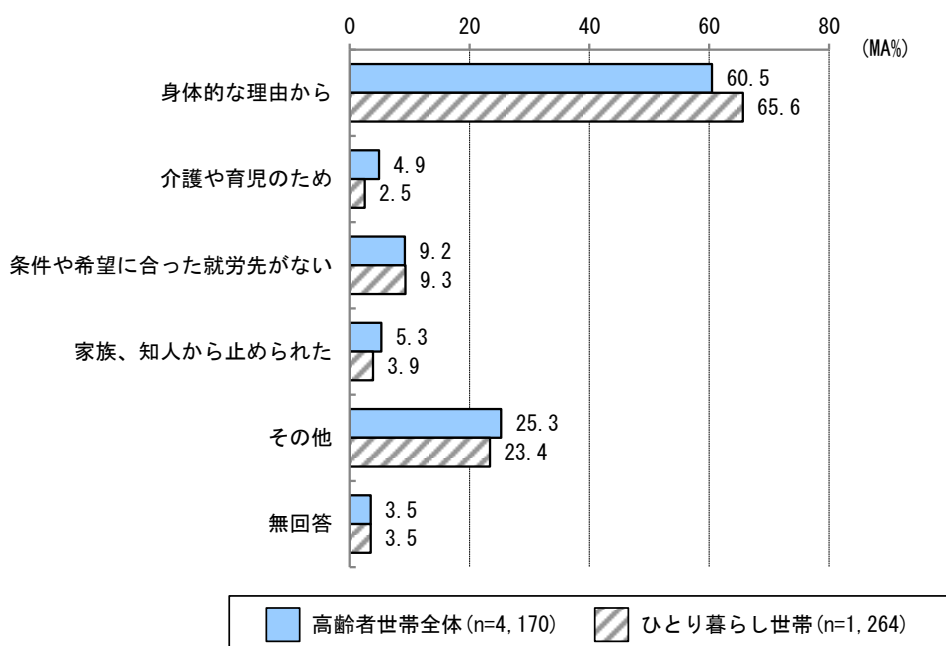
【図25-1 就労の意向がある理由（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[就労の意向がある理由]については、「生活費が必要だから」が59.4%で最も多く、高齢者世帯全体より7.4ポイント高い割合になっている。(図25-1)

問25-2 就労の意向がない理由

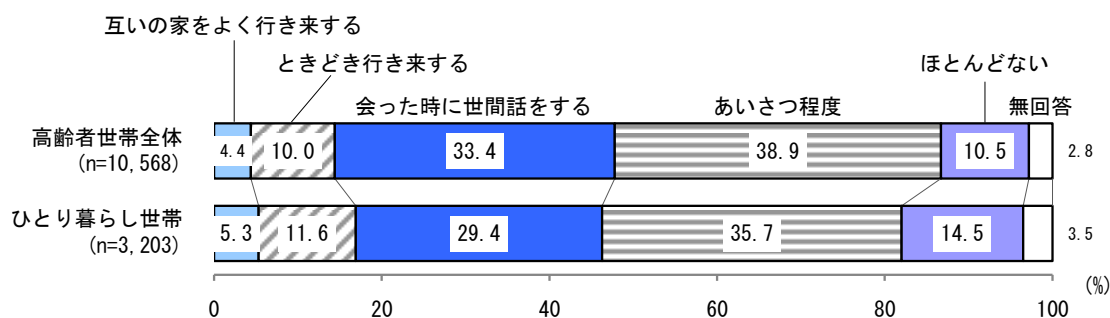
【図25-2 就労の意向がない理由（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[就労の意向がない理由]については、「身体的な理由から」が65.6%で最も多く、高齢者世帯全体より5.1ポイント高い割合になっている。(図25-2)

問26 近所付き合いの有無

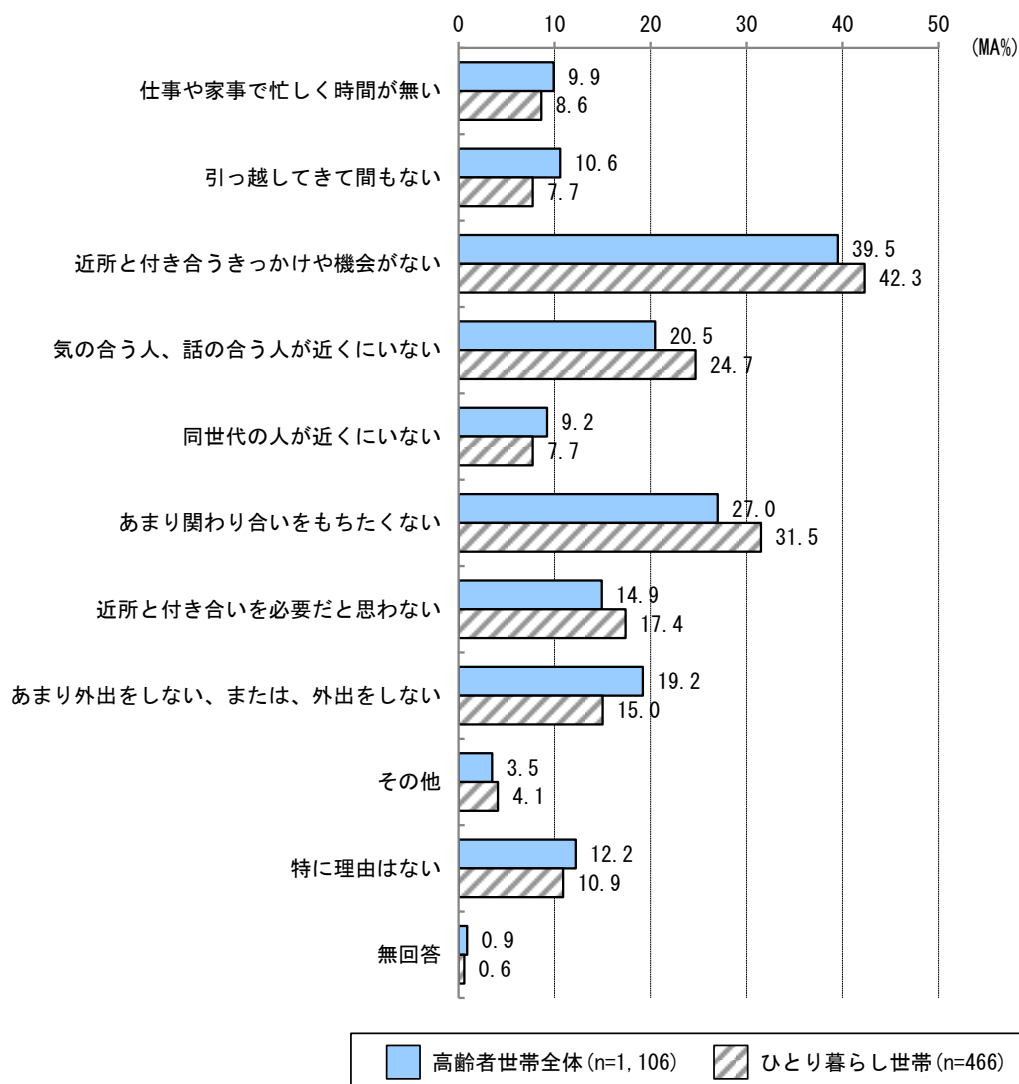
【図26 近所付き合いの有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[近所付き合いの有無]については、「互いの家をよく行き来する」と「ときどき行き来する」をあわせた『近所の方と行き来のある人』が16.9%となっており、高齢者世帯全体より2.5ポイント高い割合になっている。しかし、「ほとんどない」の回答割合も高齢者世帯全体より4.0ポイント高くなっている。(図26)

問26-1 近所付き合いがほとんどない理由

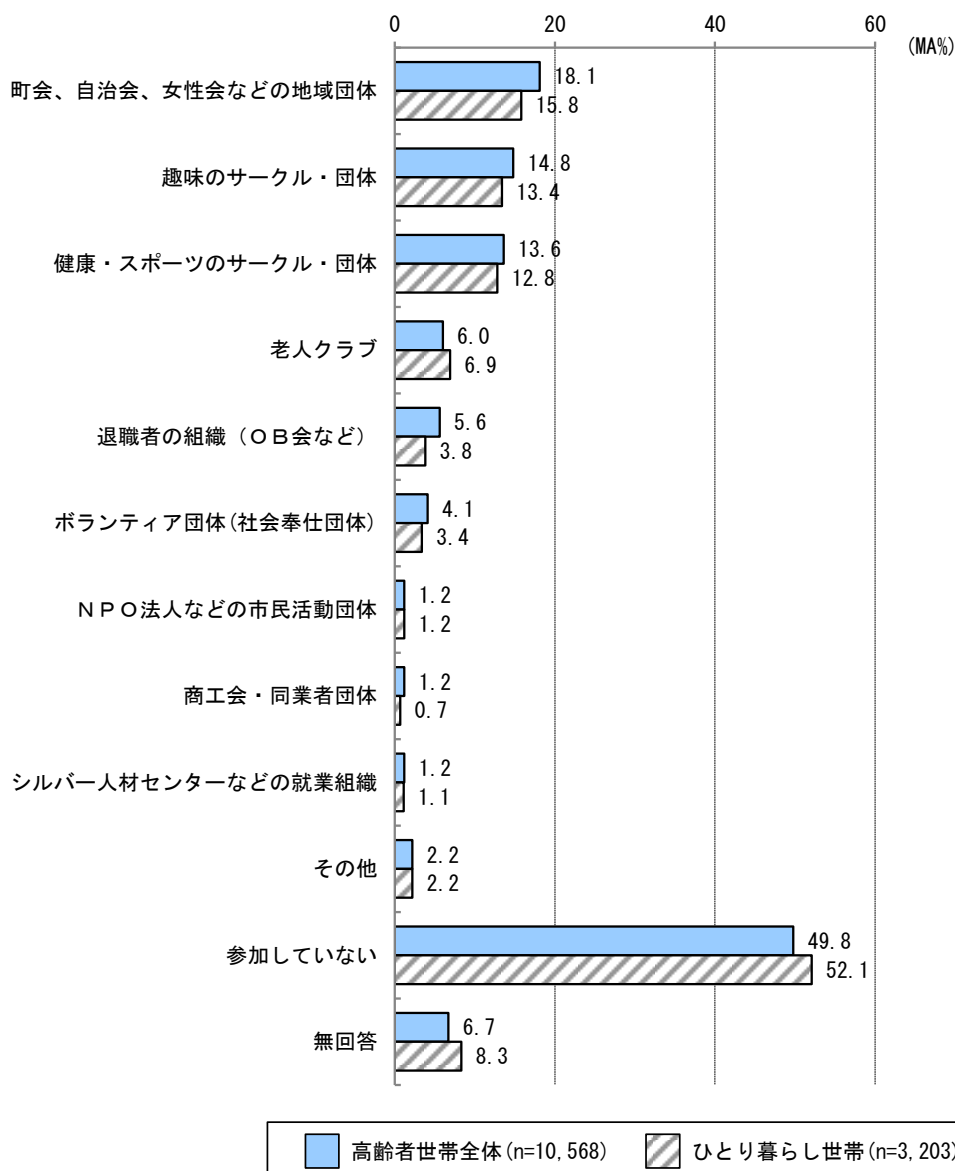
【図26-1 近所付き合いがほとんどない理由（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[近所付き合いがほとんどない理由]については、「近所と付き合いきっかけや機会がない」が42.3%で最も多く、高齢者世帯全体より2.8ポイント高い割合になっている。これに次いで、「あまり関わり合いをもちたくない」は31.5%、「気の合う人、話の合う人が近くにいない」は24.7%となっており、どちらも高齢者世帯全体より4ポイント以上高い割合になっている。(図26-1)

問27 地域活動への参画の有無

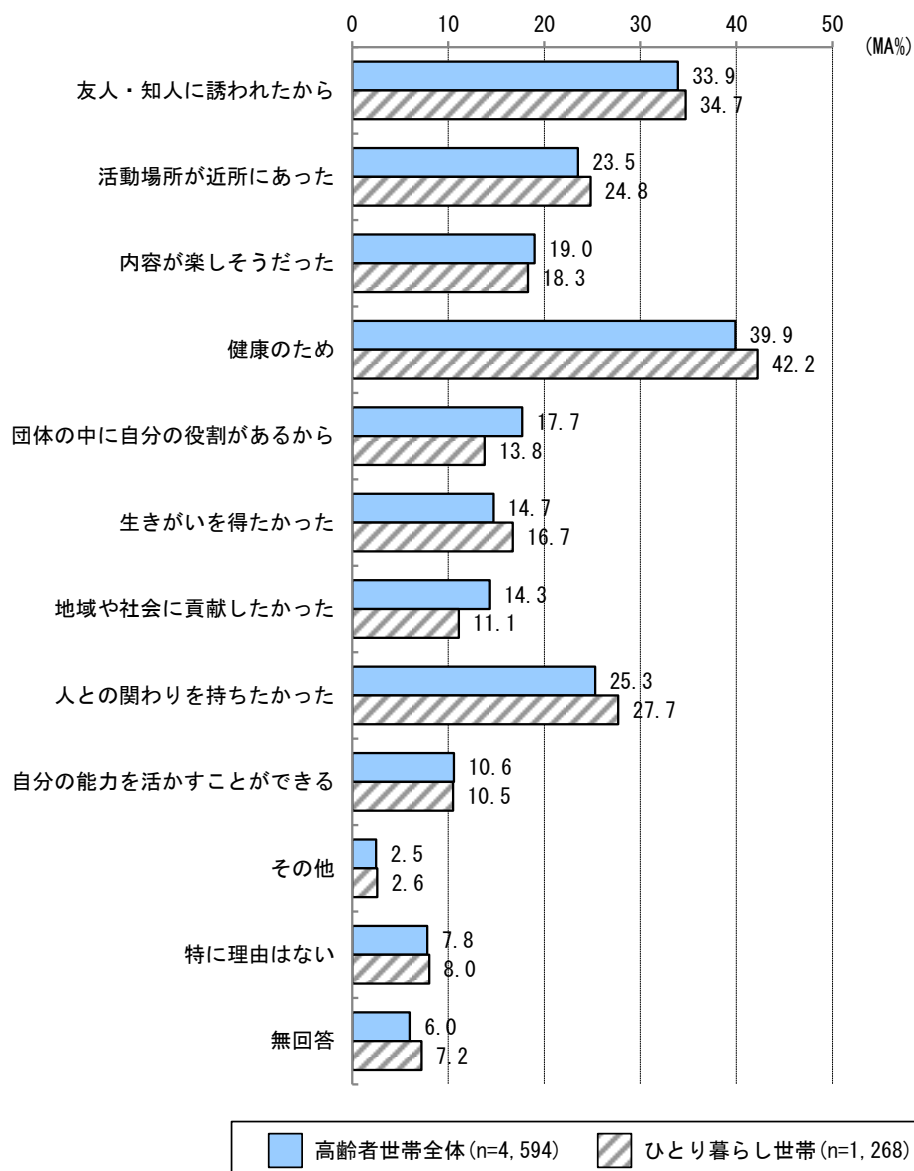
【図27 地域活動への参画の有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[地域活動への参画の有無]については、「参加していない」が52.1%を占めており、高齢者世帯全体より2.3ポイント高い割合になっている。また、「老人クラブ」以外の地域活動は、高齢者世帯全体より低い割合になっている。（図27）

問27-1 地域活動に参加するようになったきっかけ

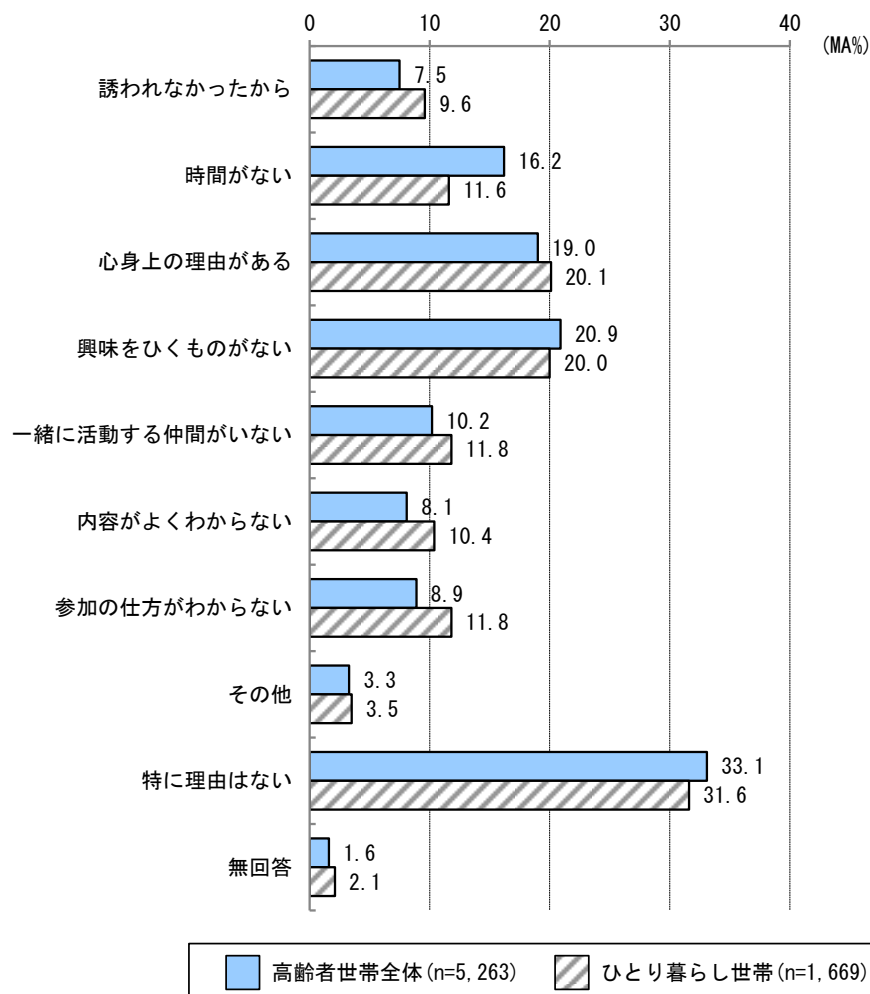
【図27-1 地域活動に参加するようになったきっかけ（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[地域活動に参加するようになったきっかけ]については、「健康のため」が42.2%で最も多く、「生きがいを得たかった」「人との関わりを持ちたかった」の回答割合も高齢者世帯全体より2ポイント以上高くなっている。一方、「団体の中に自分の役割があるから」と「地域や社会に貢献したかった」の回答割合は、高齢者世帯全体より3ポイント以上低くなっている。(図27-1)

問27-2 地域活動に参加していない理由

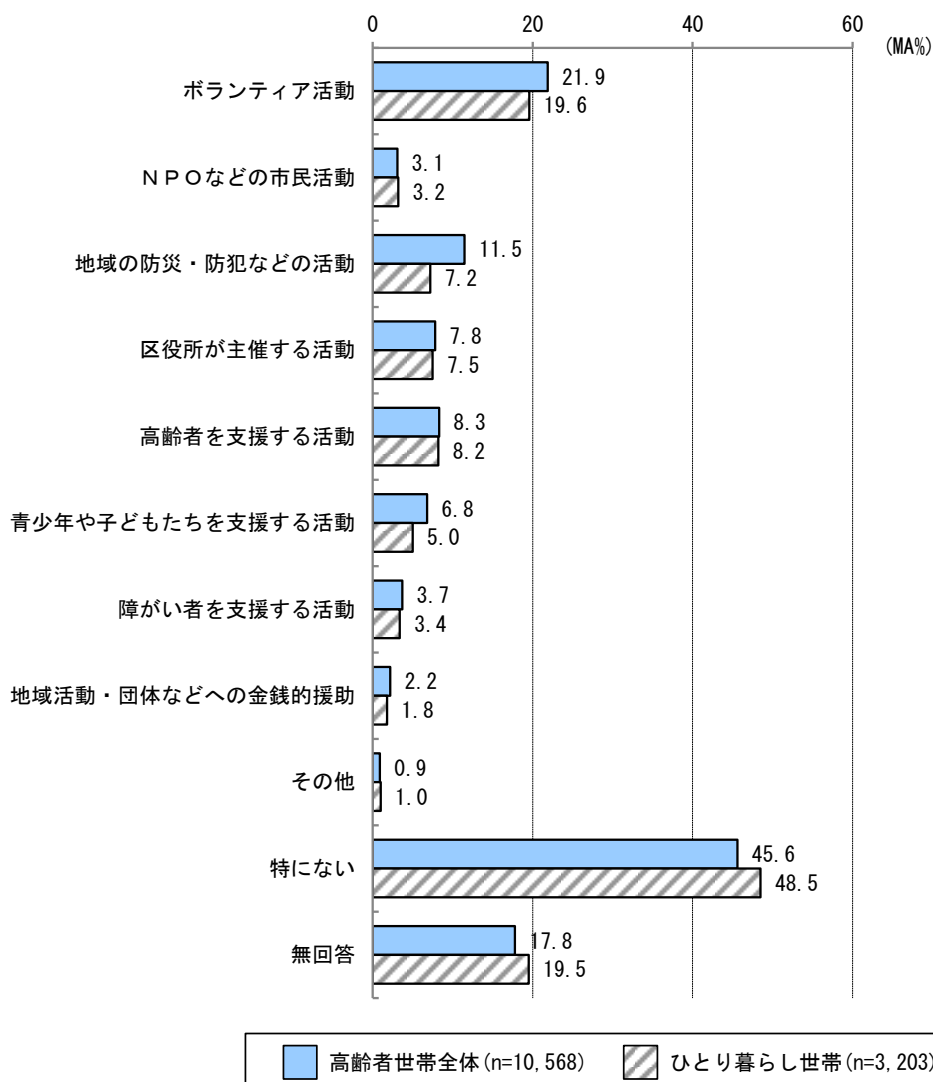
【図27-2 地域活動に参加していない理由（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[地域活動に参加していない理由]については、「特に理由はない」が31.6%で最も多いが、高齢者世帯全体より1.5ポイント低い割合になっている。また、「内容がよくわからない」と「参加の仕方がわからない」の回答割合は、高齢者世帯全体より2ポイント以上高くなっている。(図27-2)

問28 地域貢献のための活動

【図28 地域貢献のための活動（世帯比較）】

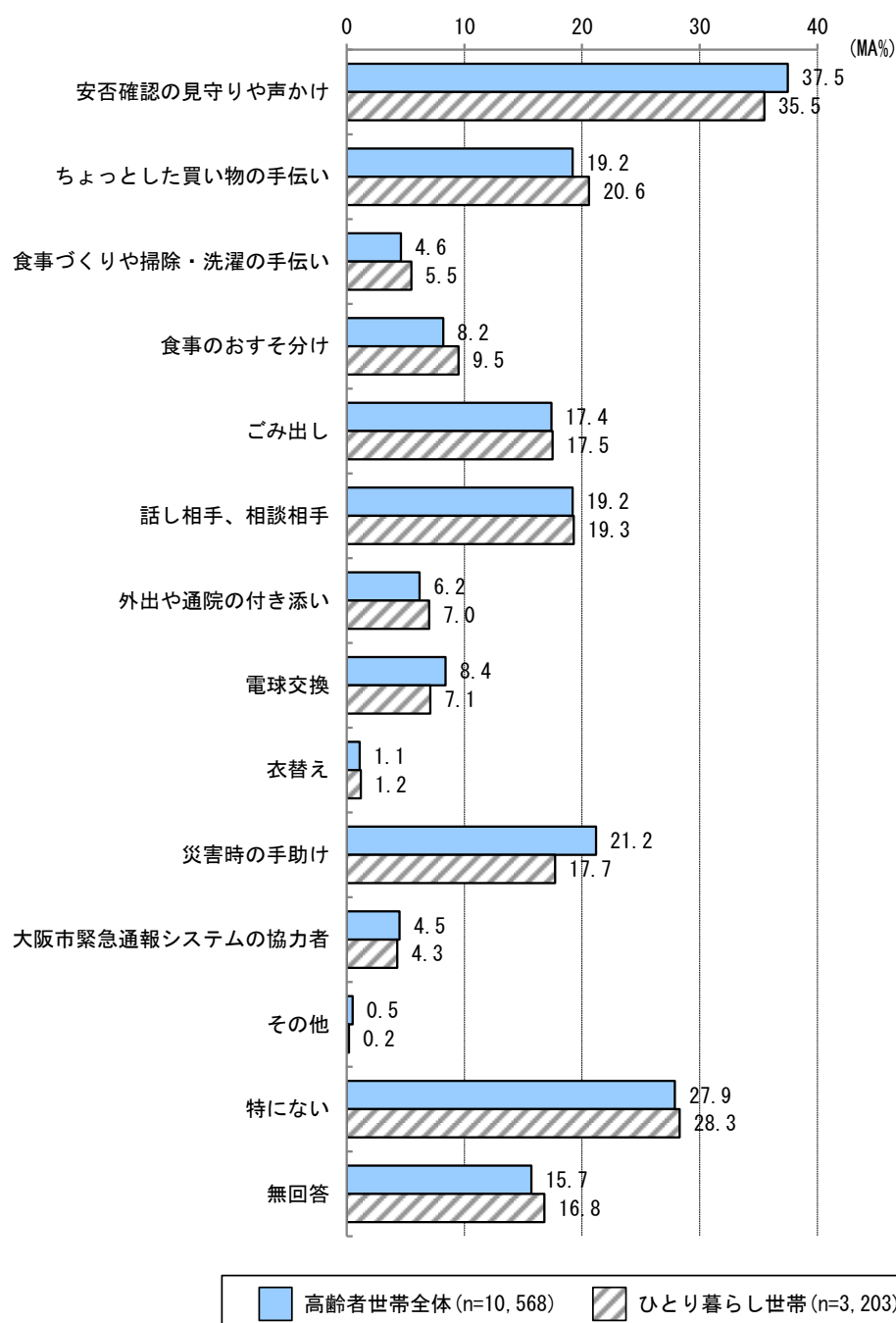


ひとり暮らし世帯の回答者の[地域貢献のための活動]については、「特になし」が48.5%で最も多く、高齢者世帯全体より2.9ポイント高い割合になっている。また、「NPOなどの市民活動」以外の回答割合は高齢者世帯全体より低くなっており、特に「地域の防災・防犯などの活動」の回答割合は4.3ポイント低くなっている。(図28)

問29 近隣への支援と近隣からの支援

①近所の人へ支援できること

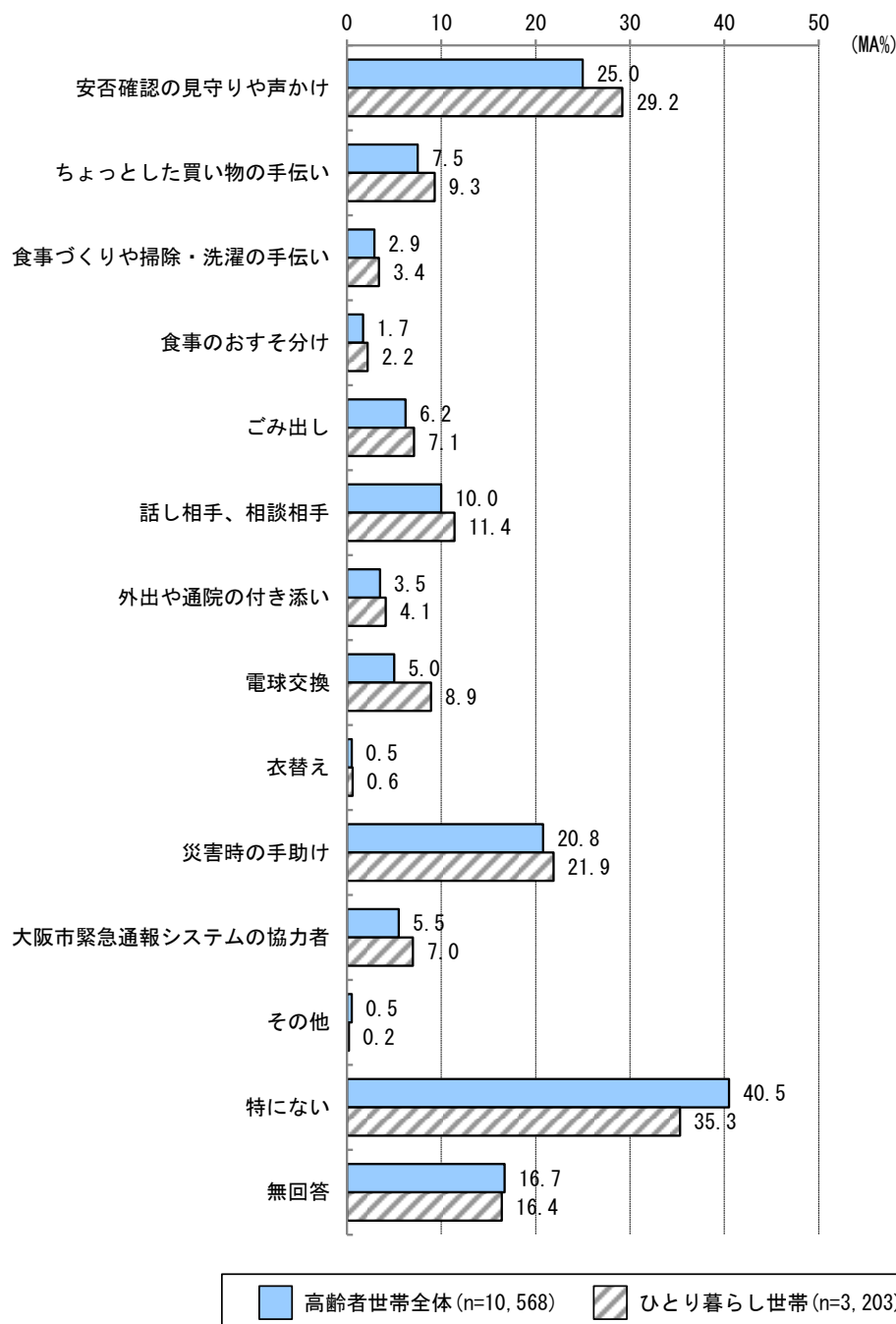
【図29① 近所の人へ支援できること（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[近所の人へ支援できること]については、「安否確認の見守りや声かけ」が35.5%で最も多いが、高齢者世帯全体より2.0ポイント低い割合になっている。また、「災害時の手助け」は17.7%で、高齢者世帯全体より3.5ポイント低い割合になっている。(図29①)

②近所の人から支援してほしいこと

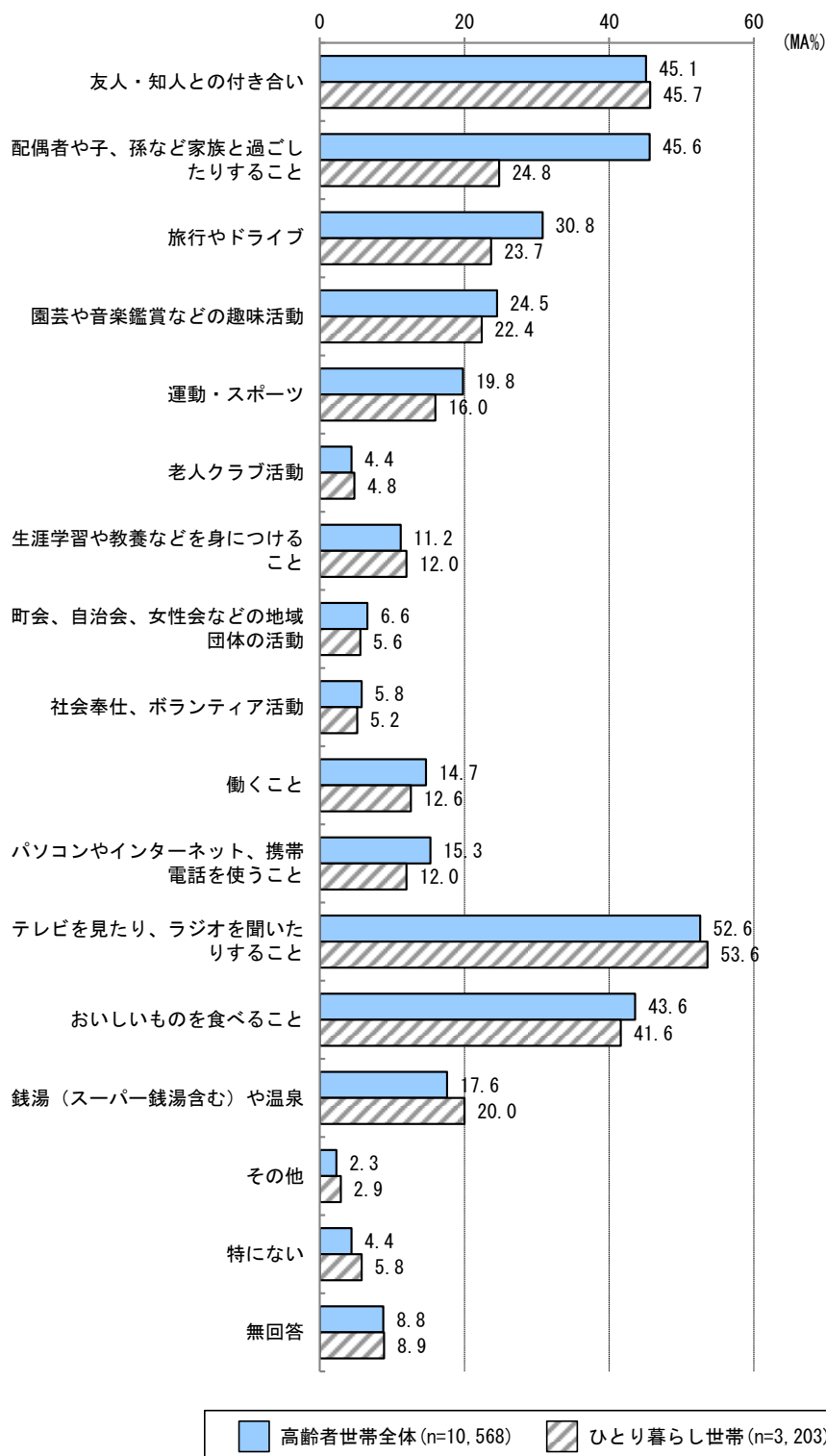
【図29② 近所の人から支援してほしいこと（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[近所の人から支援してほしいこと]については、「特にない」が35.3%で最も多いが、高齢者世帯全体より5.2ポイント低い割合になっている。また、高齢者世帯全体に比べて「安否確認の見守りや声かけ」の回答割合は4.2ポイント、「電球交換」の回答割合は3.9ポイント高くなっている。(図29②)

問30 楽しみや生きがい

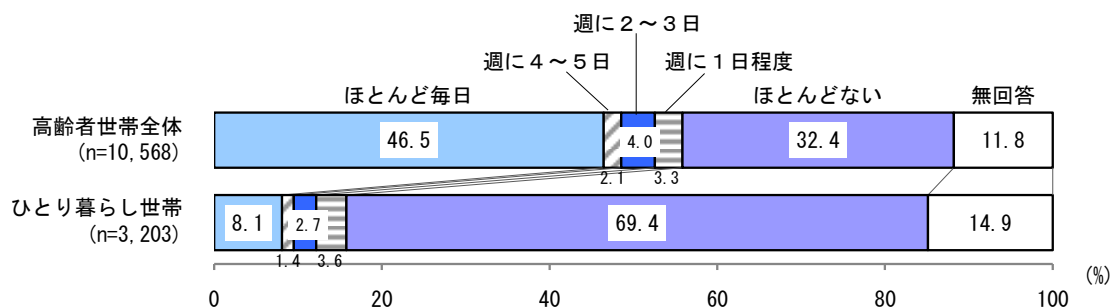
【図30 楽しみや生きがい（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[楽しみや生きがい]については、「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」が53.6%で最も多く、高齢者世帯全体より1.0ポイント高い割合になっている。一方、高齢者世帯全体に比べて「配偶者や子、孫など家族と過ごしたりすること」の回答割合は20.8ポイント、「旅行やドライブ」の回答割合は7.1ポイント低くなっている。（図30）

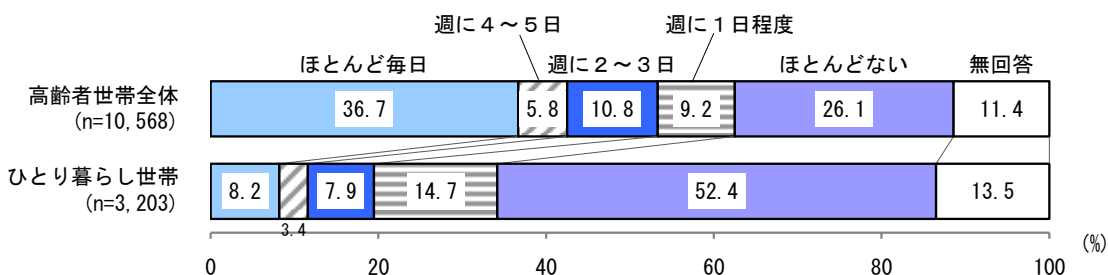
問31 共食頻度

【図31-a 共食頻度 (1) 朝食 (世帯比較)】



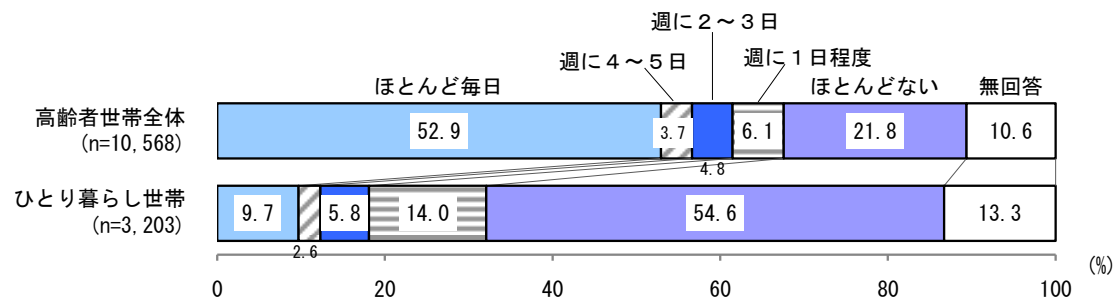
ひとり暮らし世帯の回答者の[共食頻度]について、朝食では「ほとんどない」が69.4%を占めており、高齢者世帯全体より37.0ポイント高い割合になっている。(図31-a)

【図31-b 共食頻度 (2) 昼食 (世帯比較)】



ひとり暮らし世帯の回答者の[共食頻度]について、昼食では「ほとんどない」が52.4%を占めており、高齢者世帯全体より26.3ポイント高い割合になっている。(図31-b)

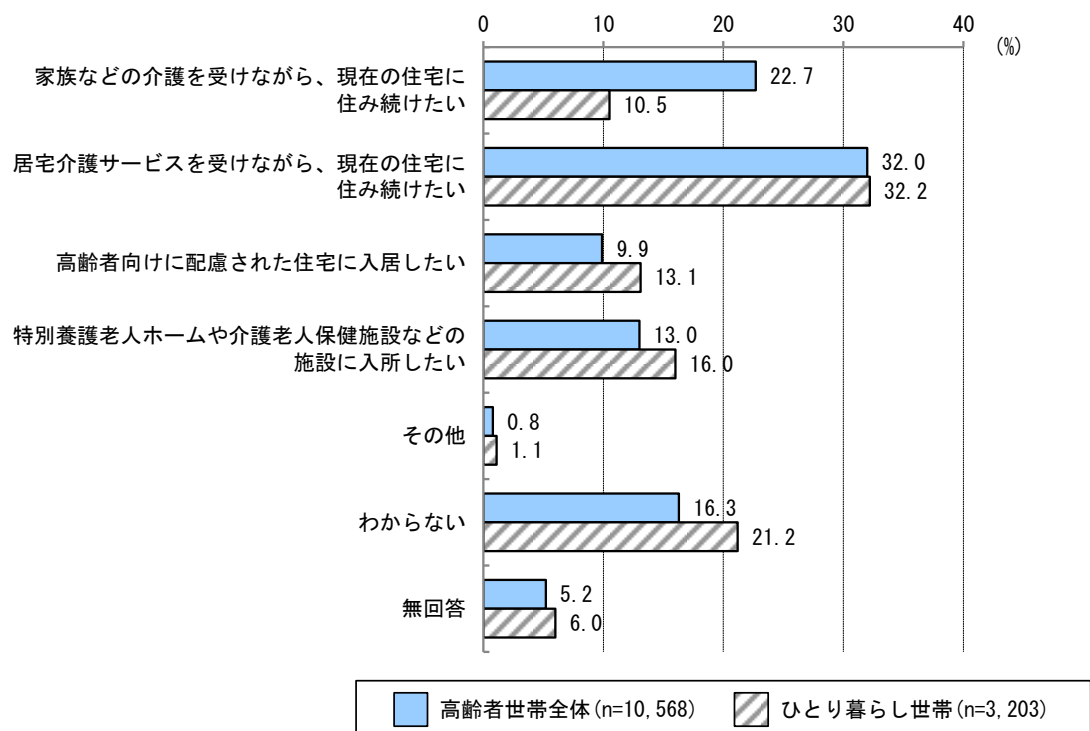
【図31-c 共食頻度 (3) 夕食 (世帯比較)】



ひとり暮らし世帯の回答者の[共食頻度]について、夕食では「ほとんどない」が54.6%を占めており、高齢者世帯全体より32.8ポイント高い割合になっている。(図31-c)

問32 介護が必要になった場合の暮らし方

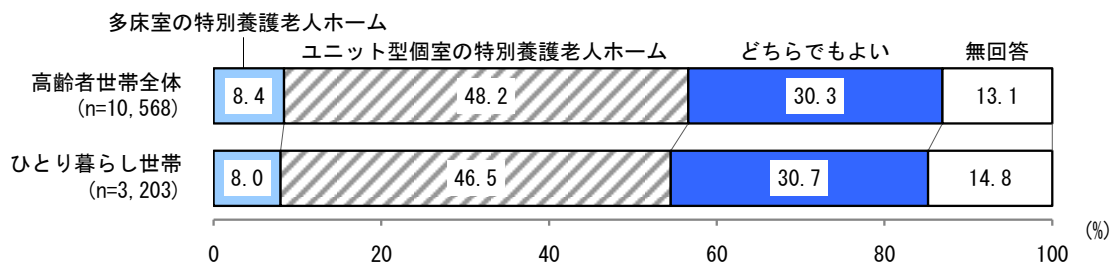
【図32 介護が必要になった場合の暮らし方（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[介護が必要になった場合の暮らし方]については、「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が32.2%で最も多く、高齢者世帯全体とほぼ同率となっている。また、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は高齢者世帯全体より12.2ポイント低く、「高齢者向けに配慮された住宅に入居したい」と「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの施設に入所したい」の回答割合は高齢者世帯全体より3ポイント以上高くなっている。(図32)

問33 特養入所意向

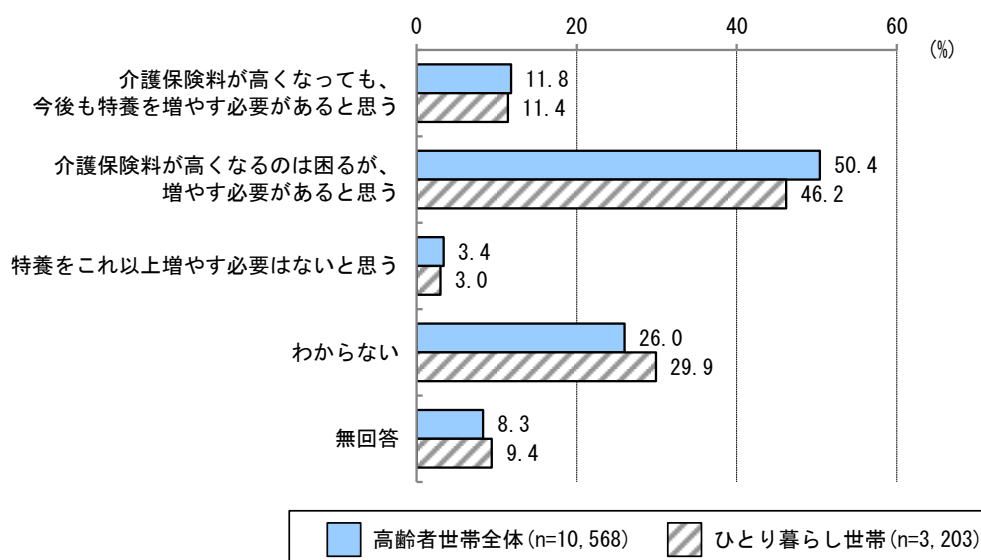
【図33 特養入所意向（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[特養入所意向]については、「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」が46.5%で最も多く、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。(図33)

問34 特養の整備と介護保険料

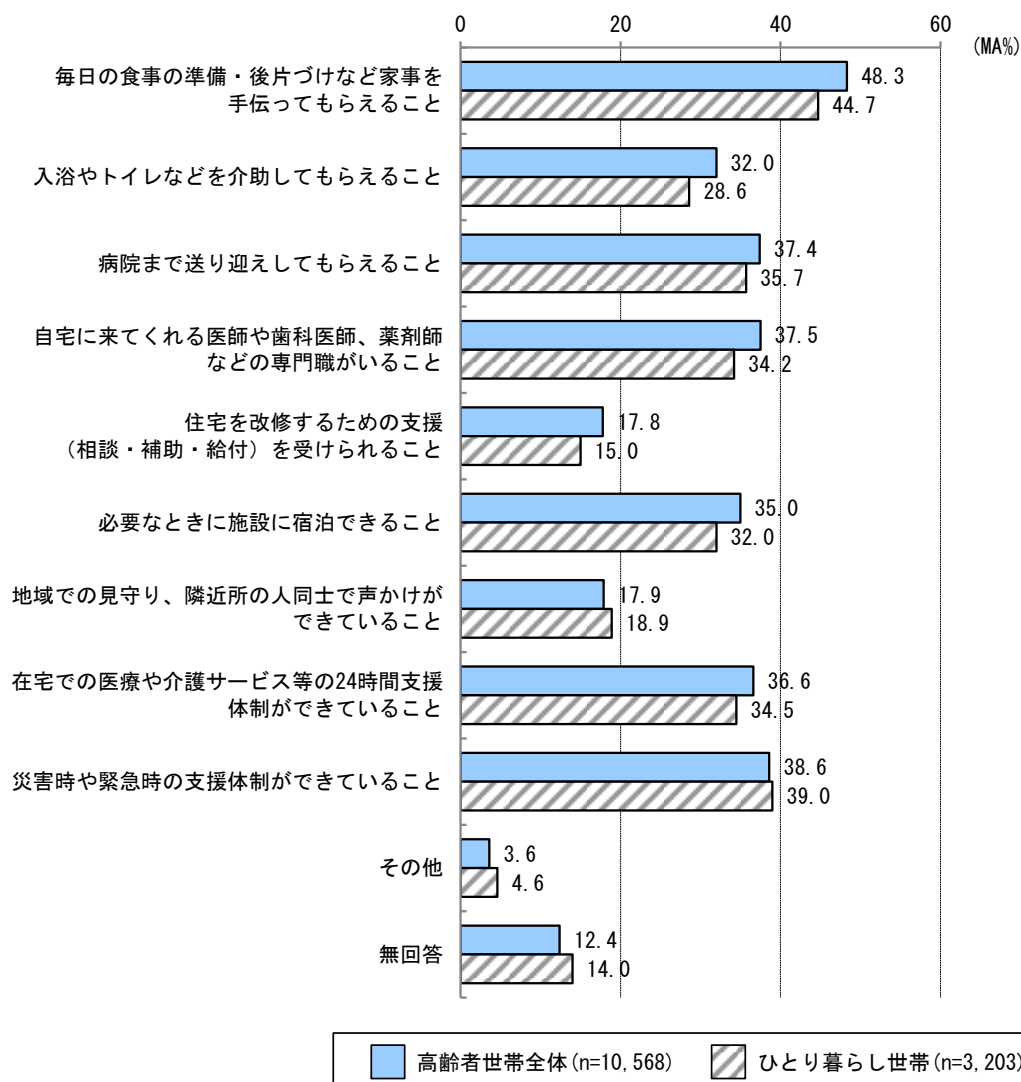
【図34 特養の整備と介護保険料（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[特養の整備と介護保険料]については、「介護保険料が高くなるのは困るが、増やす必要があると思う」が46.2%で最も多いが、高齢者世帯全体より4.2ポイント低い割合になっている。(図34)

問35 在宅生活継続のための支援

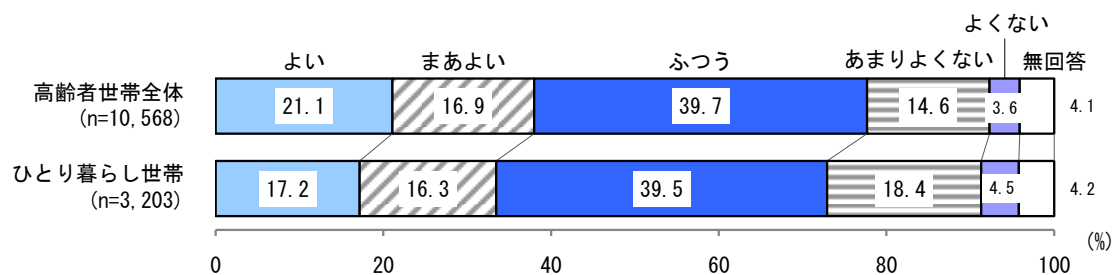
【図35 在宅生活継続のための支援（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[在宅生活継続のための支援]については、「毎日の食事の準備・後片づけなど家事を手伝ってもらえること」が44.7%で最も多いが、高齢者世帯全体より3.6ポイント低い割合になっている。また、「地域での見守り、隣近所の人同士で声かけができていないこと」と「災害時や緊急時の支援体制ができていないこと」の回答割合は、高齢者世帯全体よりやや高くなっている。（図35）

問36 現在の健康状態

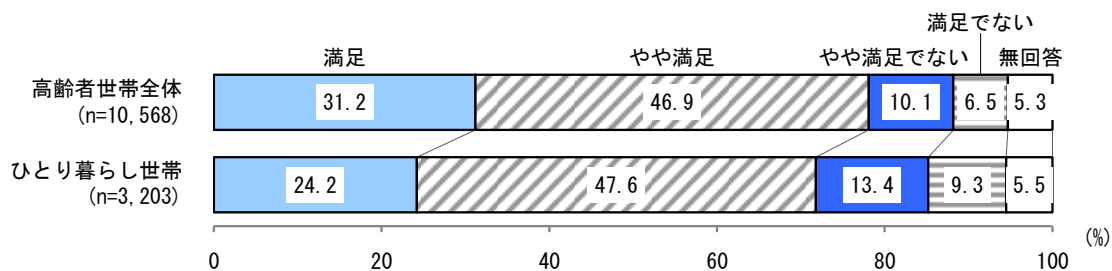
【図36 現在の健康状態（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[現在の健康状態]については、「よい」と「まあよい」をあわせた『よい』人は33.5%で、高齢者世帯全体より4.5ポイント低い割合になっている。(図36)

問37 現在の生活の満足度

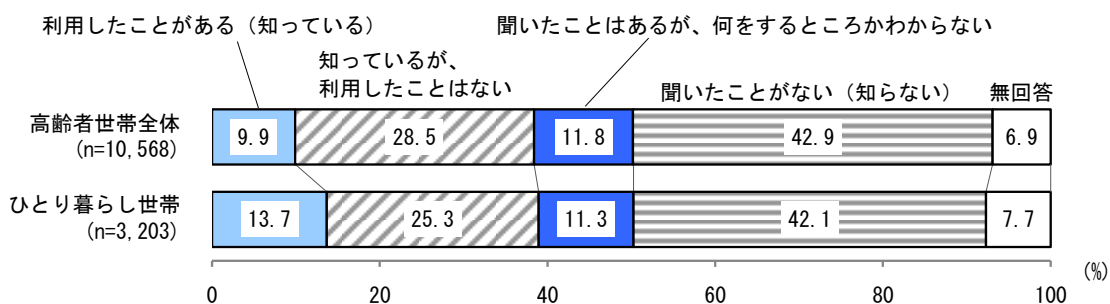
【図37 現在の生活の満足度（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[現在の生活の満足度]については、「やや満足でない」と「満足でない」をあわせた『満足でない』人は22.7%で、高齢者世帯全体より6.1ポイント高い割合になっている。(図37)

問38 地域包括支援センター・ランチの利用状況

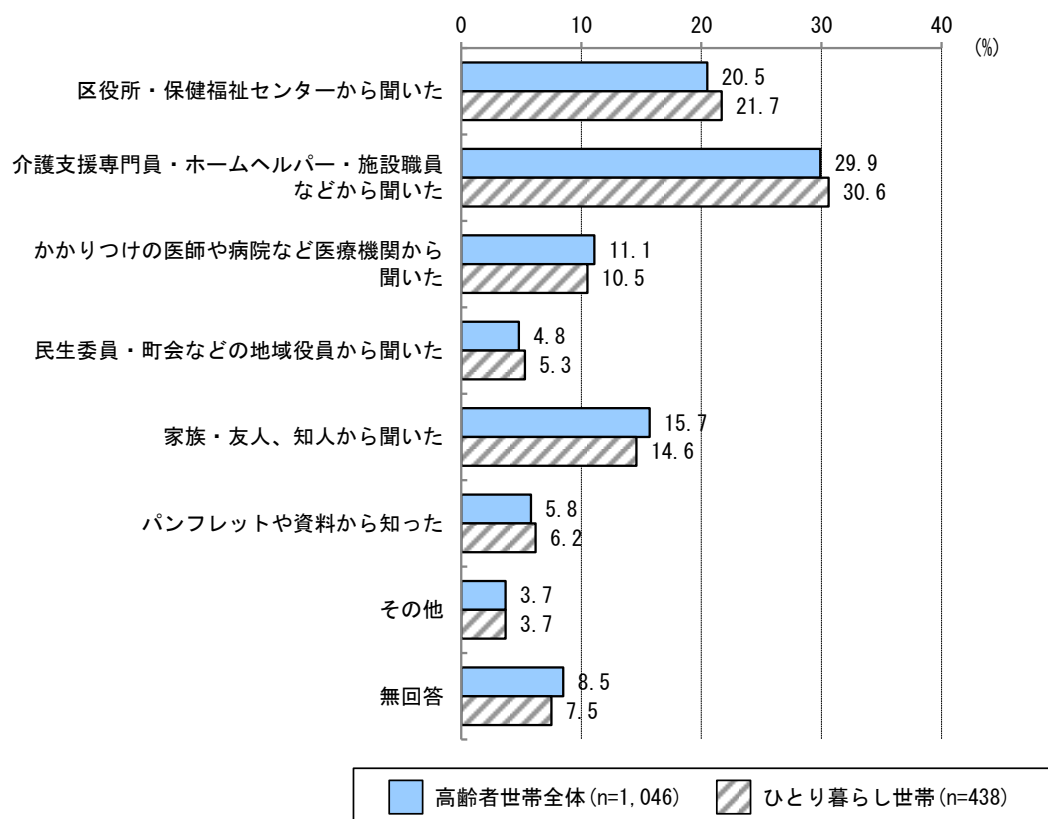
【図38 地域包括支援センター・ランチの利用状況（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[地域包括支援センター・ランチの利用状況]について、「利用したことがある（知っている）」は13.7%で、高齢者世帯全体より3.8ポイント高い割合になっている。(図38)

問38-1 地域包括支援センター・ブランチを知った経緯

【図38-1 地域包括支援センター・ブランチを知った経緯（世帯比較）】

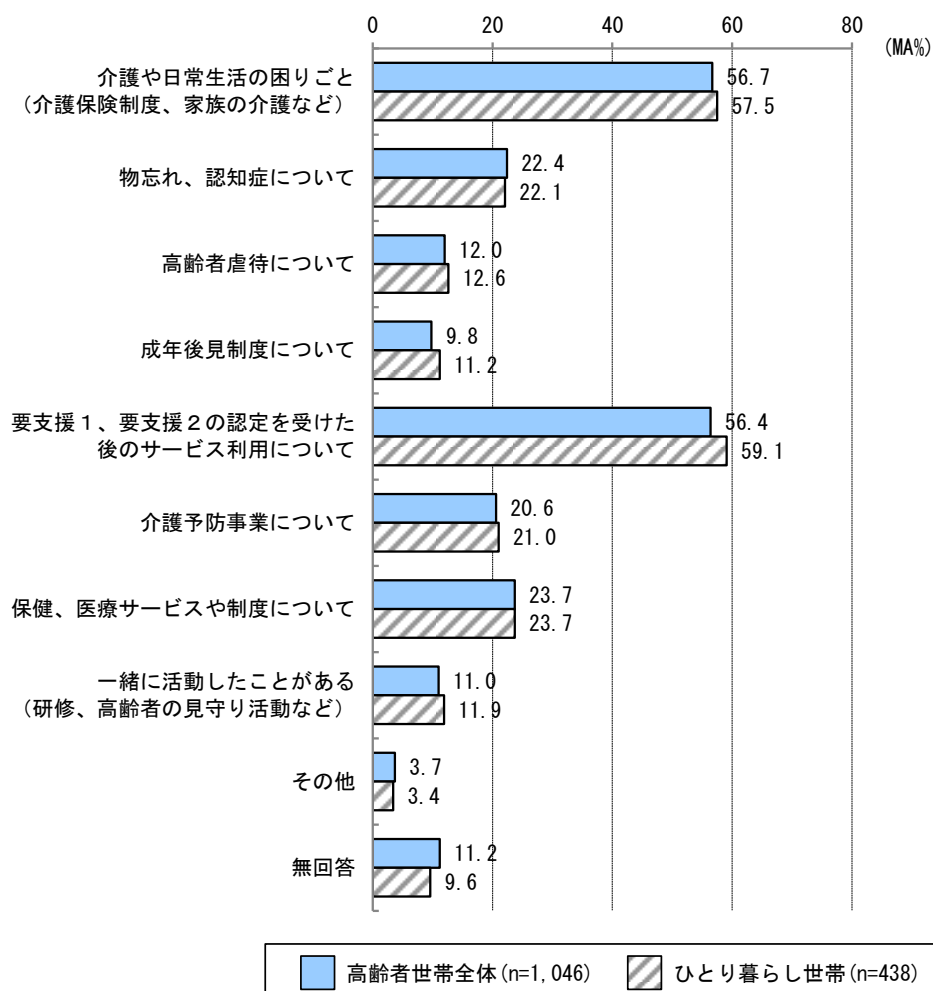


ひとり暮らし世帯の回答者の[地域包括支援センター・ブランチを知った経緯]については、「介護支援専門員・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた」が30.6%で最も多く、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。(図38-1)

問38-2 地域包括支援センター・ランチの利用目的と満足度

①地域包括支援センター・ランチを利用（相談）した目的

【図38-2① 地域包括支援センター・ランチを利用（相談）した目的（世帯比較）】



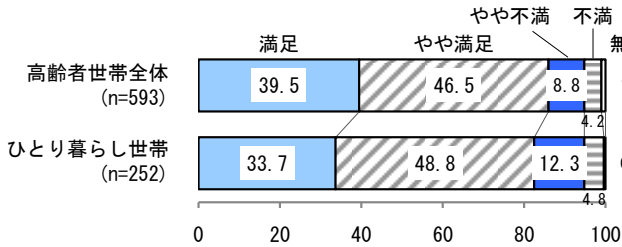
ひとり暮らし世帯の回答者の[地域包括支援センター・ランチを利用（相談）した目的]については、「要支援1、要支援2の認定を受けた後のサービス利用について」が59.1%で最も多く、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。(図38-2①)

②地域包括支援センター・ブランチの満足度

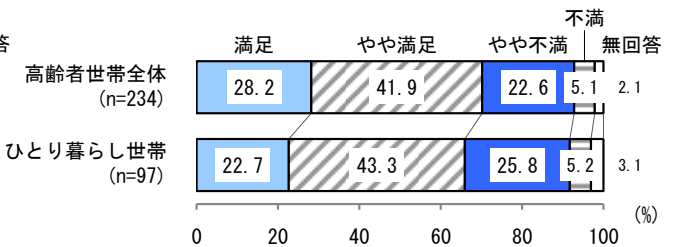
【図38-2② 地域包括支援センター・ブランチの満足度（世帯比較）】

(1) 介護や日常生活の困りごと

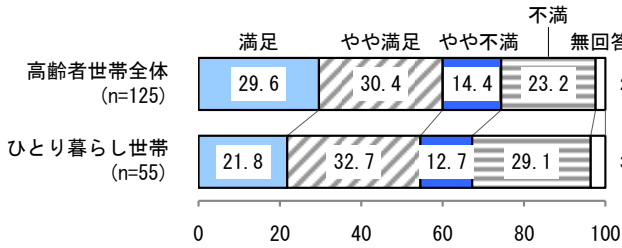
(介護保険制度、家族の介護など)



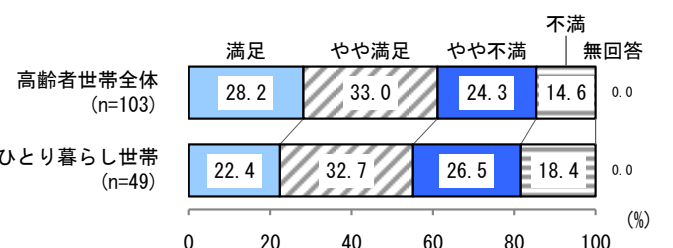
(2) 物忘れ、認知症について



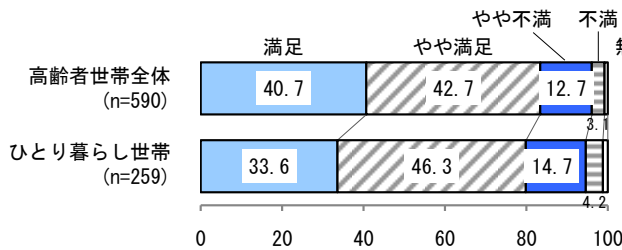
(3) 高齢者虐待について



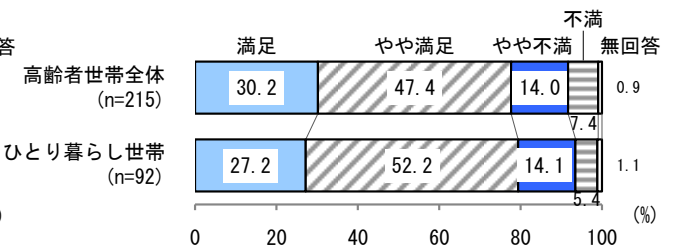
(4) 成年後見制度について



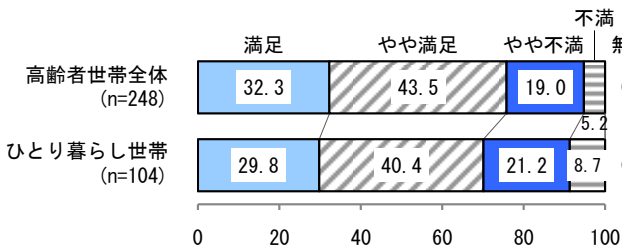
(5) 要支援1、要支援2の認定を受けた後のサービス利用について



(6) 介護予防事業について

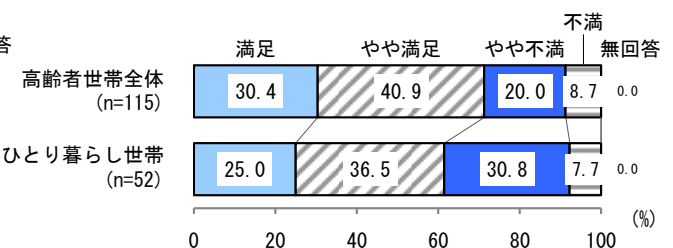


(7) 保健、医療サービスや制度について



(8) 一緒に活動したことがある

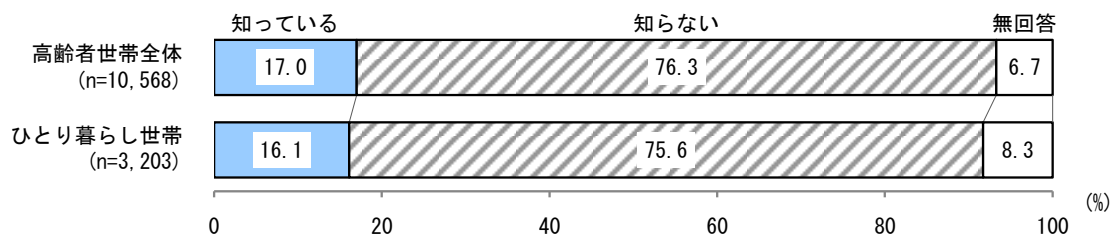
(研修、高齢者の見守り活動など)



ひとり暮らし世帯の回答者の[地域包括支援センター・ブランチの満足度]について、『満足度』の高い回答割合では、“(6) 介護予防事業について”が高齢者世帯全体より高く、それ以外の項目は高齢者世帯全体より低くなっている。(図38-2②)

問39 高齢者虐待の相談先の認知度

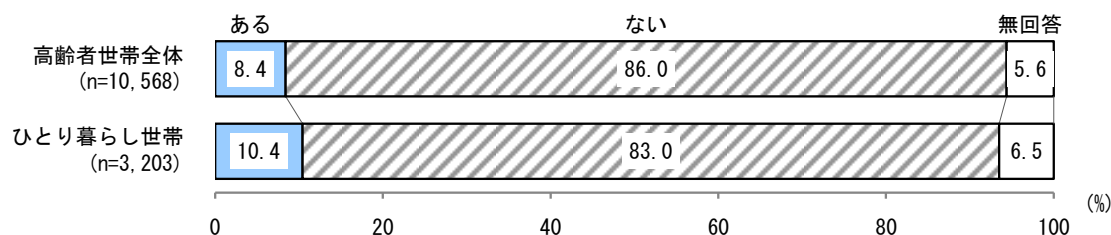
【図39 高齢者虐待の相談先の認知度（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[高齢者虐待の相談先の認知度]については、「知っている」は16.1%となっており、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。（図39）

問40 消費者被害の経験有無

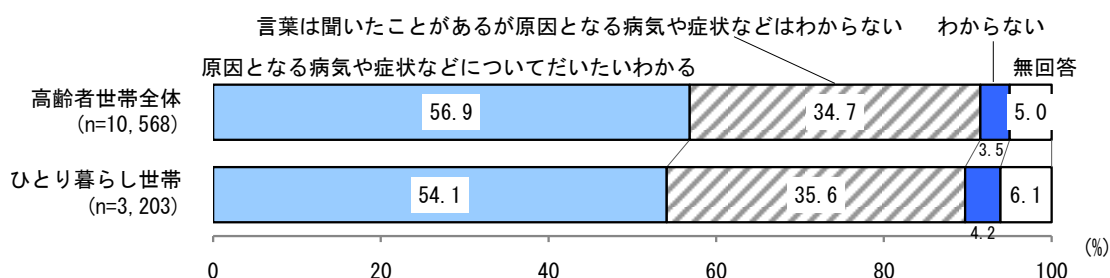
【図40 消費者被害の経験有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[消費者被害の経験有無]については、「ある」が10.4%となっており、高齢者世帯全体より2.0ポイント高い割合になっている。（図40）

問41 認知症の認知度

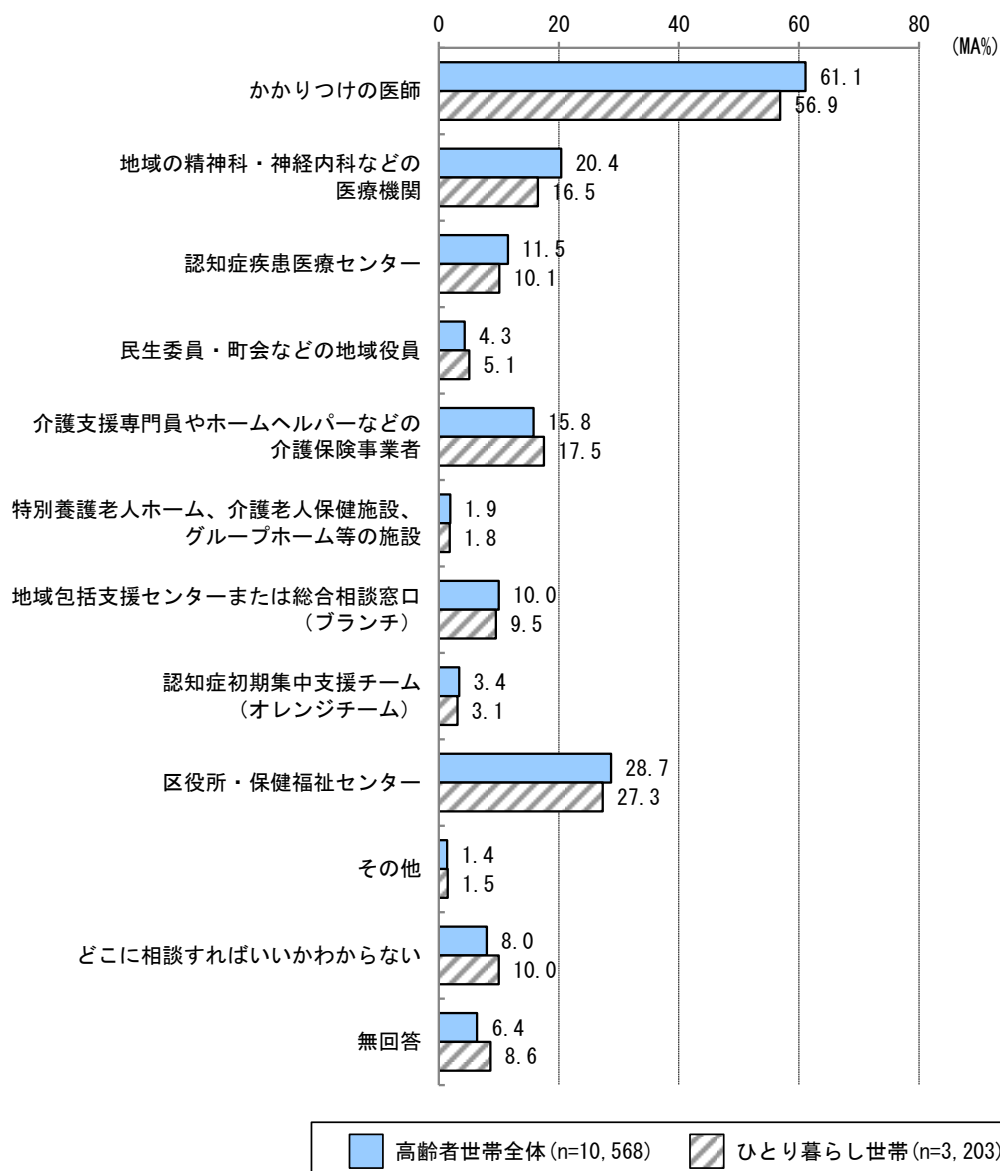
【図41 認知症の認知度（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[認知症の認知度]については、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」が54.1%を占めているが、高齢者世帯全体より2.8ポイント低い割合になっている。（図41）

問42 認知症についての相談先

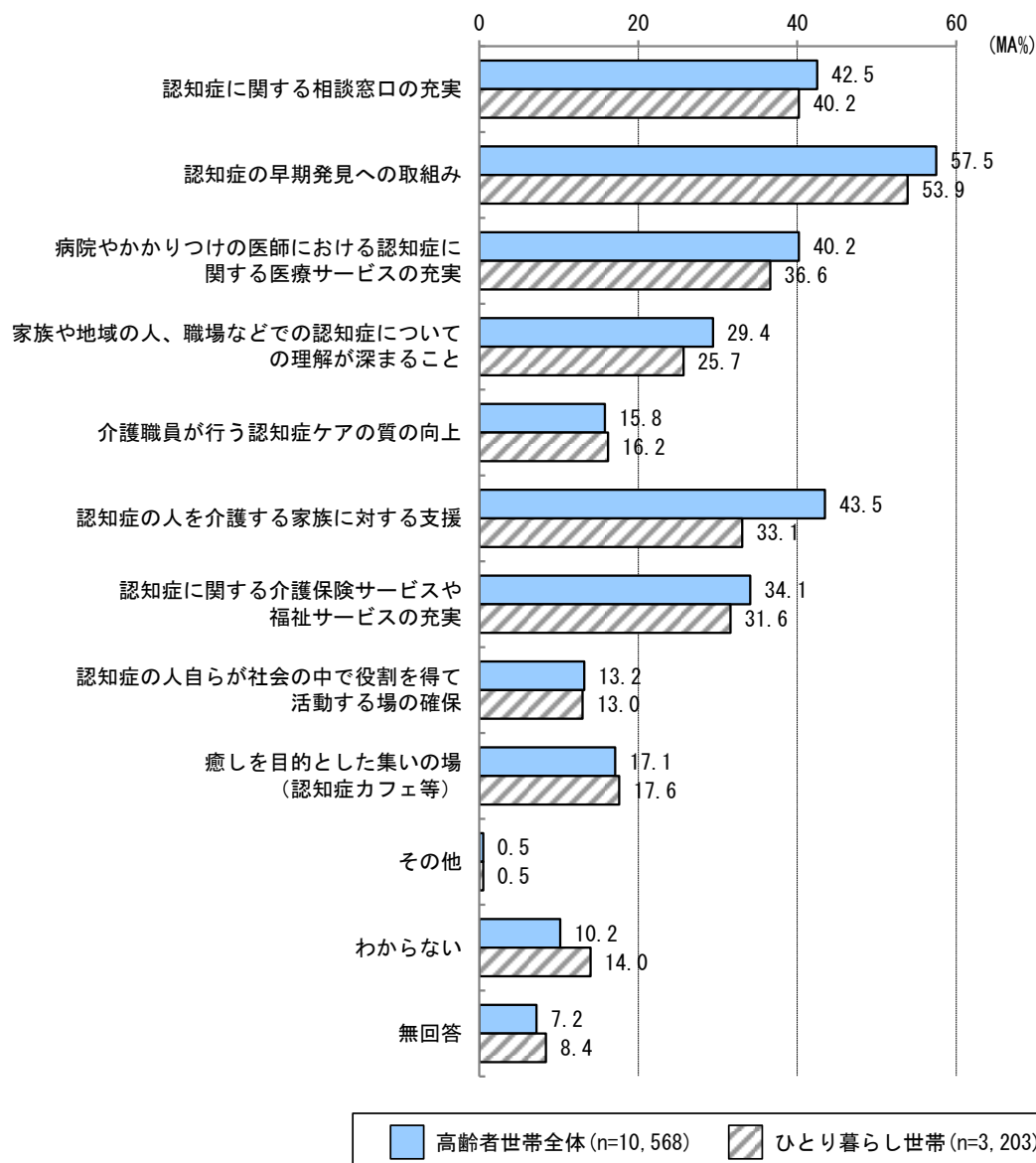
【図42 認知症についての相談先（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[認知症についての相談先]については、「かかりつけの医師」が56.9%で最も多いが、高齢者世帯全体より4.2ポイント低い割合になっている。また、「民生委員・町会などの地域役員」と「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」の回答割合は、高齢者世帯全体よりやや高くなっている。(図42)

問43 認知症の人の支援

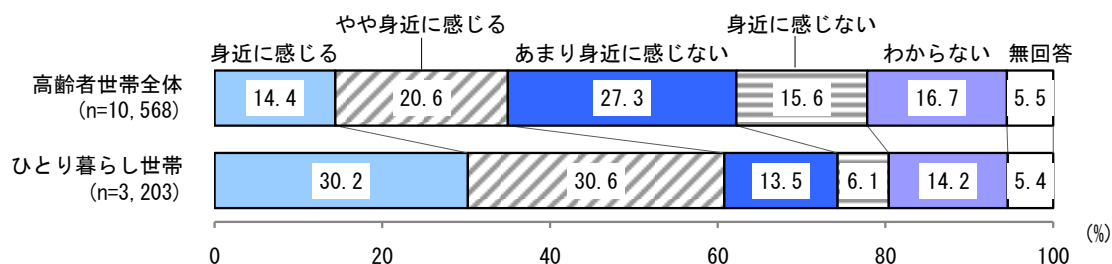
【図43 認知症の人の支援（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の「認知症の人の支援」については、「認知症への早期発見への取り組み」が53.9%で最も多いが、高齢者世帯全体より3.6ポイント低い割合になっている。なお、「認知症の人を介護する家族に対する支援」の回答割合は、高齢者世帯全体より10.4ポイント低くなっている。（図43）

問44 孤立死に対する意識

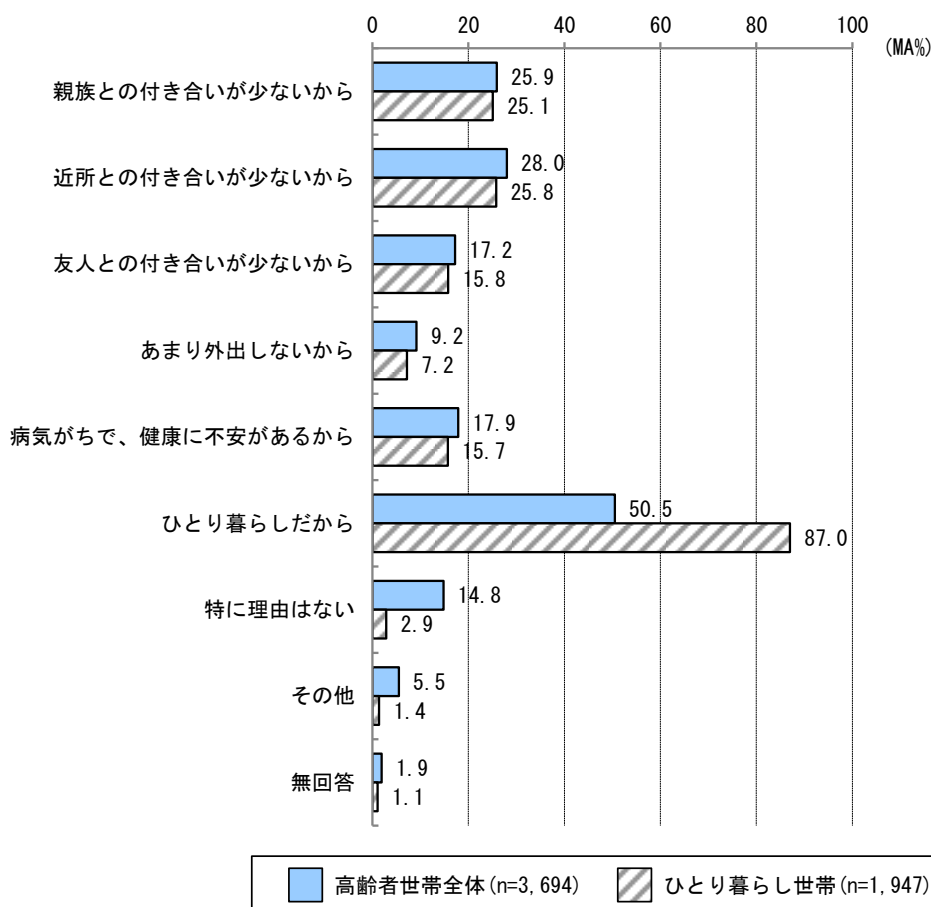
【図44 孤立死に対する意識（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[孤立死に対する意識]については、「やや身近に感じる」が30.6%で最も多く、次いで「身近を感じる」が30.2%で、これらをあわせた『身近を感じる』の回答割合は60.8%を占めており、高齢者世帯全体より25.8ポイント高くなっている。(図44)

問44-1 孤立死を身近に感じる理由

【図44-1 孤立死を身近に感じる理由（世帯比較）】

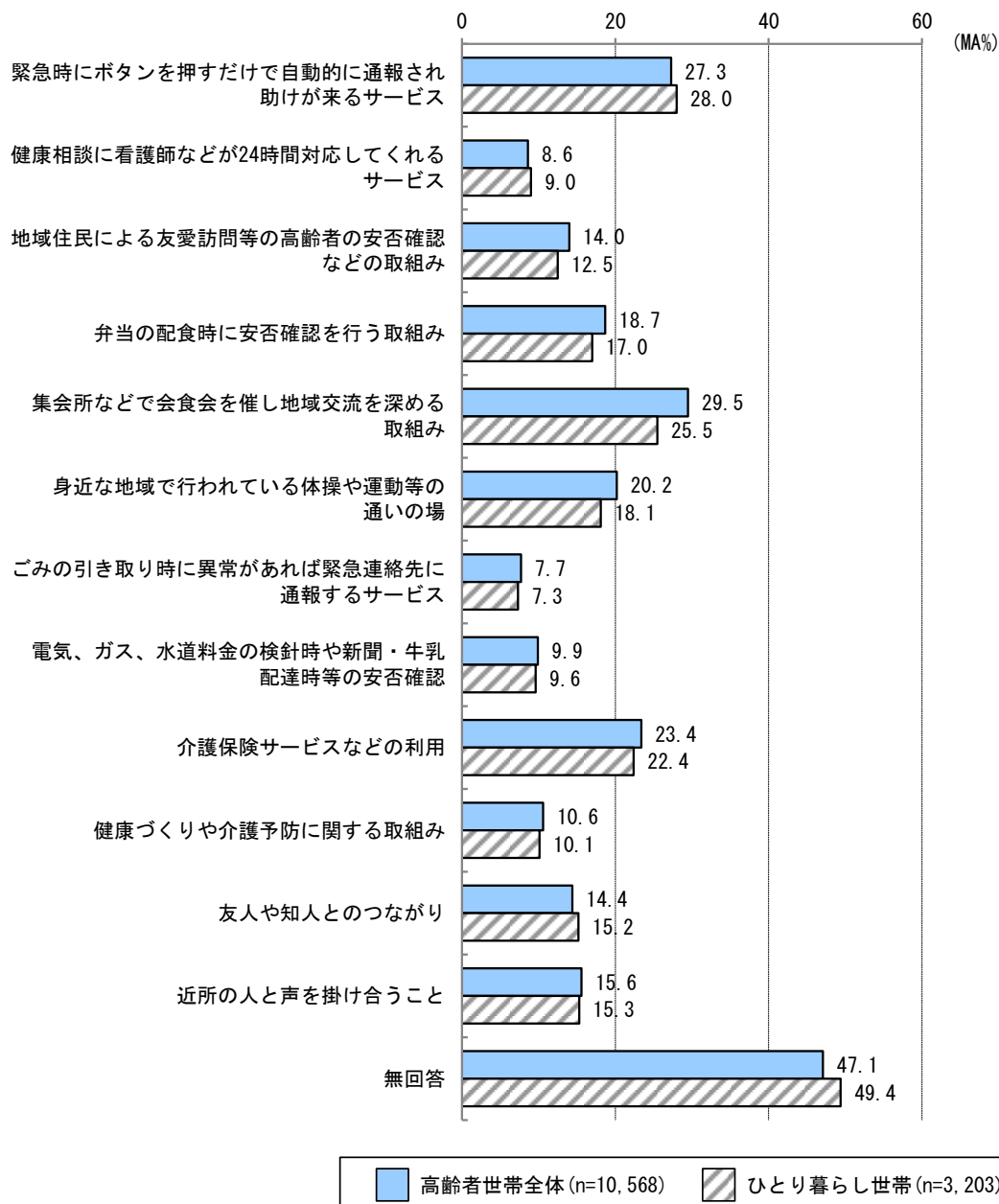


ひとり暮らし世帯の回答者の[孤立死を身近に感じる理由]については、「ひとり暮らしだから」が87.0%で最も多く、高齢者世帯全体より36.5ポイント高い割合になっている。(図44-1)

問45 地域での見守り活動の認知度と必要性

①地域での見守り活動の認知度

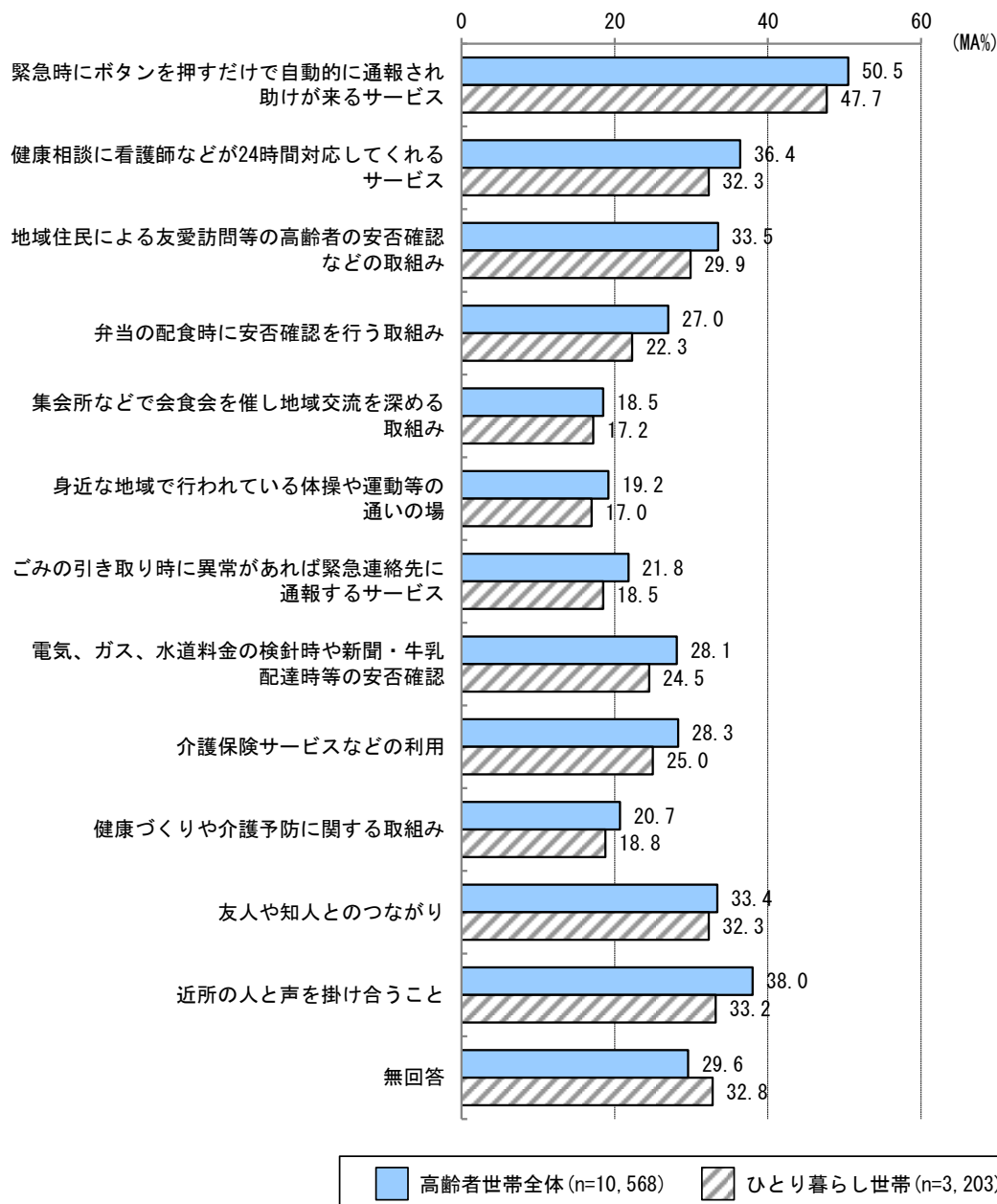
【図45① 地域での見守り活動の認知度（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[地域での見守り活動の認知度]については、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が28.0%で最も多く、高齢者世帯全体よりやや高い割合になっている。また、「地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み」「弁当の配食時に安否確認を行う取組み」「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み」「身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場」といった地域住民との関わりをもつ取組みの回答割合は、高齢者世帯全体より低くなっている。(図45①)

②地域での見守り活動の必要性

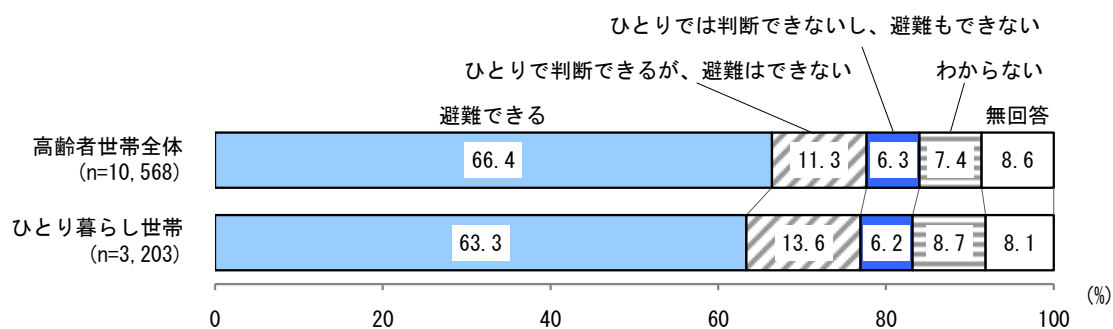
【図45② 地域での見守り活動の必要性（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[地域での見守り活動の必要性]については、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が47.7%で最も多く、次いで「近所の人と声を掛け合うこと」が33.2%、「健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス」と「友人や知人とのつながり」がともに32.3%となっており、高齢者世帯全体と同様の傾向となっているが、いずれの活動もひとり暮らし世帯のほうが低い割合になっている。（図45②）

問46 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否

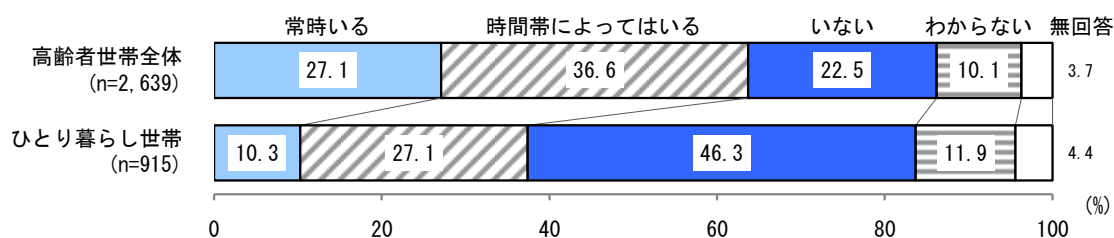
【図46 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[災害時・緊急時にひとりでの避難の可否]については、「避難できる」が63.3%で最も多いが、高齢者世帯全体より3.1ポイント低い割合になっている。また、「ひとりでは判断できるが、避難はできない」は13.6%で、高齢者世帯全体より2.3ポイント高い割合になっている。(図46)

問46-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無

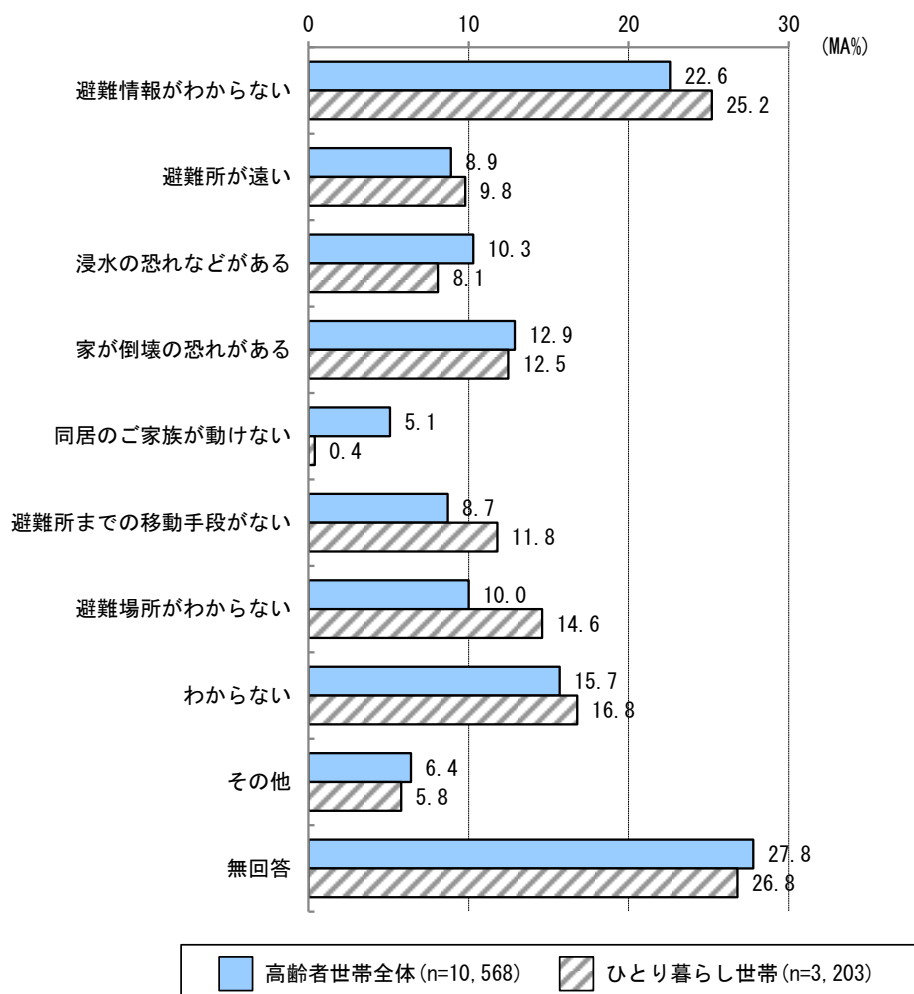
【図46-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無]については、「いない」が46.3%で最も多く、高齢者世帯全体より23.8ポイント高い割合になっている。(図46-1)

問47 災害時の心配事

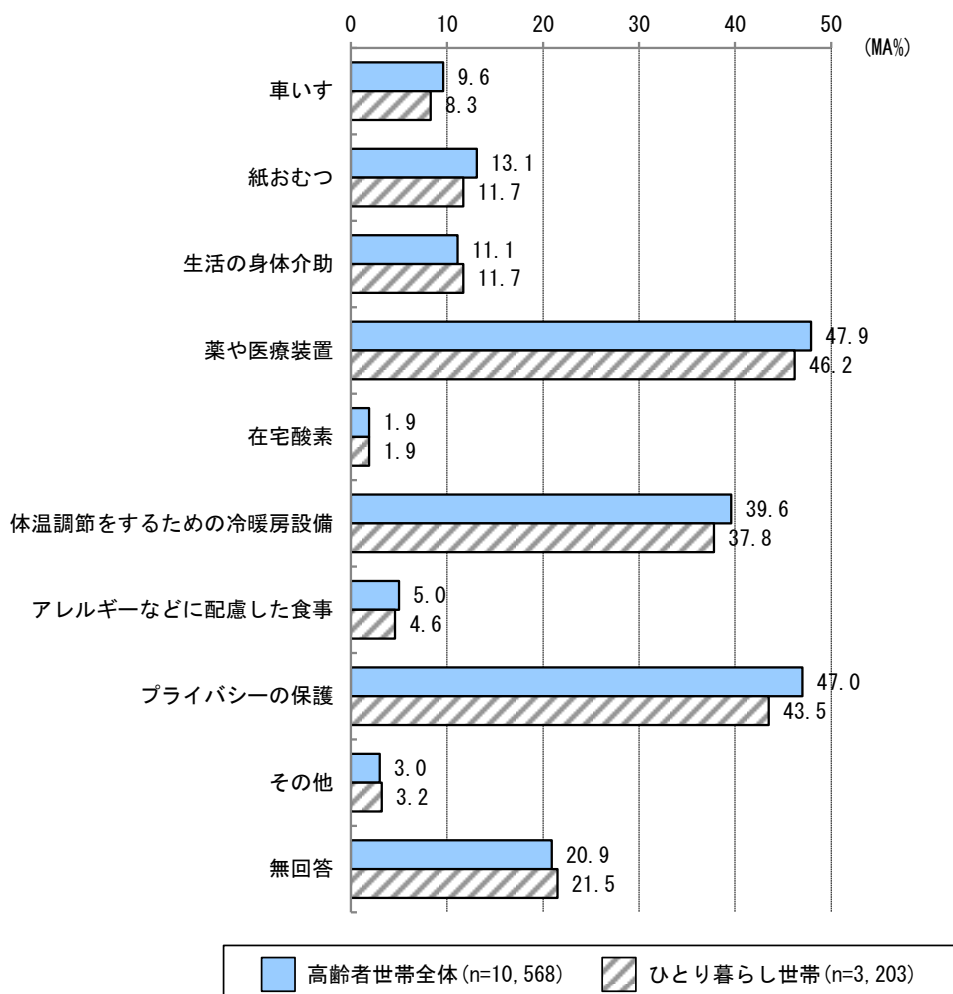
【図47 災害時の心配事（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[災害時の心配事]については、「避難情報がわからない」が25.2%で最も多く、高齢者世帯全体より2.6ポイント高い割合になっている。また、高齢者世帯全体に比べて「避難所までの移動手段がない」の回答割合は3.1ポイント、「避難場所がわからない」の回答割合は4.6ポイント低くなっている。(図47)

問48 避難所生活するうえで必要なもの

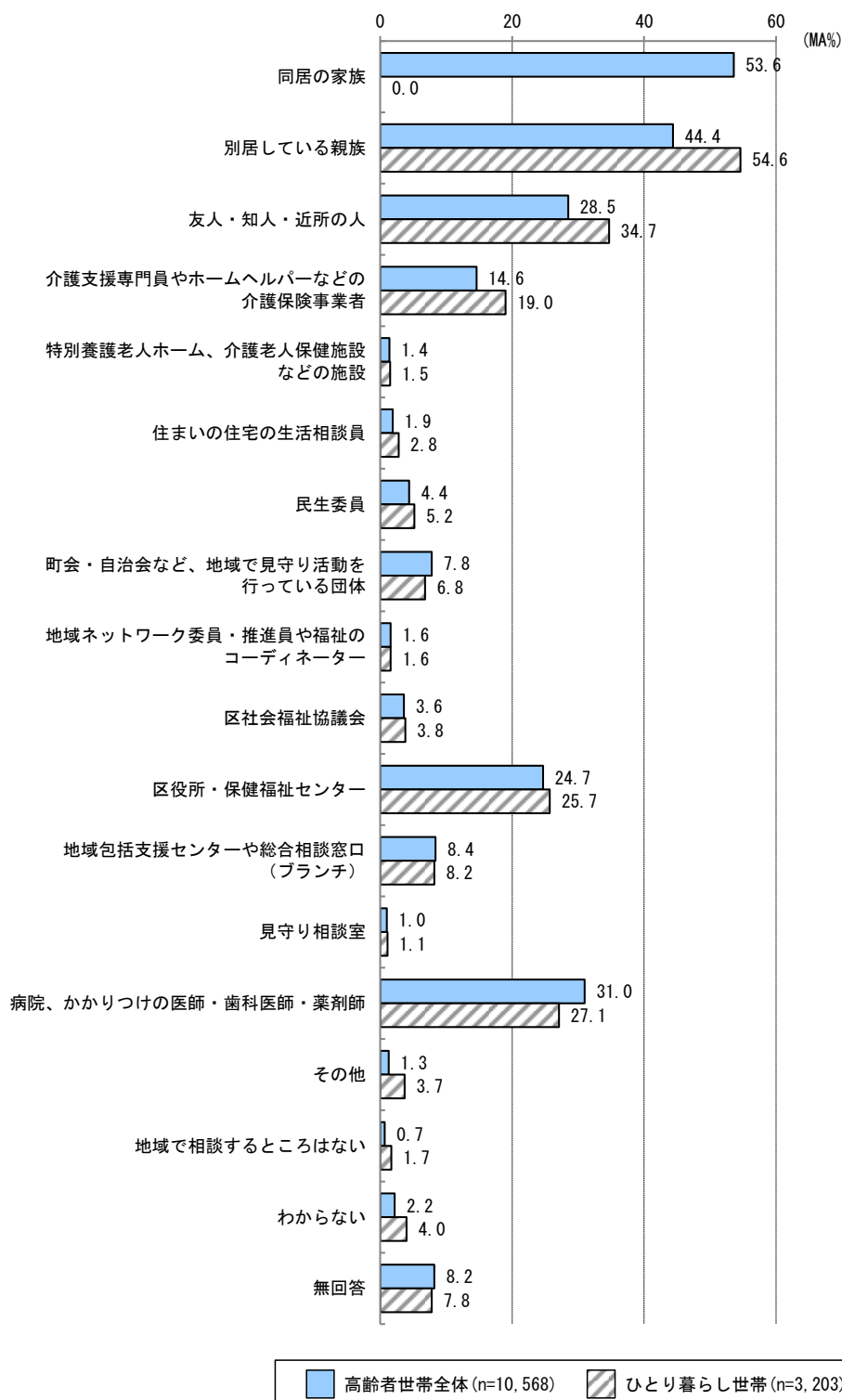
【図48 避難所生活するうえで必要なもの（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[避難所生活するうえで必要なもの]については、「薬や医療装置」が46.2%で最も多いが、高齢者世帯全体より1.7ポイント低い割合になっている。なお、「生活の身体介助」以外の回答割合は、高齢者世帯全体より低く、特に「プライバシーの保護」は3.5ポイント低くなっている。(図48)

問49 困ったときの相談先

【図49 困ったときの相談先（世帯比較）】

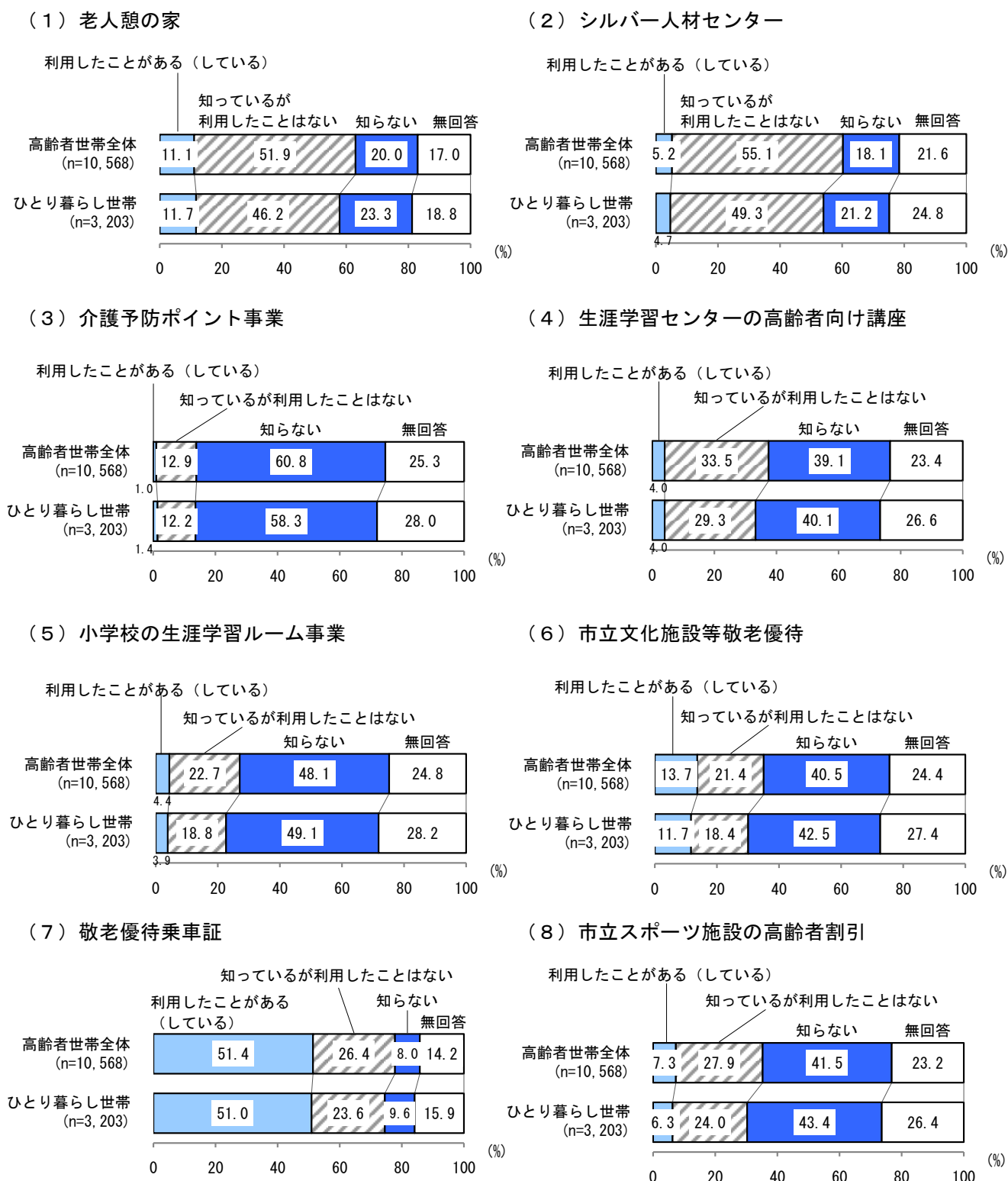


ひとり暮らし世帯の回答者の[困ったときの相談先]については、「別居している親族」が54.6%で最も多く、高齢者世帯全体より10.2ポイント高い割合になっている。また、高齢者世帯全体に比べて「友人・知人・近所の人」の回答割合は6.2ポイント、「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」の回答割合は4.4ポイント高くなっている。（図49）

問50 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向

① 高齢者向け施設・事業の利用状況

【図50① 高齢者向け施設・事業の利用状況（世帯比較）】

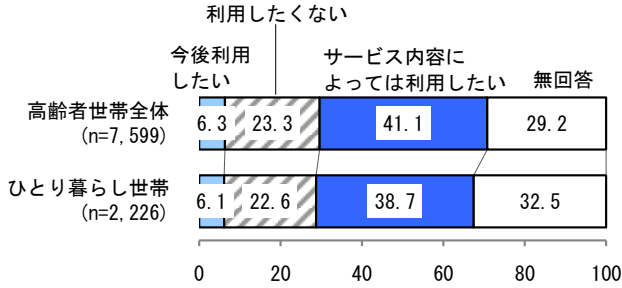


ひとり暮らし世帯の回答者の[高齢者向け施設・事業の利用状況]について、「利用したことがある (している)」の回答割合は、「(1)老人憩の家」と「(3)介護予防ポイント事業」は高齢者世帯全体より高くなっている。(図50①)

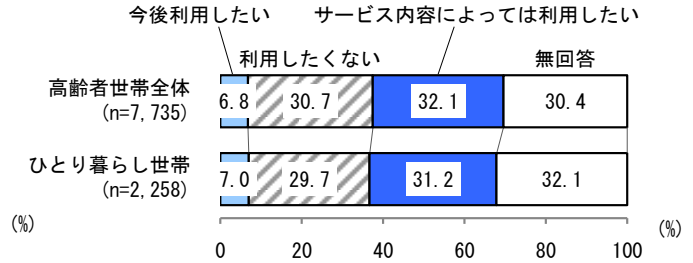
②高齢者向け施設・事業の利用意向

【図50② 高齢者向け施設・事業の利用意向（世帯比較）】

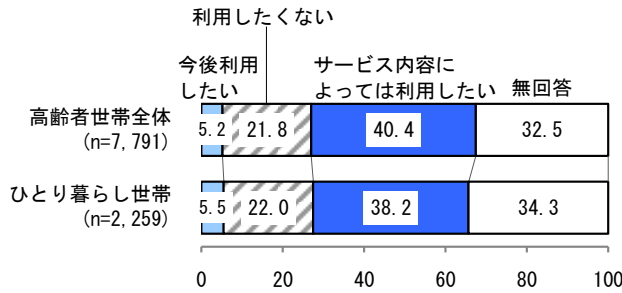
(1) 老人憩の家



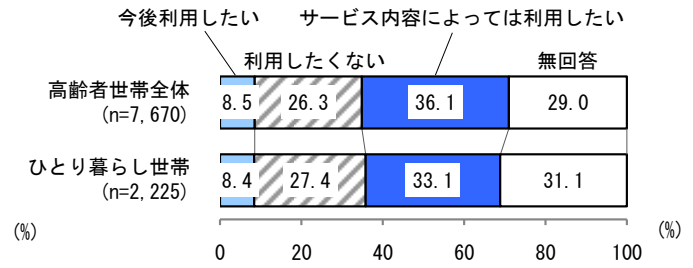
(2) シルバー人材センター



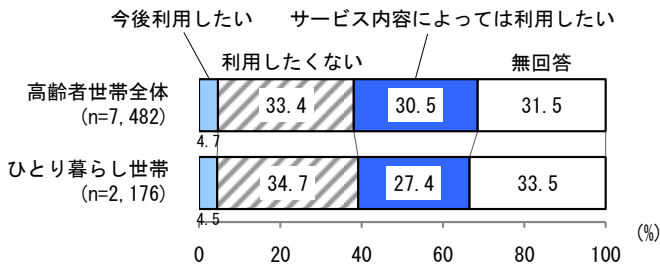
(3) 介護予防ポイント事業



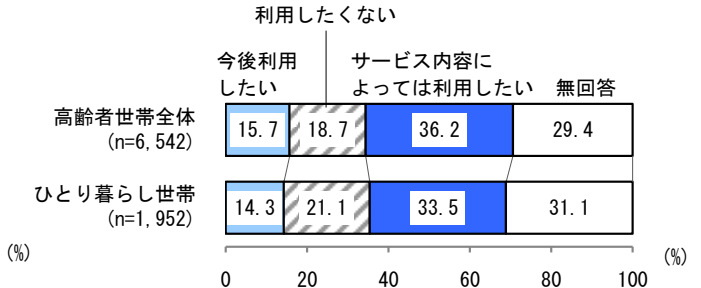
(4) 生涯学習センターの高齢者向け講座



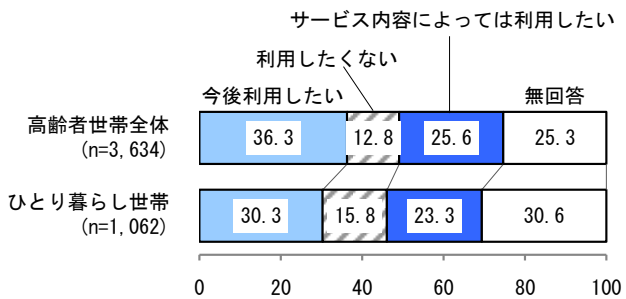
(5) 小学校の生涯学習ルーム事業



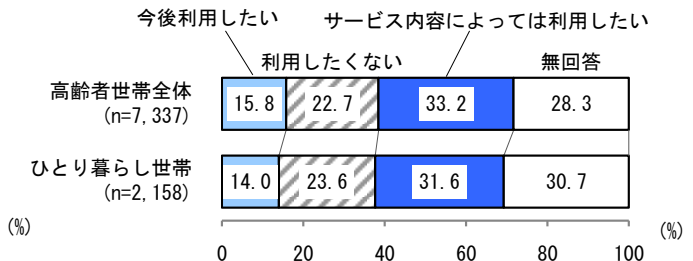
(6) 市立文化施設等敬老優待



(7) 敬老優待乗車証



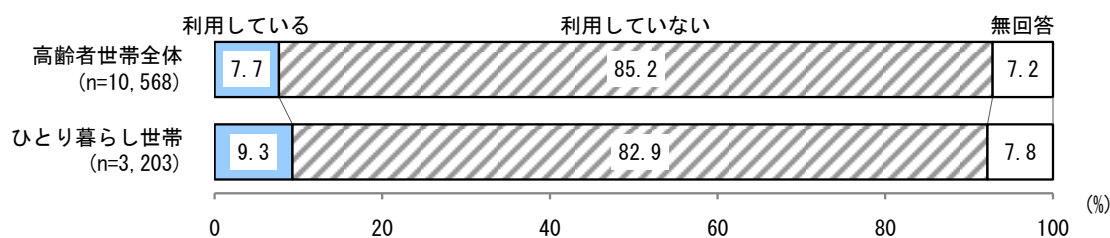
(8) 市立スポーツ施設の高齢者割引



ひとり暮らし世帯の回答者の[高齢者向け施設・事業の利用意向]について、「今後利用したい」の回答割合は、“(2)シルバー人材センター”と“(3)介護予防ポイント事業”が高齢者世帯全体より高い割合になっている。(図50②)

問51 老人福祉センターの利用状況

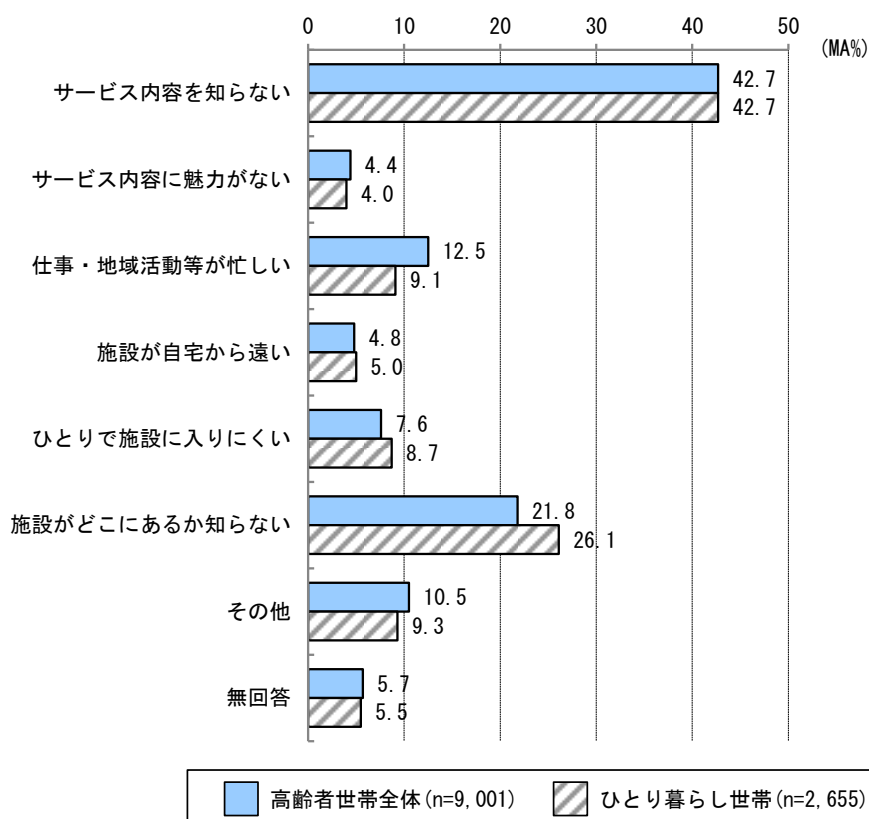
【図51 老人福祉センターの利用状況（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[老人福祉センターの利用状況]については、「利用している」が9.3%で、高齢者世帯全体より1.6ポイント高い割合になっている。(図51)

問51-1 老人福祉センターを利用していない理由

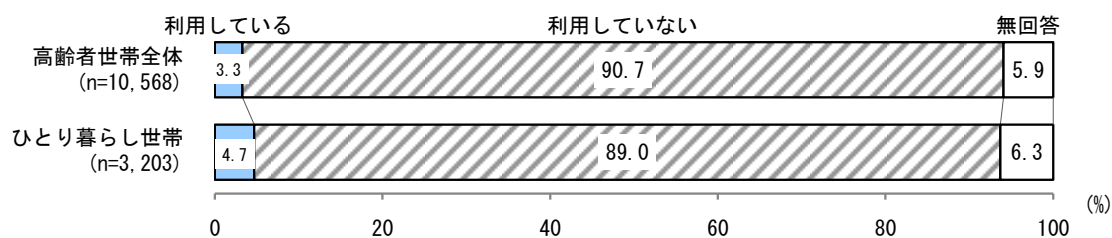
【図51-1 老人福祉センターを利用していない理由（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[老人福祉センターを利用していない理由]については、「サービス内容を知らない」が42.7%で最も多く、高齢者世帯全体と同率となっている。これに次いで、「施設がどこにあるか知らない」が26.1%で、高齢者世帯全体より4.3ポイント高い割合になっている。(図51-1)

問52 高齢者入浴利用料割引事業の利用状況

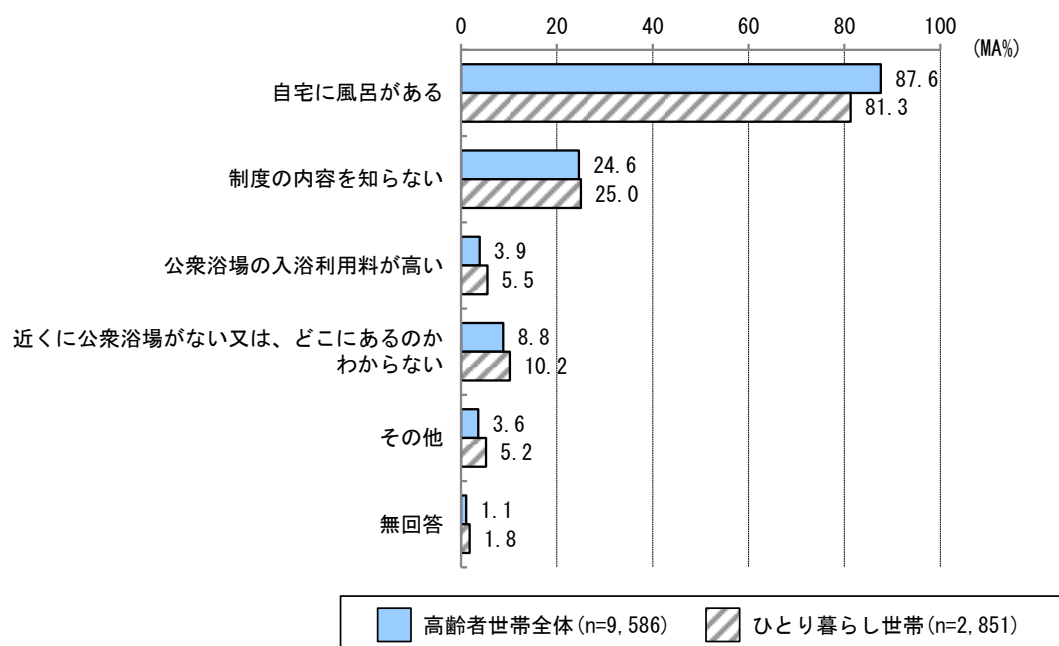
【図52 高齢者入浴利用料割引事業の利用状況（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[高齢者入浴利用料割引事業の利用状況]については、「利用している」が4.7%で、高齢者世帯全体より1.4ポイント高い割合になっている。(図52)

問52-1 高齢者入浴利用料割引事業を利用していない理由

【図52-1 高齢者入浴利用料割引事業を利用していない理由（世帯比較）】



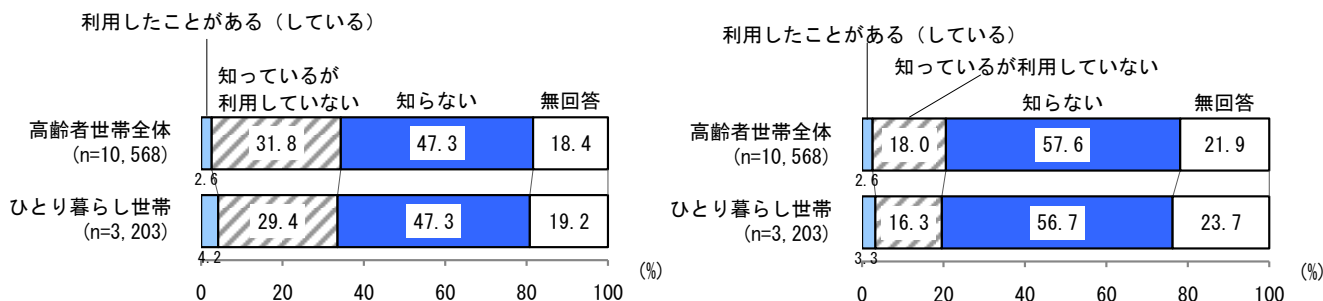
ひとり暮らし世帯の回答者の[高齢者入浴利用料割引事業を利用していない理由]については、「自宅に風呂がある」が81.3%で最も多いが、高齢者世帯全体より6.3ポイント低い割合になっている。(図52-1)

問53 高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況・意向

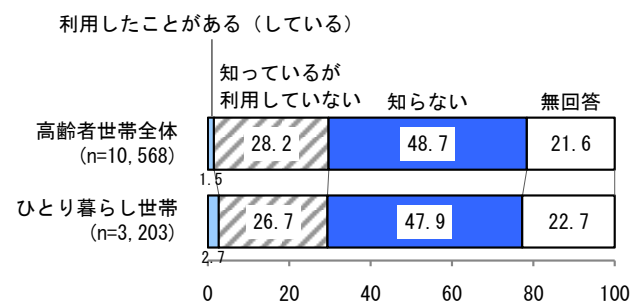
① 高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況

【図53① 高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況（世帯比較）】

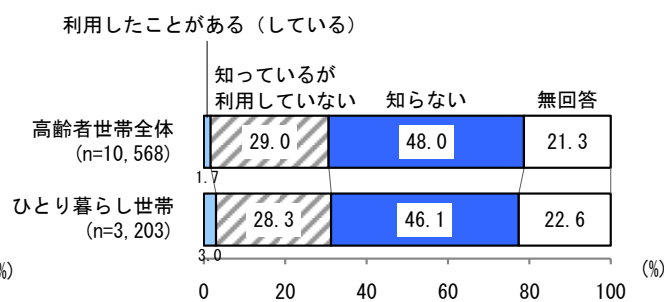
(1) 食事の配食サービス（大阪市生活支援型食事サービス） (2) 日常生活用具給付事業



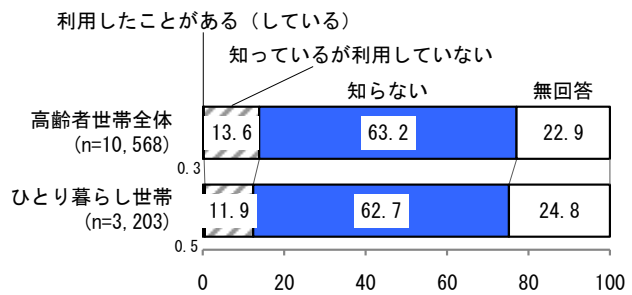
(3) 緊急通報システム



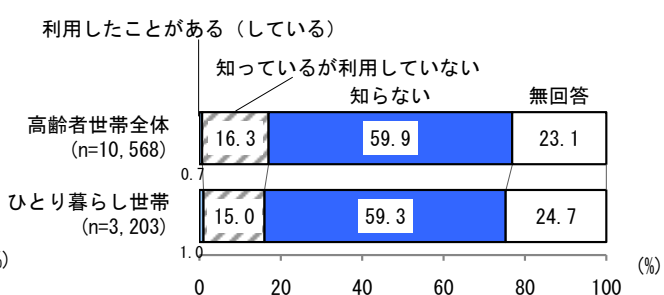
(4) ごみの持ち出しサービス



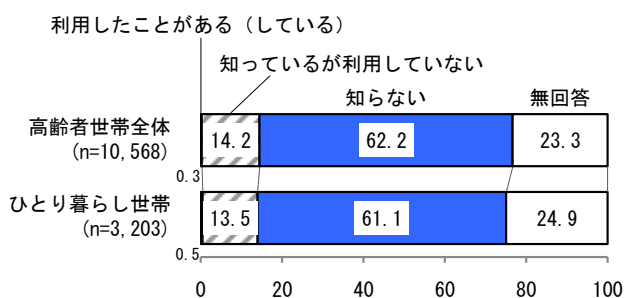
(5) 認知症高齢者見守りメール（認知症高齢者見守りネットワーク事業）



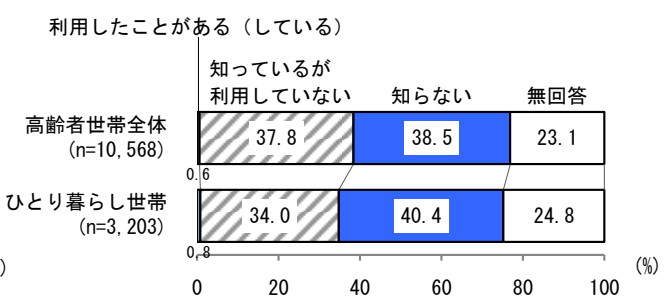
(6) 見守り相談室による地域の見守り活動の支援



(7) あんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業）



(8) 成年後見制度

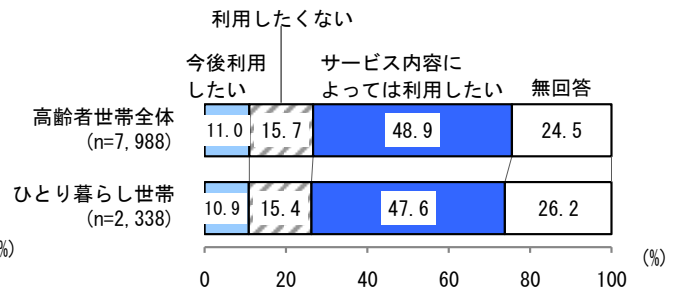
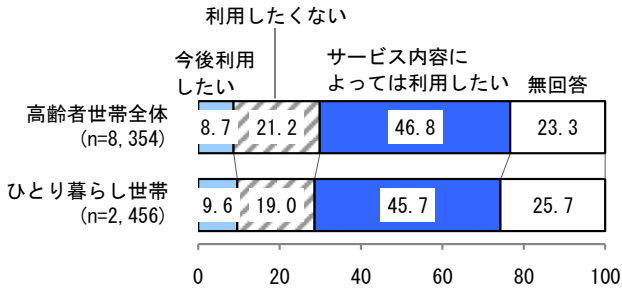


ひとり暮らし世帯の回答者の[高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況]について、「利用したことがある（している）」の回答割合は、いずれのサービスも高齢者世帯全体より高い割合になっている。（図53①）

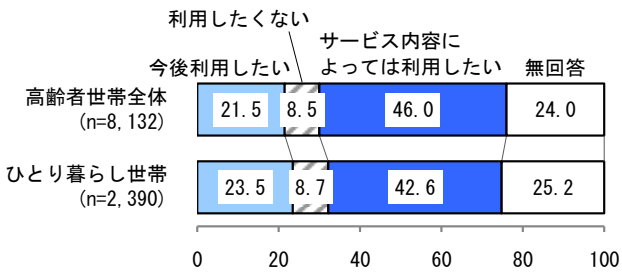
②高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向

【図53② 高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向（世帯比較）】

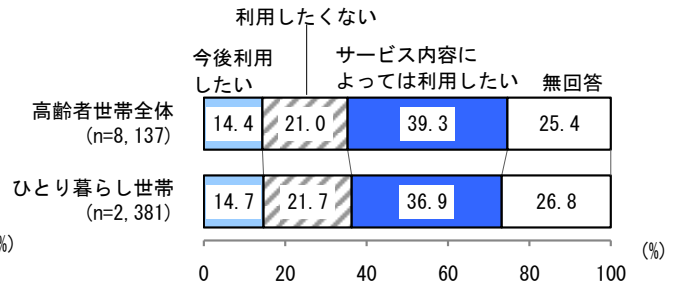
(1) 食事の配食サービス（大阪市生活支援型食事サービス） (2) 日常生活用具給付事業



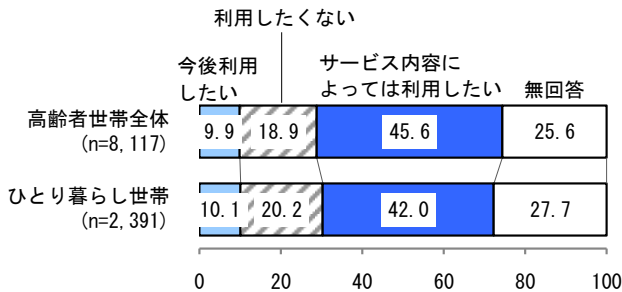
(3) 緊急通報システム



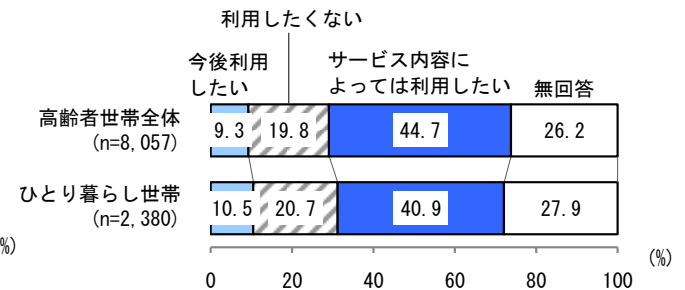
(4) ごみの持ち出しサービス



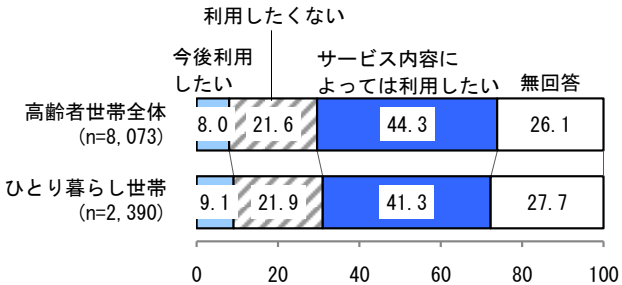
(5) 認知症高齢者見守りメール（認知症高齢者見守りネットワーク事業）



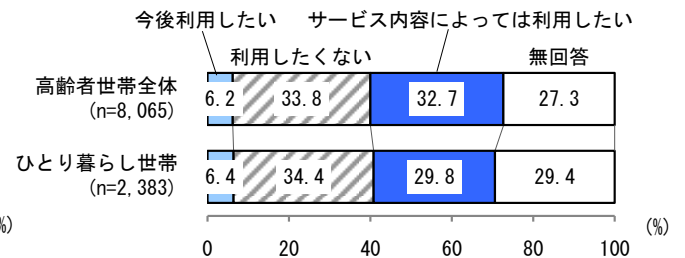
(6) 見守り相談室による地域の見守り活動の支援



(7) あんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業）



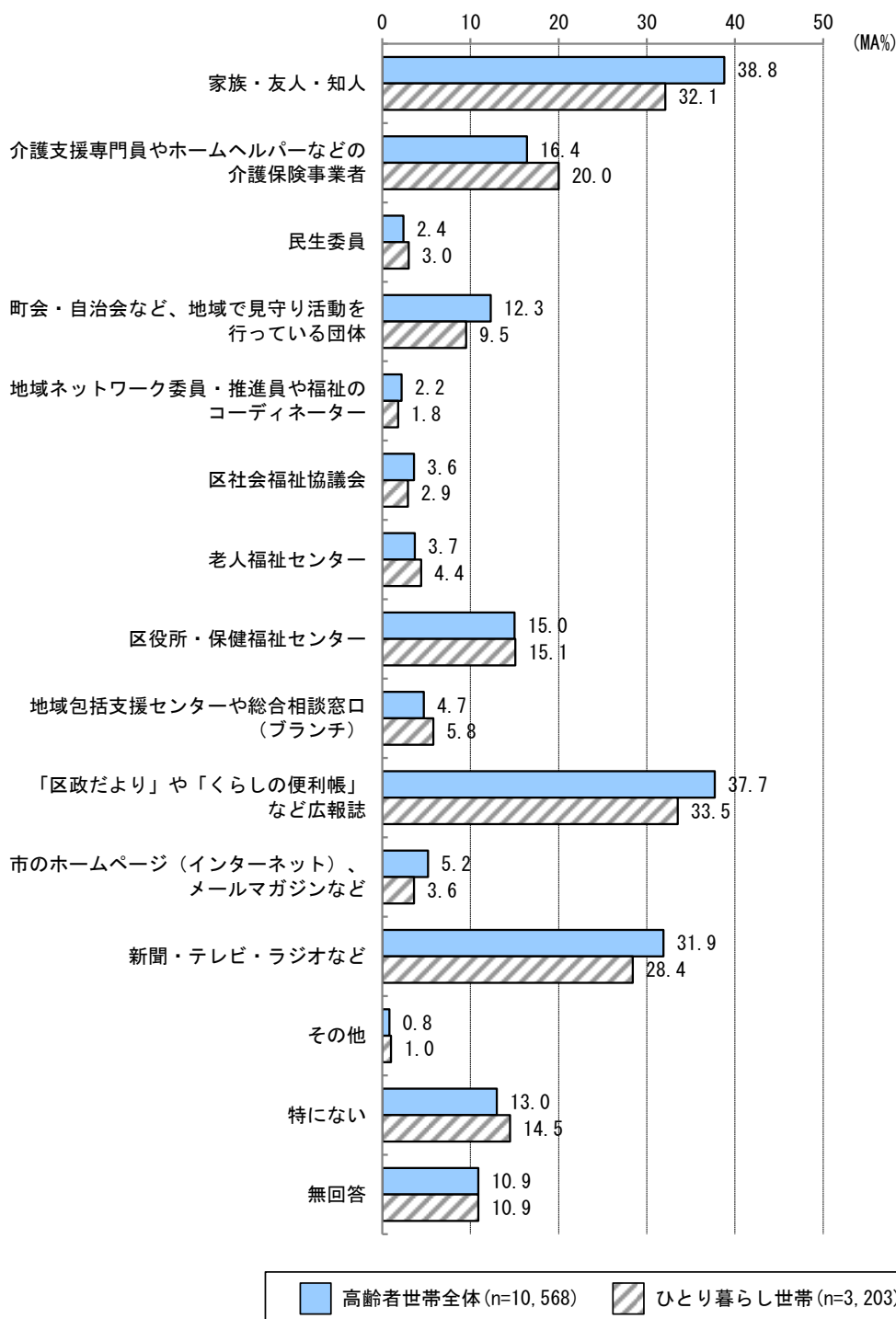
(8) 成年後見制度



ひとり暮らし世帯の回答者の[高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向]について「今後利用したい」の回答割合は、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。(図53②)

問54 サービス情報の取得方法

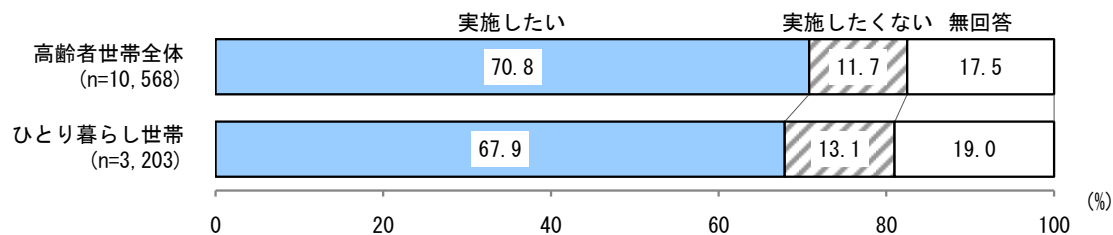
【図54 サービス情報の取得方法（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[サービス情報の取得方法]については、「区政だより」や「くらしの便利帳」などの広報誌が33.5%で最も多いが、高齢者世帯全体より4.2ポイント低い割合になっている。これに次いで、「家族・友人・知人」が32.1%で、高齢者世帯全体より6.7ポイント低い割合になっている。また、「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業」は20.0%で、高齢者世帯全体より3.6ポイント高い割合になっている。（図54）

問55 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向

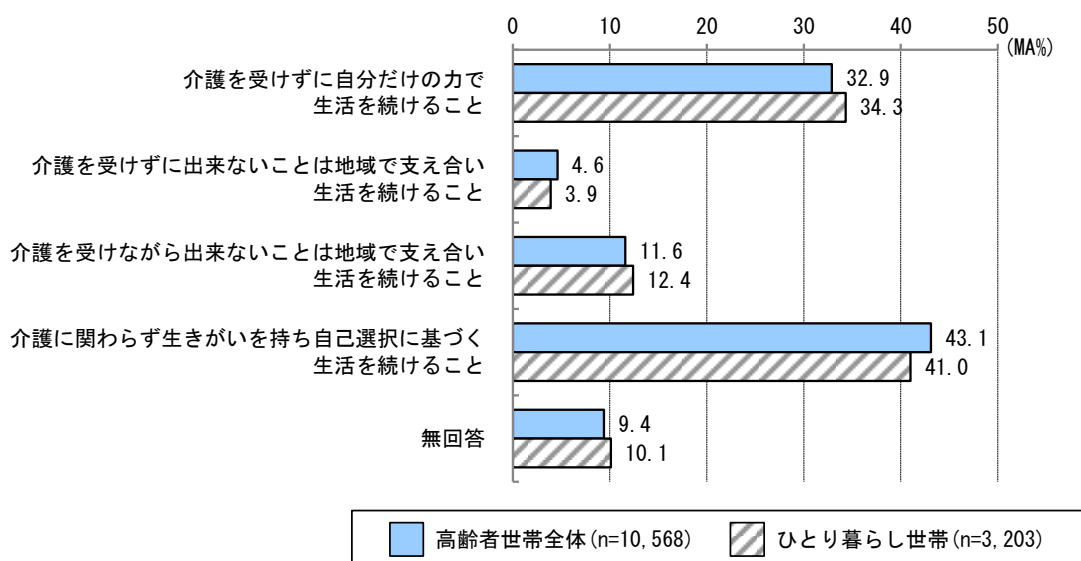
【図55 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向]については、「実施したい」が67.9%を占めているが、高齢者世帯全体より2.9ポイント低い割合になっている。(図55)

問56 住み慣れた地域での自立した生活に対する見解

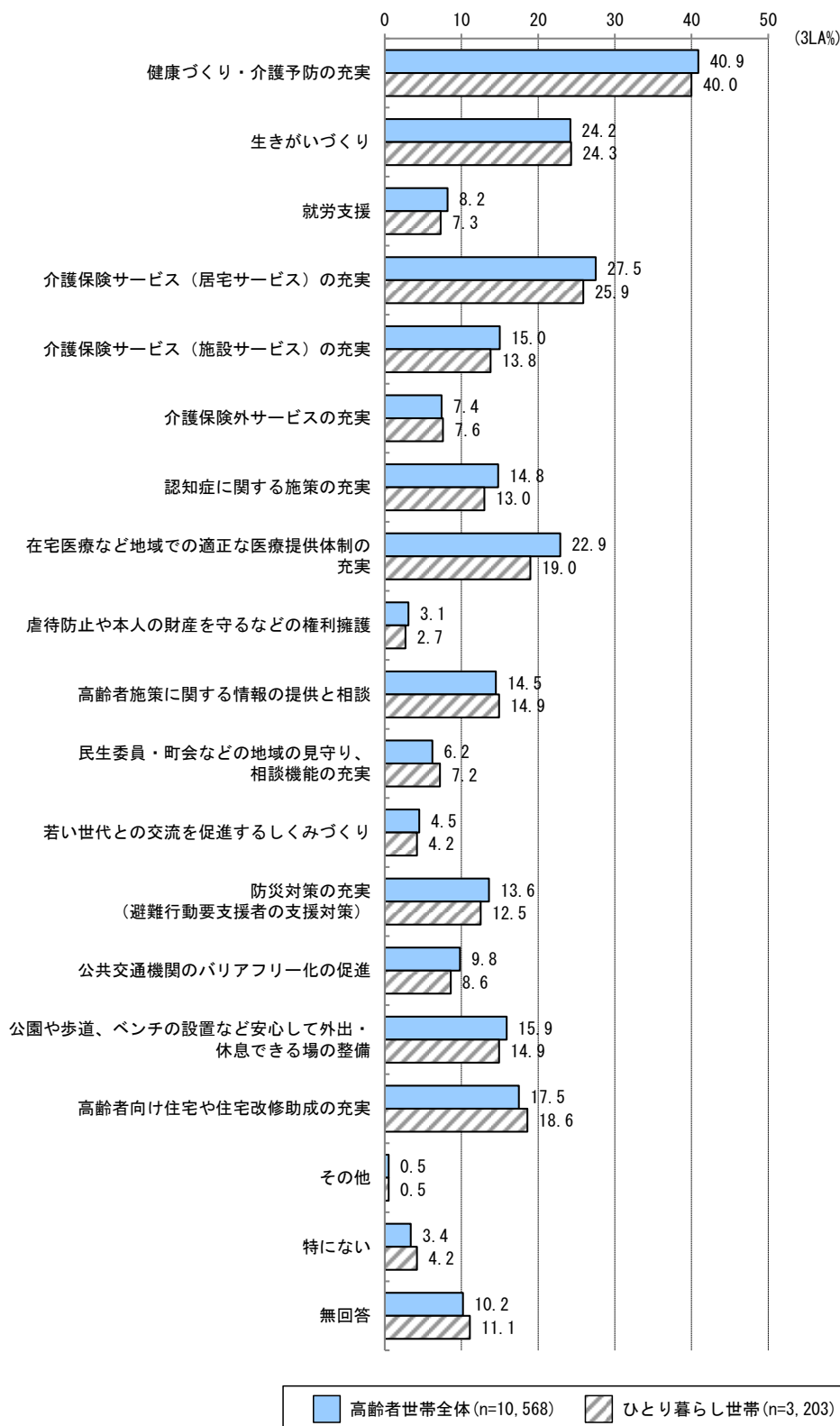
【図56 住み慣れた地域での自立した生活に対する見解（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[住み慣れた地域での自立した生活に対する見解]については、「介護に関わらず生きがいを持ち自己選択に基づく生活続けること」が41.0%で最も多いが、高齢者世帯全体より2.1ポイント低い割合になっている。(図56)

問57 重点を置いてほしい高齢者施策

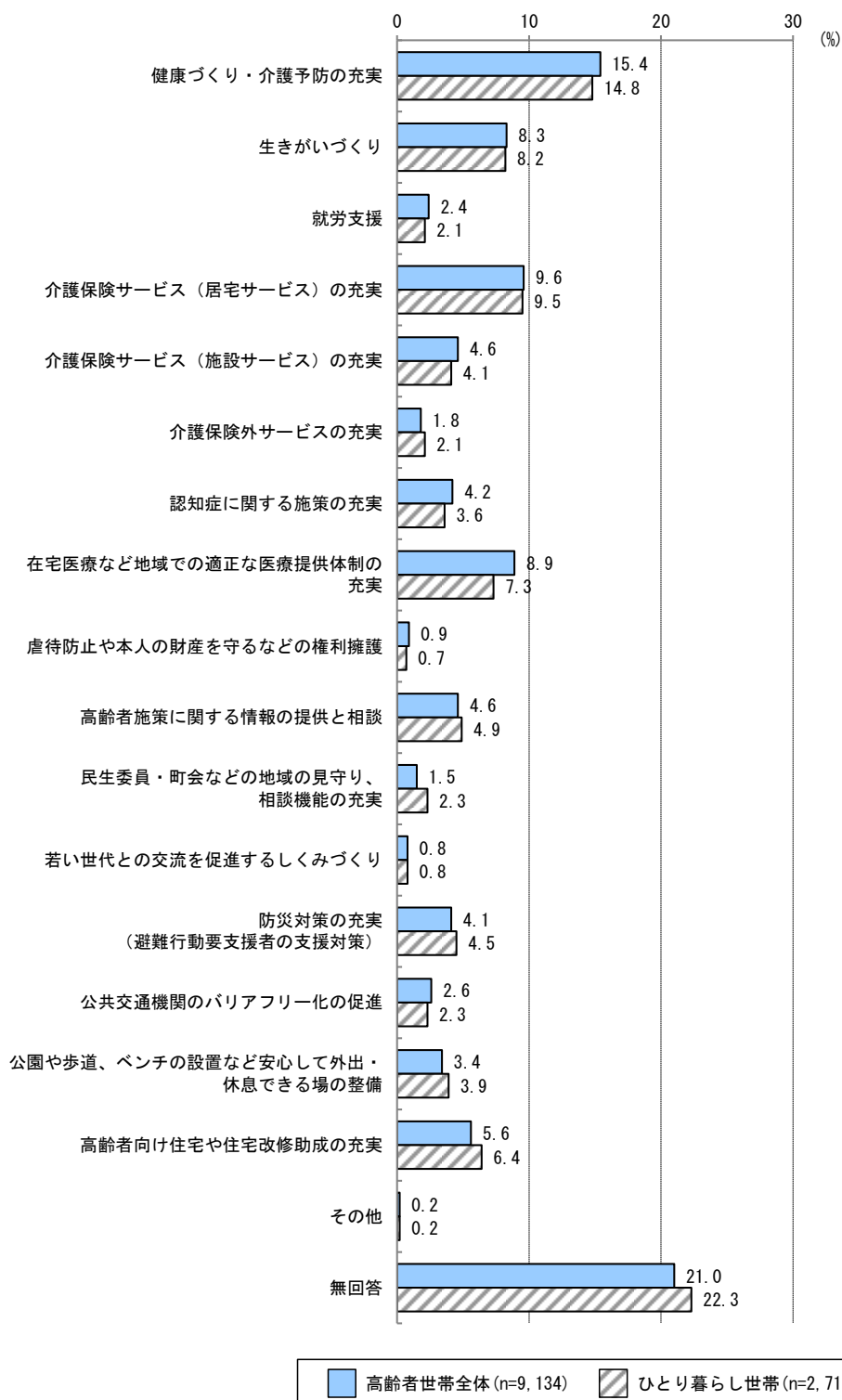
【図57 重点を置いてほしい高齢者施策（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[重点を置いてほしい高齢者施策]については、「健康づくり・介護予防の充実」が40.0%で最も多いが、高齢者世帯全体よりやや低い割合になっている。また、「高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実」は18.6%で高齢者世帯全体より1.1ポイント高い割合になっている。(図57)

付問57 特に重点を置いてほしい高齢者施策

【付図57 特に重点を置いてほしい高齢者施策（世帯比較）】



ひとり暮らし世帯の回答者の[特に重点を置いてほしい高齢者施策]については、「健康づくり・介護予防の充実」が14.8%で最も多く、次いで「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」が9.5%、「生きがいつくり」が8.2%となっている。これに続く、「在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実」は7.3%で、高齢者世帯全体より1.6ポイント低い割合になっている。（付図57）

